

日本体育大学スポーツ文化学部 設置の趣旨等を記載した書類

目 次

1. 設置の趣旨及び必要性	1
(1) 日本体育大学の沿革	1
(2) 設置の趣旨	2
(3) 設置の必要性	4
①スポーツを通じた国際相互理解の促進	4
②スポーツによる国際協力援助	6
③日本の武道を理解し海外への普及を推進できる人材の育成	6
④国際社会においてスポーツによる国際協力支援と国際交流を推進する人材の育成	7
(4) 養成する人材	8
①武道教育学科	8
②スポーツ国際学科	8
(5) 組織として研究対象とする中心的な学問分野	9
(6) 社会のニーズ	9
①スポーツによる国際協力援助や国際開発のニーズ	9
②海外における武道指導者派遣のニーズ	10
③スポーツを通じた国際交流のニーズ	11
2. 学部、学科の特色	11
(1) 武道教育学科の特色	12
(2) スポーツ国際学科の特色	12
3. 学部、学科の名称及び学位の名称	12
4. 教育課程の編成の考え方及び特色	13
(1) 体系的な教育課程の編成について	13
(2) 各科目区分の科目構成等について	15
①学部共通科目	15
②学部専門科目（理論）	16
③学部専門科目（体育実技）	16
④学科基礎科目	16
⑤学科専門科目	16
a 武道教育学科	16
b スポーツ国際学科	17
(3) 科目の対応関係について	17
a 武道教育学科	18
b スポーツ国際学科	19
(4) 必選の別の構成等について	20

(5) 履修順序（配当年次）の考え方等について	21
(6) 教養教育の実施方針について	21
(7) 教養教育の具体的工夫について	22
5. 教員組織の編成の考え方及び特色	23
(1) 教員組織	23
(2) 教員の配置について	23
6. 教育方法、履修指導方法及び卒業要件	23
(1) 授業の内容に応じた授業の方法について	23
(2) 授業方法に適した学生数について	25
(3) 配当年次の設定について	25
(4) 卒業要件について	26
(5) 単位の実質化について	26
7. 施設、設備等の整備計画	28
(1) 校地、運動場等	28
①東京・世田谷キャンパス	28
②横浜・健志台キャンパス	28
③校外施設	29
(2) 校舎等施設の整備計画	29
(3) 図書等の資料及び図書館の整備計画	29
①図書館閲覧室、閲覧席数、レファレンス・ルーム、検索手法等	29
②図書等の整備	30
③デジタルデータベース、電子ジャーナル等の整備	30
④他の大学図書館等との協力	30
8. 入学者選抜の概要	30
(1) アドミッションポリシー	30
(2) 選抜方法	31
(3) 選抜体制	33
9. 取得可能な資格	34
(1) 教育職員免許状資格（一種・保健体育）	34
(2) 日本体育協会公認指導者資格	34
10. 実習の具体的計画	34
ア 実習先の確保の状況	34
イ 実習先との契約内容	35
ウ 実習水準の確保の方策	35
エ 実習先との連携体制	36
オ 実習前の準備状況	36
①感染予防対策	36

②保険等の加入状況	36
カ 事前・事後における指導計画	36
キ 教員及び助手の配置並びに巡回指導計画	36
ク 実習施設における指導者の配置計画	37
ケ 成績評価体制及び単位認定方法	37
1 1. 企業実習や海外語学研修等の学外実習を実施する場合の具体的計画	37
1 2. 多様なメディアを高度に利用して、授業を教室以外の場所で履修させる場合の具体的計画	37
1 3. 管理運営	38
(1) 学部長会	38
(2) 全学教授会	38
(3) 学部教授会	38
(4) その他	39
1 4. 自己点検・評価	39
(1) 実施体制	39
(2) 実施方法	40
(3) 評価項目	41
(4) 結果の公表	42
(5) 結果の活用	42
1 5. 情報の公表	43
1 6. 教育内容等の改善を図るための組織的な取組	43
1 7. 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制	45
(1) 本学における就業力育成の基本的な考え方	45
(2) 本学の就業力育成の取組み	45
(3) 全学的な就業力育成を支える体制	46

設置の趣旨等を記載した書類

1. 設置の趣旨及び必要性

(1) 日本体育大学の沿革

日本体育大学の設立母体である学校法人日本体育大学(平成 24(2012)年 4 月「日本体育会」から改称)は、明治 24(1891)年 8 月「体育会」の名の下に国民体育の振興を使命として創立された。以来、日本の体育の普及及びスポーツの発展を担う根幹的な組織としての役割を担ってきた。

翌年 6 月この体育会を「日本体育会」と改称し、明治 26(1893)年 3 月に本学の前身となる日本体育会体操練習所を設置して本格的に体操教員養成に着手し、また、明治 32(1899)年 11 月に国庫補助金を交付(向後 5 年)され、文部省直轄学校となる。明治 33(1900)年 5 月にはこの体操練習所を「日本体育会体操学校」と改称し、文部大臣の監督を受ける各種学校となった。こうして、現在まで続く体育教員養成機関の礎が築かれた。

昭和 16(1941)年 4 月に当該体操学校は「日本体育専門学校」へと昇格を果たした。戦後、本学は「民主体育」振興の推進へと転換を図り、昭和 24(1949)年 4 月に日本体育大学として設置が認可され、「体育学部体育学科」を開設した。以降、社会や時代の要請に対応すべく、昭和 37(1962)年 4 月に「健康学科」、昭和 40(1965)年 4 月には「武道学科」、そして昭和 50(1975)年 4 月には「社会体育学科」を開設し、体育・スポーツの総合大学として発展してきた。本学設立の当初から試みられてきた体育教員養成については、体育学部の全学科において、中学校、高等学校一種免許状(保健体育)を取得可能なカリキュラム設計がなされ、日本全国に高い専門知識と豊かな人間性を有する体育教員を輩出している。

この間、昭和 54(1979)年 4 月には、屋外運動場等を中心とした課外活動拠点であった横浜・健志台キャンパスに健志台教学局(現学生支援センター健志台事務室)を開設することによって、2 キャンパス体制による授業を展開しているところである。

また、昭和 37(1962)年 4 月には体育研究所を、続く昭和 46(1971)年 4 月には日本体育大学専攻科を設置して、体育のみならず広くスポーツ関連分野における学術研究活動を展開していく体制が構築された。

その後、昭和 50(1975)年 4 月に日本体育大学大学院体育学研究科(修士課程)を開設し、平成 8(1996)年 4 月には本学の英文表記を NIPPON SPORT SCIENCE UNIVERSITY〔略表記：N.S.S.U.〕に変更することで、国際社会において体育・スポーツを科学的に研究する学術研究組織としての方向性を示し、平成 10(1998)年 4 月に日本体育大学大学院体育科学研究科博士課程を開設した。

その後、平成 25(2013)年 4 月には乳幼児から小学校修了段階までの児童期に焦点をあて、その心身の発達特性に応じた、体づくり、運動遊び・スポーツ、体育及び健康

等の子どものアクティブライフを支えるための関連分野についての総合的な教育研究を展開し、高い専門性を備えた社会に貢献できる人材の育成及び理論に裏付けされた実践的な教育力をもった資質の高い指導者の育成に資することを目的として平成25(2013)年4月に「児童スポーツ教育学部」を設置した。

翌平成26(2014)年4月には「深く保健、医療、福祉に関する専門的な学問の教授・研究、及び職業と社会生活に必要な教育を施し、高い倫理観に基づく人間形成を重んじ、国民の保健衛生に寄与する」とした方針を踏まえ、高度な専門知識・技術と、豊かな人間性、高い倫理観を備えた質の高い医療人を育成することが高齢社会のニーズに合致することから、保健・医療・福祉を包括する専門学部を創設することに関する慎重審議を経て、「保健医療学部」を設置した。

(2) 設置の趣旨

平成17(2005)年1月28日に出された中央教育審議会の答申(「我が国の高等教育の将来像」)には、21世紀はグローバル化が進むことで、知識に国境がなくなり、競争と技術革新が絶え間なく生まれ、また旧来のパラダイム転換も引き起こし、性別や年齢を問わない「知識基盤社会」の時代が到来するとされた。こうした知識基盤社会の展開は、同時に国際競争と国際協力が並行的に推し進められることになり、国内外の社会がより一層流動的で複雑化し、行先不透明な時代を迎えることから、相互の信頼と共生を支える基盤が必要とされ、そのために他者の文化を理解・尊重するとともに他者とのコミュニケーションの取れる力が不可欠となってくると指摘されていた。この知見はその後10年が経過する中で現実のものとなってきた。

こうした新時代の高等教育では、個性・特色をより一層明確化することの必要性が謳われており、高等教育機関において特定の専門分野の教育・研究をすることで、大学の機能別分化が図られることの重要性が指摘されている。本学では開学以来、体育・スポーツを基軸とする特定の専門分野の教育・研究を担っており、我が国の体育・スポーツに大きく貢献してきた。

平成23(2011)年8月24日に施行された「スポーツ基本法」は、スポーツに関する施策を国家戦略として推進し、スポーツ立国を実現することを目的に制定された法律であり、文部科学大臣が「スポーツ基本計画」を定めることを規定している。スポーツ基本法の制定を受けて、平成24(2012)年3月21日の中央教育審議会の答申(「スポーツ基本計画の策定について」)では、今後10年間にわたるスポーツ推進の基本方針が示され、最初の5年間に総合的かつ計画的に取り組むべき方向性について7つの施策が提示されている。その中の1つとして「オリンピック・パラリンピック等の国際競技大会の招致・開催等を通じた国際交流・貢献の推進」には、「スポーツを通じた国際的な交流や貢献は、国際相互理解を促進し、国際平和に大きく貢献するなど、スポーツは、我が国の国際的地位の向上にも極めて重要な役割を果たすものである」が、そのためにオリンピッ

ク競技大会等の招致・開催を進める必要があると述べられている。我が国では平成 32(2020)年に東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催が決定しており、これと関連して国際機関や国際競技連盟等に対するスポーツ指導者、審判員及び専門スタッフ等の人材派遣、国際交流を図ること等が方向性として示されている。さらに「スポーツを通じた国際交流及び貢献については、政府開発援助(「ODA」)等によりスポーツ指導者の派遣や関連機材供与等人的・物的な支援が行われている」現状を示した上で、今後はこれを推進し、また「訪日外国人への武道等の体験機会を設けるなど、スポーツツーリズムによる国際交流を推進する」ことが具体的施策の展開として提案されている。ここに提示されている方向性はすでに平成 22(2010)年 8 月 26 日に打ち出された「スポーツ立国戦略-スポーツコミュニティ・ニッポン-」の中で示されたものである。このようにスポーツを中核とする国際相互理解や国際交流、国際貢献は今後ますます重要な課題となってくる。また先の平成 17(2005)年 1 月 28 日の中央教育審議会の答申(「我が国の高等教育の将来像」)では、今後、大学の機能は「教育」「研究」に加えて「社会貢献」が「第三の使命」となっていく時代であるとの指摘を考えると、体育・スポーツの教育を中心とする高等教育機関においても国際支援や国際貢献といった社会貢献事業に繋がる教育のあり方が求められている時代になっていると言えよう。

上記の政策と関連して、文部科学省では 2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた国際貢献策としての「スポーツ・フォー・トゥモロー」プログラムの一環として平成 26(2014)年度からスポーツ・アカデミー形成支援事業を実施し、本学もその委託先大学として、コーチ育成者のための「スーパーコーチャー・アカデミー」を開設し、海外に向けて現場で直接指導するコーチを育成するためのコーチを養成することを目的とした事業に取り組んでいる。

さらに我が国では、独立行政法人国際協力機構で行われている JICA ボランティアとして開発途上国に長期、短期の派遣事業を行っているが、本学も当該機構と学生等を JICA ボランティアとして派遣する事業に平成 26(2014)年 8 月 6 日に合意署名し、開発途上国における体育・スポーツの普及・振興を図るとともに、大学の知見・人材を有効に活用することにより、大学の国際協力分野における人材育成に着手し始めている。加えて一般財団法人日本国際協力センター(JICE)がおこなう招聘プログラムにおいてスポーツ分野では海外から武道を中心にスポーツを実践している学生を受け入れるといった事業が展開されている。本学でも平成 26(2014)年度には、ラオスとベトナムから柔道、剣道、空手道、合気道を行っている学生 20 名を受け入れ、それぞれの種目の授業を体験受講させるとともに、同種目のクラブ活動に体験参加させて、本場の武道の技術とその精神を伝えるという活動も行っている。また平成 27(2015)年度にはモンゴル国青少年訪日団の施設見学の受け入れも行っている。

一方、本学においても独自の国際交流プログラムをこれまで展開してきた。体育学部武道学科においては平成 15(2003)年度から毎年「伝統文化交流実習」を実施し、日本の

武道をはじめとして日本舞踊や和太鼓などの発表会とワークショップなどをオーストラリア、ドイツ、ハワイ、さらに平成 27(2015)年度からはシンガポールにおいて開催し、日本の伝統的な身体運動文化に基づく交流を図ってきた。しかしながら、昨今のグローバル化の加速に伴い、このような活動だけでは国際社会の要請に十分応えることができなくなってきたことも事実である。そのためスポーツ活動を基軸に海外との交流を促進するような教育組織のあり方やそのカリキュラムが検討されなければならない時期を迎えようとしている。

以上のように、我が国のスポーツに関わる高等教育機関においては、スポーツを中核に据えた他者との共生のための国際相互理解や国際交流、国際支援、国際貢献が求められており、その方向性としては、1) スポーツを通じた国際相互理解をベースとして、2) 開発途上国を中心とした「スポーツの ODA」を支える人材の育成が望まれているとともに、3) 我が国の固有の「道」の精神性を持つ武道とそれを包括する芸道についての正しい理解とその普及を行い、4) さらにスポーツ分野における人的、物的な国際交流を推進する人材の育成が急務となっている。

加えて、このような社会の要請に応えることが、平成 23(2011)年 1 月 31 日に出された中央教育審議会の答申（「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」）で提言されているような高等教育におけるキャリア形成教育にも繋がり、専門的な職業人の排出にも資すると考えられる。

以上のような提言並びにこれまで本学が取り組んできた活動に鑑み、本学ではスポーツ文化学部を設置する。

(3) 設置の必要性

スポーツ文化学部では、上記の中央教育審議会の提言並びに文部科学省の施策、さらに本学独自のこれまでの活動を踏まえ、次のような視点から教育・研究を展開し、今日的課題や社会の要請に応える人材の育成に資する。

① スポーツを通じた国際相互理解の促進

現在、スポーツの活動では人種や宗教の違いを認めていく取り組みがなされている。この背景には、スポーツ選手の国境を越えた往来や国際競技大会に参加する国家の増加などが挙げられる。例えば、スポーツ選手の人種差別問題は、日本国内のサッカー J リーグにおいても起こっている。平成 26(2014)年にはスタジアムの入り口にサポーターが「Japanese Only」の横断幕を掲げるという差別行為を行い、その結果、J リーグはこのチームに対して無観客試合の処分を下した。この問題を受けて J リーグでは、差別撲滅に向けた 5 年間の行動計画をつくり、毎試合スタジアム内で人権啓発のパネルを展示して、サポーターへ差別撲滅のための署名を呼びかけるとともに、観戦ルールの統一禁止事項に、「スタジアム内での差別的な言動」を加えたのである。しかし、その 4 か月後にはサポーターが外国人選手に、バナナをかざすという差別行

為が行われ、さらに平成 27 (2015) 年にはブラジル選手のツイッター・アカウントに人種差別の書き込みが行われており、いまだに人種差別を根絶することができない状況にある。また、海外においても人種差別問題は 1970 年代以降から表面化しており、UEFA、FIFA、各国協会は差別撲滅に取り組んできた。UEFA と欧州サッカーファミリーは、サッカー界からの人種差別の撤廃を目指して、平成 25 (2013) 年からは厳罰をもって対処する方針が示されるとともに、その実施が図られている。

一方、宗教と関連する問題の一つは、イスラム教徒女性のヒジャブの受け入れに関するものである。インドネシア、パキスタン、インド、バングラディッシュ、トルコ、エジプト、イラン、ナイジェリアなどの国家に代表されるイスラム教徒の女性は、ヒジャブと呼ばれる頭を覆う被り物をしており、これがスポーツを行う上で様々なスポーツ種目のルールに抵触するという問題が起こっている。しかし、こうした状況に対応すべくサッカーをはじめとするいくつかのスポーツ種目の中ではルール改正が行われ、イスラム教徒の女性の大会出場を可能にさせている。また、こうした宗教的な問題を考えると、イスラム教徒の選手を受け入れるに当たって「ハラール食品」の準備をしたり、試合時間を「サラート（イスラム教徒の礼拝）」と重ならないようにする。さらには、「ラマダン」なども考慮して大会の運営を考えていく必要がいずれは出てくることになる。

ここに例示したようなスポーツの中にみられる宗教の理解は、スポーツの普及発展、また交流には欠くことのできない重要な要件となる。

さらに、このような人種や宗教の問題ほど注目されているわけではないが、文化的他者を理解するために重要であるとされているのが、自分たちとは異なる存在を容認して、自文化の価値体系や尺度でのみ理解するのではなく、他者の文化を相対的に捉えなおすという倫理的態度であるとされている。このような態度を培っていくために、他者文化の実践をとおして、それを感じ取りながら少しずつ理解を深め、身体化していく方法が有効であることは、すでに人文社会科学の研究領域において自明のこととされている。歌や踊りが異文化理解に果たす役割は大きい、これと同じように民族（伝統）スポーツを実践することも異文化理解には有効な方法であるということである。なぜなら、民族スポーツの中には当該民族社会の価値観や民族固有の認識などが内包されており、この実践を通して民族文化を学ぶ契機となるからである。民族スポーツを通じた文化的他者理解は、スポーツを基軸とする教育には必須となる。そのための方法として一つ考えられることは、民族社会で行われているスポーツについて、現地の言語と実践方法を用いながら、必要に応じて日本語による文化的な解説を加えるような学びの実践経験がとても効果的なものとなるということである。こうした経験が真摯に異文化と向き合う姿勢を作り上げ、文化的他者を理解するための礎にもなるわけである。

② スポーツによる国際協力援助

本学はこれまで多くの体育教員を養成するとともにスポーツ指導者も育成してきた。この中には青年海外協力隊（JICA）で開発途上国へ派遣された者も多数おり、これまで JICA 隊員として海外派遣された本学出身の隊員実績は、平成 27(2015)年までで出身大学のうちで上位 8 番目の派遣者数となっている。

これまでの短期ボランティアには、平成 25(2013)年度には、カンボジア、モルディブ、モロッコ、ブラジルに 28 名の在学学生を派遣している。平成 26(2014)年になって、本学は国際協力機構との間で JICA ボランティアとして派遣する事業に合意署名した。平成 26(2014)年度には、ブラジル、カンボジアに 21 名の在学学生を派遣し、平成 27(2015)年度にはブラジル、カンボジア、さらにネパールに 19 名の学生を派遣しているところである。このような短期ボランティアは、大学在学時代に体験することで、卒業後の JICA ボランティアを現実的にイメージ出来るようになるとともに、卒業後の派遣においても、より有意義な活動ができるはずである。そこで、こうした短期ボランティアの経験を積極的に推進するとともに、その活動が学生にとっても授業単位として認定されるようになれば、大学教育と連動した活動となる。新たな教育システムの構築によって、JICA ボランティアは学生にとって、自分自身の人生をデザインするにあたってのとても重要な活動となると思われる。

ところで、こうした国際協力の推進事業の促進の背景には、「スポーツ・フォー・トゥモロー」のプログラムを 2020 年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会で終了させるのではなく、そのレガシーを後世に伝えることを本学が意図しながら国際協力支援に力を入れていく必要性を感じているからである。他方で JICA ボランティアの隊員の派遣数は、今後も増加することが予測される。このような政府開発援助活動(スポーツの ODA) 以外にも、NGO 活動においてスポーツ活動が開発援助アクターになるケースも多々あり、こうしたスポーツによる海外支援の専門家の需要は今後ますます高まるものと思われる。

③ 日本の武道を理解し海外への普及を推進できる人材の育成

日本の武道に関する様々な知見を海外に正確に発信し、伝達していくことは非常に重要なことである。その必要性は、1964 年の東京オリンピック競技大会以降に体育系大学を中心に設立認可された武道学科の設置に見て取ることができるが、日本の武道を国内だけでなく、海外にも発信することを意図して認可された高等教育機関は、昭和 54(1984)年に千葉県勝浦市に国際武道大学が開設されたのがその始まりであろう。しかし、新しい時代を迎えて武道に対する需要が高まっていることも事実であり、それは JICA の武道専門家の募集数の安定的な供給の必要性や国内にあっては平成 24

(2012) 年度から全国の中学校において完全実施を目指した武道の必修化によって、安全性を確保しながら武道を正しく指導・教授(安全管理)できる技量をもった指導者の養成が急務となっている。この背景には、日本武道の技術的な側面の伝達指導も

さることながら、武道全般に通底する「道」の精神を十分に伝えることのできる人材が求められているからに他ならない。特に海外派遣においては、「武道」の指導に当たることは当然のことではあるが、それぞれに赴任した地域社会の文化を理解しつつ、その地域に合わせた武道の指導、すなわち「武道教育」が必要となってくる。つまり、世界中の様々な地域において、武道の実践を通して指導・教育する必要性があるということなのである。

次に、国外から直接日本の武道を学びに来る外国の選手たちも増加しており、武道種目と交流を持つために本学を訪問した外国籍の選手団は後を絶たない。

さらに、武道の専門的な知識の必要性については、次の2つの事例を挙げて説明する。一時期、韓国の大韓剣道会会長が、剣道は韓国起源であるとする発言をし、さらにインターネット上でも韓国起源説が流布されるといったことが起こったが、当初、全日本剣道連盟は敢えて反論を行わなかった。しかし、韓国起源説の記述が様々な場面で見られるようになって、全日本剣道連盟では公式ウェブサイトにおいて、剣道が日本の独特な文化の中から生まれたものであるとの声明を発表するに至っている。また、2つ目の事例として、東南アジアの複数の国々で普及している空手や合気道では、日本において初段を取得すると当該諸国に戻った後に4段を名乗って指導に携わるといった行為が横行しており、実力と段位の乖離が顕著に見られる場合がある。ここに挙げた2つの事例は、日本の伝統文化である武道が海外に歪曲して伝えられ、そのことによって、我が国の地位そのものを毀損することにもなりかねない例として捉えることができる。日本の武道が世界各国に広がりを見せることで、様々な問題が生まれていることは事実であり、それらはしばしば日本武道学会などでも議論の対象となっている。

上記に象徴される問題点を克服していくための最も有効的な方法は、日本の武道を正確に伝え、また指導できる人材を育成して、海外に派遣していくことなのである。このような活動は我が国の国際的な地位の向上にも大きな役割を果たすものと思われる。

④ 国際社会においてスポーツによる国際協力支援と国際交流を推進する人材の育成

スポーツを通じて我が国の地位の向上を図るためには、上述した取り組みの他に、トップアスリートの育成はもちろんのこと、国際競技連盟（IF）などの国際団体で働く人材や、各国にあるスポーツ関連団体や関連企業などで働くことができる人材の育成もまた必要となってくる。さらに、国内にあってスポーツを通じて国際交流を促進できる人材のポストが各スポーツ団体にも用意されつつあるので、そのような人材の育成も必要となる。また、今後は2020年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会を迎えることで、各自治体レベルにあって海外の姉妹都市との間でのスポーツ交流が盛んになり、それを推進していく人材が必要とされる状況が想定される。

文部科学省が刊行した白書『学制120年史』の第3編「教育・学術・文化・スポー

「スポーツの進展と新たな展開」の第11章には「教育・文化・スポーツの国際交流」について記述されているが、ここには昭和39(1964)年の東京オリンピック競技大会を開催したことによって、スポーツ交流の持つ意義を広く国民に訴えることができるようになったとして、各種の国際的競技大会への参加や開催を通じて積極的に国際交流をはかることになったという歴史が綴られている。また、このようなスポーツ競技大会による国際交流に加えて、近年では市民の参加による各種スポーツ交流やスポーツに関する相互研修、研究協力といった多様な形の交流が行われるようになっている。昭和60(1985)年度からは「アジア地域スポーツ交流事業」が実施され、平成3(1991)年度からはこの事業が「生涯スポーツ国際交流事業」として、アジア諸国以外の開発途上国等への拡充も図られるようになった。さらに「スポーツ・フォー・トゥモロー」プログラムが始動したことによって、我が国は本格的にスポーツによる国際貢献への取り組みが加速している。

以上のことから、今後は上記の事業を推進していく人材の養成が極めて重要となってくる。また、こうした人材の育成には、スポーツを熟知していることはもちろんであるが、多少なりとも外国語によってコミュニケーションの取れることが必要である。そのためには外国語のトレーニングの場を増やすことが効果的である。授業カリキュラムだけではなく、授業時間外においても外国語のトレーニングの場を提供することである。このような教育環境を提供することで、十分に国際貢献に資する人材の育成を果たすことができるものと考えられる。

(4) 養成する人材

① 武道教育学科

伝統に由来する体系化された「我が国固有の身体運動文化」である武道（柔道、剣道、相撲、空手、合気道、薙刀、弓道、少林寺拳法）あるいは武道と関連性のある日本舞踊や古来より民俗行事の中に伝承されてきた民俗舞踊、あるいは和太鼓などの伝統芸能を国内外において、その実践的な技術や理論、また日本の「道」の精神を理解し、これを指導・教育する能力を身に着けると共に、武道や芸道を通じて国際交流や社会貢献のできる人材を育成する。また学校教育機関において日本の身体運動文化や精神文化を教育できる人材、さらに国家、社会の平和と繁栄に寄与できる人材の育成を図る。

② スポーツ国際学科

国際社会において日本の精神文化に立脚したスポーツ指導を実践することができ、さらにスポーツを通じた国際協力・国際交流・開発援助を促進するための知識と技術を持つとともに、国内外においてスポーツ活動を基盤とする社会貢献を果たすことのできる人材の育成を図る。また、国際競技連盟や国内外のスポーツ関連企業などにおいて活躍できる人材に加えて、国内の自治体でスポーツを中核とする活

動に従事できる人材の育成も併せて行う。

(5) 組織として研究対象とする中心的な学問分野

日本体育大学は長きにわたり教育職員（中学・高等学校保健体育教諭）の人材育成を担ってきたことから「体育学（スポーツ科学）」の学問領域を中心としてきた。新たな学部もスポーツを対象に研究を行うという意味においては「体育学（スポーツ科学）」ではあるが、そのすべてを網羅するものではなく、スポーツ文化学部では以下の学問領域が主たる範疇となる。

スポーツ文化を理解し、これを取り扱うという意味では、「スポーツ文化論」、「文化人類学」、「スポーツ人類学」などが主な学問分野となる。また、異文化や国際社会を理解するために、「国際情勢理解」、「スポーツと国際協力」という学問領域も含まれる。さらに日本の武道に関連する学問領域は、「武道学」というテクニカルタームで表現されるが、現在の武道学が成立する歴史的背景を見ると、元々は武芸というくくりで「芸道」という概念の中に包括されるものであった。しかし、近世を迎えて様々な芸道が体系化されてくるあたりから武道は独立することになった。ところが「道」の精神は他の芸道にも見られるように、武道が分離する以前に形成されたものであることから、武道学だけで日本の武道全般を包括的に説明することはできない。そこでここでいう武道学は、主に武道と深い関わりを持つ芸道をも含めた学問分野という位置付けを取り、さらにこの学部の特徴である文化としての武道という立場から、「芸道論」、「武道論」、「武道国際普及論」、「武道国際交流論」、「武道教育論」、「伝統芸能史」、「稽古論」なども主な学問分野とする。

(6) 社会のニーズ

① スポーツによる国際協力援助や国際開発のニーズ

平成25(2013)年9月7日にアルゼンチンのブエノスアイレスで開かれたオリンピック委員会（IOC）の第125次総会でのプレゼンテーションにおいて、安倍晋三内閣総理大臣は、「スポーツ・フォー・トゥモロー」構想を紹介し、我が国が2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会までの間に本格的にスポーツによる国際貢献に取り組むことを表明した。2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催が決定した後、本学もスポーツ・フォー・トゥモローと関係する委託事業を引き受けるとともに運営委員会の一員として、「将来の国際スポーツ界のリーダー育成」、「日本でのセミナー・研修等の開発」の活動領域を担っている。

一方「アスリートや指導者、専門家の派遣」については外務省、スポーツ庁、国際協力機構（JICA）、国際交流基金、日本オリンピック委員会、日本障がい者スポーツ協会が担当し、「スポーツ分野での技術協力」については、国際協力機構が受け持っている。これらの活動領域は当該組織がその目的を遂行するための機関であるが、現場に送り込

まれるのは、その組織の人選によるところとなる。しかしながら、こうした人材の育成は必ずしも安定的に行われていないのが現状であるが、その要求は潜在的に高まっている。その一例として、JICA のスポーツに関わる募集を見ると、平成 26(2014)年度春募集では 18 種の 141 件、また秋募集においては 20 種の 155 件であった。さらに平成 27(2015)年度の春には 20 種の 115 件の募集が行われ、秋には 21 種 136 件となっている。ところが実際には、これらの募集件数に対して十分な供給が行き届いているとは言い難いようである。その一方で、こうした隊員の派遣数は今後も大きく変動することはないと判断できる。

さらに、スポーツを通じた外交強化という視点から、平成 27(2015)年 2 月には「スポーツ外交強化に関する有識者懇談会」の最終報告書が外務省から提出されているが、その中には 3 つの柱が示されており、以下に示す②、③をも含む提言がなされている。そのため将来的には、こうした提言を実現するための人材が求められるようになっていくと考えられる。

このようにスポーツの ODA（政府開発援助）ともいえる国際協力・国際開発援助は今後も継続される事業であることから、これを担う人材のニーズは今後ますます高まってくると考えられる。

② 海外における武道指導者派遣のニーズ

武道の海外普及については、柔道、剣道、空手をはじめとして、様々な武道が世界中に伝播を続けている。特に、柔道はオリンピック・パラリンピック競技大会において競技種目であり、また 2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会では、空手が競技種目として採用される可能性があることから、今後、多くの指導者の需要が見込まれる。JICA の武道指導者の募集内容を見ると、平成 26(2014)年春募集では、柔道 10 件、空手道 7 件、合気道 2 件であり、同じく秋募集は、柔道 20 件、空手道 5 件、合気道 1 件となっている。また、平成 27(2015)年の春募集では、柔道 20 件、空手道 6 件、合気道 2 件であり、秋募集では柔道 18 件、空手道 4 件、合気道 2 件となっており、柔道、空手の指導者のニーズの高いことを確認できる。

また、剣道においては、世界剣道選手権大会が 3 年に 1 度、アジア・アメリカ・ヨーロッパの各地域の連盟の持ち回りで開催されており、昨年（平成 27(2015)年）5 月には第 16 回大会が東京において行われている。剣道は柔道や空手に比べると先進諸国において普及しており、開発途上国での普及はこれからの段階にある。そのため海外への普及については国際交流基金の事業によって進められており、これまで多くの実績を残している。

こうした武道の指導者の需要が高いことの背景には、武道が日本独自の身体運動文化であることに加えて、武芸の精神的支柱でもある「道」の精神文化を武道の実践を通して伝えることのできる人材の育成には長い時間を必要とするからであり、このことがより一層社会のニーズを高めていることへもつながっている。

③ スポーツを通じた国際交流のニーズ

スポーツを通じた国際交流は、近年つとに盛んである。平成 26(2014)年 9 月に外務省が各自治体からの報告を整理した「青少年・スポーツ国際交流活動団体リスト」には、北海道から鹿児島まで 57 の団体が掲載されている。しかし、この中には東京都の活動は含まれてはいない。東京都の活動の全貌が明らかではないので、日本全体における正確な数を把握することはできないが、スポーツを通して非常に多くの交流が図られているものと推察される。また、スポーツによる国際交流の推進は NPO 法人格を持つ組織においても実施されており、スポーツによる国際交流の高まりを知ることができる。

このような草の根のスポーツによる国際交流とは別に、日本体育協会等が視察団や選手団等を積極的に派遣・招聘を行っている。

さらに総務省、外務省、文部科学省及び財団法人自治体国際化協会の協力によって昭和 62(1987)年にスタートした JET プログラムの中には、スポーツ国際交流員を招聘して、スポーツを通じた国際交流活動を展開するプログラムが行われているが、各自治体を実施した総件数を見ると年々増加をしているものの、スポーツを通じた国際交流活動は全体の 2 割程度にとどまっており、これから推進されていく事業であると考えられる。特に東京オリンピック・パラリンピック競技大会を契機として、海外からスポーツ選手の招聘が高まると、この事業の媒介者となるべくスポーツを専門とする国際交流活動のできる人材が各自治体に必要になってくる可能性は否定できない。

スポーツ立国戦略を踏まえたスポーツツーリズムとの関連からのニーズにも触れておきたい。訪日外国人旅行者を対象とするスポーツツーリズムの推進は、商業ベースだけで行われるものではなく、地方自治体においても地域固有の資源を活かしたスポーツツーリズムの策定が必要であるとともに、これを積極的に推進する人材が求められている。現在、観光庁はスポーツツーリズム推進に向けてノウハウの提供を始めたが、実際に活動の企画立案とは別に現場で直接的な活動をおこなう人材が必要となってくる。

以上のことから、スポーツを通じた国際交流のニーズは国内においても高まっており、こうしたニーズに応えることのできる専門家を育成する意義は高い。

2. 学部、学科の特色

スポーツ文化学部では、本学の建学の精神「體育富強之基」の精神に則り、スポーツを中心に据えた他者との共生のための国際相互理解や国際貢献をはたすために、スポーツを通じた国際相互理解をベースとして、開発途上国を中心とした「スポーツの ODA」を支える知識と技術を身につけさせるとともに、我が国の固有の伝統文化である武道並びに身体文化を正しい指導のもとに普及させる技量を培い、さらにスポーツ分野における人的、物的な国際交流を推進する人材の育成を目的としている。

上記の目的を達成するために、スポーツ文化学部は、以下の 2 学科をもって構成する。

(1) 武道教育学科の特色

武道教育学科の特色は、我が国固有の伝統文化である「武道」を中心とする芸道を国内外において、その実践的な技術や理論を指導し、教育する能力を養うという点である。これを特徴づけるために理論科目では芸道に関連する日本伝統の思考を理解するための「道」の思想史（科目としては「芸道論」「武道論」「礼法」「武道教育論」「武道技術論」「稽古論」「比較武道文化論」）を核にして授業科目が構成されている。また、様々な場面において問題解決のできる力が身につくように、4年間を通して考える力を養うためのスポーツ文化研究を配置している。実践的な科目については、4年間を通じて実技の技量を高めていくための学修ができるように配慮し、実践を通して日本の精神文化を教える能力が養えるような学修のプログラムが提供されている。

(2) スポーツ国際学科の特色

スポーツ国際学科の特色は、国際社会においてスポーツを指導することができるとともに、スポーツを通じた国際協力、国際開発援助に積極的に貢献し、さらにスポーツによる国際交流を促進するための知識と技術を学修する点にある。加えて、国際競技連盟や国内外のスポーツ関連企業や国内の自治体、さらにはスポーツ団体組織においてスポーツ活動を中核とする仕事に従事できる能力を養うことにある。

そのために当該学科では、「スポーツ基本法」の全文の冒頭にある「スポーツは、世界共通の人類の文化である」ことを前提として、それを行う人々の文化を多様なものと理解するために、文化を相対的に捉える視点と考え方、またその方法についても学修する。そのための理論科目としては「スポーツ文化論」「文化人類学」「スポーツ人類学」「スポーツ国際概論」「スポーツフィールドワーク論」「スポーツと国際協力」「アジアのスポーツ文化」「欧米のスポーツ文化」「ニュースポーツ論」等が用意されている。また、様々な場面において問題解決のできる力が身につくように、4年間を通して考える力を養うためのスポーツ文化研究を配置している。直接現場で役立つ能力を養成するために「スポーツフィールドワーク実習」「ニュースポーツ実技」「スポーツとコミュニケーション」「スポーツ国際実習」「スポーツ国際支援実習」「エスニックスポーツ実技」「身体表現実技」「海外スポーツ指導実技」などの科目を配当し、実践的な学修ができるようプログラムを提供している。

3. 学部、学科の名称及び学位の名称

(学部の名称)

スポーツ文化学部 Faculty of Sport Culture

(学科の名称)

武道教育学科 Department of Budo Education

スポーツ国際学科 Department of Sport Studies for International Community
(学位)

学士（体育学） Bachelor （Sport Science）

武道教育学科は従来国際社会で使用されてきた武道の意味を俯瞰できる「格闘技（英訳：Martial Arts）」の意味に当たる英語表記ではなく、日本の伝統文化を伝えることを意図して、あえて武道（英訳：Budo）の表記を用いて、その実践を通して指導・教育に携わるという意味から「武道教育」（英訳：Budo Education）を使用する。

スポーツ国際学科は、国際社会（国、地域社会、民族など）を対象とするスポーツ研究（あるいはスポーツ科学）を意味することから、国際社会のためのスポーツ研究（英訳：Sport Studies for International Community）の英語表記によって、学科の教育内容とその目的を表現する。

学位名称については、本学部が体育学部位置づいていた武道学科を母体として構築されたものであることから、学位名称は学士（体育学）（英訳：Bachelor （Sport Science））とする。

4. 教育課程の編成の考え方及び特色

(1) 体系的な教育課程の編成について

本学は、グランドデザインを通じた本学の在るべき姿に関する共通認識を踏まえ、学士力と就業力の醸成の具現化に向け、本学の建学の精神、ミッション、ビジョン、アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーを基盤として、グローバル化する知識基盤社会に通用しうる高い教養と専門的能力を育成する学士課程を構築するため、日本語の運用能力や英会話の能力を兼ね備えたコミュニケーション能力、自ら課題を発見してその解決に向けて取り組むことのできる力、組織の一員として仲間と協力して目標を達成する力、他の追随を許さない実技能力などを修得させるためのプログラムを備えた教育課程の編成を追求している。

本学は、文部科学省が実施・支援しているアジア地区スポーツ交流事業、海外青少年スポーツ振興事業(ODA)、諸外国とのスポーツ交流事業や、日本政府のスポーツを通じた国際貢献策「スポーツ・フォー・トゥモロー」プログラムの一つである「戦略的二国間スポーツ国際貢献事業」に該当する取組みなどに積極的に取り組んでいる。

日本的な運動文化を身にまとい、途上国に赴任するのか、途上国の文化を理解するために赴任するのかの違いは、極めて重要な要素である。日本人としての真の意味での国際化は、日本の文化や日本事情を正しく伝えるために、まずは日本人としてのアイデンティティを獲得することである。そのためのコミュニケーションツールは、本学の社

会的使命(ミッション)に掲げられているとおり「スポーツ」であり、日本のスポーツ文化の源流である「体育」「武芸」である。

国内外においてスポーツの指導やスポーツ援助を行うことを第一の目標とするためには、語学力もさることながら、指導力の質を担保する必要がある。そこでカリキュラム編成においては、指導力の質の確保という意味からも保健体育教員免許が取得できるようにする。さらにスポーツという文化を国際社会の理解や支援に用いるための考え方を、学生自らが導き出せる能力を身に着けることのできるような教育課程を備え、また、本学の建学の精神、ミッション、ビジョンをもとに、スポーツ文化学部を設置の趣旨を体現させるための教育課程とし、適正な CAP 制に基づいて学生が各自の希望に沿った履修計画が可能となるよう編成している。

さらに、スポーツ文化学部においても、体育学部と同様に、人材育成を実現するための具体的コンピテンシーを策定(ルーブリック)し、対応する科目群を教養教育科目及び学部共通科目の中から選定、課題解決型の授業を主体として学年毎の到達目標、達成レベルの定義を明らかにし、これらを学生に明示して「日体力育成プログラム」として展開させる。

また、学生は、それらの科目を受講していく中で自分がどのような能力をどの程度獲得できているのかを理解するために、学期毎に、Web サービス学生支援システム「n-pass(エヌ・パス)」を利用し「日体力育成履修カルテ」を記録し、アカデミックアドバイザー(クラス担任)の指導を受ける。

以上のような取組みのほか、正規の教育課程において開設する語学教育科目に加えて、夏・春季休暇期間等を利用した短期語学講座(サマーセッション、スプリングセッション)を開講し、学生の志向に応じてヨーロッパやアジアの言語を中心とした多言語を修得できるよう配慮する。これは平成 32(2020)年開催のオリンピック・パラリンピック東京大会を見据え、「多くのスポーツ種目」(本学)＋「世界中の言語」(東京外大)のコラボレーションによる新たなおもてなしの姿を創出することを大きな柱に掲げて、平成 27(2015)年に本学と包括連携協定を結んだ東京外国語大学との連携の下、この事業を積極的に展開することにより、オリンピック・パラリンピックムーブメントの醸成に向け本学科(スポーツ国際学科)の学生がその中心的担い手として貢献できるものと期待されている。

一方、本学は JICA(独立行政法人国際協力機構)との間で、春季休暇期間を利用した「開発途上国へのボランティア派遣事業(体育・スポーツ指導者、短期：約 1 ヶ月間)」を合意している。諸外国(地域)における国際貢献を担うべく、その実践力を養うため、スポーツ国際学科の学生を積極的に参加させる。さらに、この取り組みには、必要な語学レベルに相応した一定度の語学力が必要となることから、本学国際交流センターのみならず、JICA との提携により、JICA 研修センターでの語学研修の受講など、独自の語学養成講座を開設する。

さらに、授業外にも学生が日常的に外国語とりわけ英語力向上のため、現在開設している「GlobalCafe」（ネイティブ英語講師による英会話スペース）を改編・拡充して、ネイティブ英語講師をさらに増員し、国際交流センターのもとに、「GlobalPlaza」を設置し、教育課程外においても語学教育の強化・充実のための十分な対応の徹底を図る。

これらの教育課程外の教育プログラムにおいては、オンライン教育サポートシステム「GAKUENEDuTrack」を併用することによって、様々な補完教育の展開を計画している。

(2) 各科目区分の科目構成等について

スポーツ文化学部をの目的を達成し、目指す人材を育成するために、教育課程を以下のように構造的に配置することで効果的な学習ができるように構成した。

大区分として(1)学部共通科目、(2)学部専門科目〔理論〕、(3)学部専門科目〔体育実技〕、(4)学科基礎科目、(5)学科専門科目の5つに区分する。

① 学部共通科目

学部共通科目は「教養科目」群と「総合科目」群に区分される。

これらの教養科目群と総合科目群の構成については、建学の精神はもとより、ミッション・ビジョンに基づくことから、体育学部とほぼ同一である。

教養科目群には、豊かなコミュニケーション能力を涵養することに加え、英語を通じた幅広い視野と多様な価値観を学び取る力を育成するため、「国語表現」「英語コミュニケーション」「基礎英語」などの語学関連科目を配置するほか、「英会話」「ドイツ語」「フランス語」「中国語」「韓国語」「海外語学研修」を配当し、より発展的に学ぶ構成としている。

また、人文・社会・自然の幅広い学問分野に触れ、社会の一員として求められる教養を涵養するとともに、情報機器を情報の収集や発信、能力や問題解決のツールとして積極的に活用できる能力を養うため「法学」「情報処理」「芸術」「哲学」「心理学」「社会学」「経済学」「歴史学」などの一般教養科目を配当する。

総合科目群には、自校教育により日体大への帰属意識を涵養するとともに、本学の特色でもある実習科目による実践教育を通じて、高度な専門的知識と豊かな人間性、さらには確かな実践力と仲間意識を涵養するため、「日体大の歴史」の他に「集団行動」にかかわる科目、「野外レクリエーションやスポーツ」に係る実習科目を配置するほか、生涯にわたる社会人としての人生選択が可能となる能力・資質を養う「キャリアデザイン」などの科目を配当する。

また、社会の仕組みや地域を取り巻く様々な環境から、地域の特性やそこに暮らす人々の営みを知り、地域における体育・スポーツに関する課題の発掘や、これらの地域課題への対応を学ぶことで、健康で豊かな生涯スポーツ社会の構築を目指したスポーツを通じた活力ある地域づくりの方向性について学修するため、「地域社会とスポーツ」

を配置し、これらの実践能力を涵養するため実践科目を配置する。

② 学部専門科目(理論)

学部専門科目〔理論〕は、体育・スポーツに関わる理論を通じて、人間の心身さらには生命に至るまでの基本的な知識を身に着けるため、「基礎科目」群と「展開科目」群に区分され、基礎科目群では体育学・スポーツ科学の基盤を作るための「スポーツ社会学」「スポーツ哲学」「スポーツ史」「芸道論」を必修科目とし、「異文化交流論」「スポーツボランティア論」「スポーツの安全指導(リスクマネジメント)」「スポーツ医学」「野外活動論」「救急処置概論」へと学問の裾野を広げられるように選択科目を配当した。

展開科目としては「身体文化論」「衛生学・公衆衛生学(運動衛生学を含む)」「機能解剖学」「発育発達論」「スポーツ生理学」を選択科目として配当している。

③ 学部専門科目(体育実技)

学部専門科目(体育実技)群は、基本的な体育系運動種目の特性を知り、体育・スポーツを指導するうえで最低限身に着けておく必要のある運動能力を養うための種目を配当した。

また日本の国技にあたる伝統的な身体運動文化を理解し実践できる能力を身に着けるための武道系実技科目を配当し、その指導方法を獲得する科目として「スポーツ実践指導法」を配当している。

④ 学科基礎科目

学科基礎科目は基幹科目群と展開科目群に区分され、基幹科目群にはスポーツと文化の関係を理解するための科目となる「スポーツ文化論」「文化人類学」「スポーツ人類学」が配当され、また日本の伝統的な身体運動文化を理解するための「武道論」、さらに実習科目として「礼法」を配当している。

次に展開科目群は4つの科目群に区分される。一つめの選択科目群はコーチングやトレーニングに関係する群である。二つめの選択科目群は学校保健、学校安全、食育、人権に関係する群である。三つめの選択科目群は国際社会の理解に関係する群である。四つめの選択科目群は日本の伝統芸道に関わる群を配当している。

⑤ 学科専門科目

学科専門科目は「武道教育学科」「スポーツ国際学科」のそれぞれの学科の目的とする専門性を高めていくための科目を配当している。

a 武道教育学科

武道教育学科の学科専門科目は、基幹科目(理論)、基幹科目(実践)、展開科目(理論)の3区分からなっている。

基幹科目(理論)では武芸に関連する教育論や技術論、精神論、文化論を配当して芸道全般を体系的に理解できるような科目を必修科目としている。この必修科目に加えて、武道の国際普及や国際交流に関わる科目を選択必修科目として配当し、海外において実践的な実習をおこなう。

また、基幹科目(実践)では、海外において武道の実践を通じて交流を行う力を養うことを目的とする「伝統文化交流実習」が配当されている。

展開科目としては、芸道に関わる各論が配当されており、これまで学んできた基本的な知識を補完し、より幅の広い知識を身に付けられるような科目配当とした。

b スポーツ国際学科

スポーツ国際学科の学科専門科目は「基幹科目(理論)」「基幹科目(実践)」「展開科目(理論)」「展開科目(実践)」の4区分からなっている。

基幹科目(理論)は、国際社会において実践されているスポーツを捉えて、理解していくための視点や知識に加え、現場に即した応用的な考え方などを学修する。そのための科目として「スポーツ国際概論」「スポーツフィールドワーク論」「アジアのスポーツ文化論」「欧米のスポーツ文化論」「ニュースポーツ論」を配置する。

基幹科目(実践)では基幹科目(理論)で学んだ知識を実際に活用できるようになるためのトレーニングを行うことを目的に「スポーツフィールドワーク実習」「ニュースポーツ実技」を配当し、これら2科目を必修とし、さらに海外において実際にスポーツ支援を経験するための科目として「スポーツ国際実習」と「スポーツ国際支援実習」を配当した。

展開科目(理論)では基幹科目(理論)で学修した学問的焦点を深めていくとともに、その近接領域を拡大していくことを目的とした科目が配当されている。

展開科目(実践)では、エスニックスポーツという概念に含まれるようなスポーツを体験したり、身体を用いて自己の内面を表現するような技術を身に付けたり、さらに海外において一切道具を使わないでスポーツ指導を行う技術を習得するための科目が配当されており、基幹科目(実践)をより進めていくための学修を行えるようにしている。

また、民族(伝統)スポーツの実践を通じて、当該民族(国・地域)に関する理解(異文化理解)を深めようと設けた「エスニックスポーツ実技」においては、関連する主な言語(ビルマ語)を用いて授業を展開することにより、実践的なコミュニケーション能力の醸成を図る。

(3) 科目の対応関係について

前述したように、スポーツ文化学部は、①スポーツを通じた国際相互理解の促進、②スポーツによる国際協力援助、③日本の武道を理解し海外への普及を推進できる人

材の育成、④国際社会においてスポーツによる国際協力支援と国際交流を推進する人材の育成を目指している。

また、後述するように武道教育学科とスポーツ国際学科は、夫々に具体的な学科の特色が存在しているが、それは学部共通科目、学部専門科目（理論）、学部専門科目（体育実技）とも密接に結びつくものである。

最初に両学科に共通する科目の関係性を示した上で、それらの科目が各学科の個別の科目とどのような関係性にあるのかを説明する。

学部共通において、上記の4項目の人材育成を実現するための基礎となるのが、語学とスポーツの専門的知識である。最初に語学についての科目の対応関係について説明し、スポーツの専門的知識については、各学科の特徴と対応させる形で説明する。学部共通科目の語学に関しては、学部共通において必修の「国語表現Ⅰ・Ⅱ」「英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ」「基礎英語Ⅰ・Ⅱ」をベースとして、自由科目において「海外語学研修」「英会話」「ドイツ語」「フランス語」「中国語」「韓国語」を配当して語学の広がりや深さを学修できるようにした。この語学教育を一方において、武道や伝統芸能、スポーツと語学をコラボレーションさせた科目が武道教育学科では「伝統文化交流実習A・B」であり、スポーツ国際学科では「スポーツ国際実習」「スポーツ国際支援実習」「スポーツとコミュニケーションA・B」「エスニックススポーツ実技」「海外スポーツ指導実技」となり、スポーツ実践を通して外国語が運用できるような科目を配当している。

各学科を構成する主要科目の対応は次のとおりである。

a 武道教育学科

武道教育学科では、我が国固有の伝統文化である「武道」を中心とする芸道を国内外において、その実践的な技術や理論を指導し、教育する能力を身に付けると共に、武道並びに伝統芸能を通じて国際交流や社会貢献を推進する能力を養うことを目的としている。

この目的を果たすために、学部共通において「スポーツ文化研究A～D」科目を置き、学年進行にあわせて武道と伝統芸能の専門的な学修ができるように各学年に配当している。そのような意味において、以下に示す科目の対応関係で形成される知識の体系は「スポーツ文化研究D」に収斂されることになる。

日本の「道」の精神を理解していくために、学部専門（理論）では「芸道論」に基礎を置きながら、「道」の精神哲学の領域を理解していくための科目の対応関係として、学科基礎の「武道論」、学科専門の「武道技術論」「稽古論」を必修科目として配当した。また、これに広がりを持たせるために選択科目として、学科基礎に「伝統芸能の諸相」「伝統芸能論」の科目を、学科専門では「武道用具論」「武道文献講読」、「古典芸能論（能・舞踊）」の科目を配当している。この一方で「道」精神文化が歴史的にどのように形成されてきたのかを学修する領域として学科基礎に「伝統芸能史」を

選択科目として置き、学科専門には「武道史各論」を配当した。

次に武道や伝統芸能の指導と関係する科目についての対応関係を説明する。武道や伝統芸能の指導は実践を通して指導するわけだが、その指導と表裏一体の関係にあるのが教育である。そこで武道や伝統芸能の実践とその技術的手法と関係する教育についての科目に分けて対応関係を示すことにする。最初に武道の実践と関わる科目は学科基礎にある「礼法」である。これを基礎としながら、学科専門では「武道実技（弓道）」「武道実技（形）」「専攻武道実技Ⅰ～Ⅳ」「伝統芸能実技1～6」「伝統芸能実技Ⅰ・Ⅱ」によって専門的な実技の能力を養うように科目配置している。次に武道の教育と関わる科目の対応関係について説明する。武道教育においても先に示した学部専門に置かれた「芸道論」、学科基礎に置かれた「武道論」を核として、学科専門の必修である「武道教育論」並びに選択科目である「武道科教育法」「武道教育研究法」「舞踊創作論（作品論を含む）」「芸能鑑賞論」が対応関係を持つ。また、これとは別に武道教育を担保していくための科目として資格関連の科目の中から11単位を必修とすることで、武道教育を支える礎としている。

国際社会における武道の在り方を理解するための対応関係にある理論科目として、学部専門では選択科目として「異文化交流論」、学科基礎では必修科目として「スポーツ文化論」「文化人類学」「スポーツ人類学」、選択科目として「スポーツと国際協力」「比較舞踊学」、学科専門では必修科目の「比較武道論」、選択科目として「国際武道普及論」「国際武道交流論」「伝統芸能交流論」によって形成される。最後に武道と国際社会をつなぐための実技科目として「伝統文化交流実習A・B」「国際武術実技」が配当されている

b スポーツ国際学科

スポーツ国際学科では、わが国固有の精神文化を身に着けたうえで、国際社会においてスポーツを指導することができるとともに、スポーツを通じた国際協力、国際開発援助に積極的に貢献し、さらにスポーツによる国際交流を促進するための知識と技術を習得し、国際競技連盟や国内外のスポーツ関連企業や国内の自治体、さらにはスポーツ団体組織においてスポーツ活動の中核とする仕事に従事できる能力を養うことを目的としている。

この目的を果たすためにスポーツ国際学科においても、学部共通に「スポーツ文化研究A～D」科目を置き、学年進行にあわせてスポーツと国際援助協力・国際開発援助などの専門的な学修ができるように各学年に配当している。そのような意味において、以下に示す科目の対応関係で形成される知識の体系は「スポーツ文化研究D」に収斂されることになる。

最初に日本の精神文化を理解していくために、学部専門（理論）では「芸道論」に基礎を置きながら、「道」の精神を理解していくために、学科基礎の「武道論」「礼法」

を必修科目とし、選択科目として「伝統芸能論」「伝統芸能史」「伝統芸能の諸相」を配当した。

次に異文化理解を深めていく科目と、スポーツという文化に焦点を当てた異文化理解の科目の対応関係について説明する。異文化理解の外延を画するのは学部専門に置かれている「異文化交流論」と学科基礎で必修科目となっている「文化人類学」並びに選択科目の「国際情勢理解」である。構造的にはこの中にスポーツという文化が含まれるが、実際にはスポーツ文化の理解を深めていくための周縁科目という位置づけが取られる。したがって実際に基幹科目となるのはスポーツ文化を理解していくための科目とスポーツ文化という現象を捉えていくための方法論に大別される。スポーツ文化の理解に当たっては、学科基礎の必修科目として置かれている「スポーツ文化論」「スポーツ人類学」、学科専門では「アジアのスポーツ文化論」「欧米のスポーツ文化論」の必修科目の他に、選択科目として「世界のスポーツ情勢」「エスニックススポーツ実技」が対応関係にある。また、スポーツ文化を理解するための方法論と結びつく科目として「スポーツフィールドワーク論」「スポーツフィールドワーク実習」が必修となっている。

次に、スポーツによる国際協力と関係する科目についての対応関係を説明する。ここでの科目は理論科目と実技科目とに分類することができるので、最初に理論科目の対応関係を示す。学部専門の選択科目として「スポーツボランティア論」が置かれ、学科基礎では選択科目として「スポーツと国際協力」「国際保健学」、学科専門の科目として「スポーツ国際概論」「ニュースポーツ論」が必修科目であり、選択科目としては「健康スポーツ開発論」が配当されている。国際協力と関係する。実技科目としては学科専門において「ニュースポーツ実技」を必修として、選択科目で「スポーツ国際実習」「スポーツ国際支援実習」「身体表現実技」「海外スポーツ指導実技」が対応関係にある。

最後に国際社会におけるスポーツの役割や機能、あるいは意味などについて対応関係を持つ科目は学部専門の「スポーツ社会学」「スポーツ哲学」「スポーツ史」の必修科目に加えて、学科専門の「スポーツマネジメント」「スポーツメガイベント論」「スポーツ政策論」「スポーツ情報リテラシー」「比較スポーツカリキュラム論」といった選択科目となる。

(4) 必選の別の構成等について

必修・選択必修の別については、全ての学生に履修させるべき科目及び各区分の中で基礎となる科目を必修科目、各区分の中で必修科目を基礎として学生に選択的に履修させるべき科目を選択必修科目とした。

(5) 履修順序（配当年次）の考え方等について

各科目の履修順序(配当年次)は、ゆるやかな原則として、基礎的な科目から応用、発展的な科目へ、総論的な科目から各論的な科目へという考え方に基づいている。

(6) 教養教育の実施方針について

学士課程において、専門教育とは区別して、相当な規模を有する教育を行うことの趣旨を考える場合、単に漠然とした「教養」や、あるいは純然たる準備教育ではなく、その原点は市民教育という理念にある。市民としての諸個人は、互いに連携し協働する必要がある、大学教育においては、一人ひとりが自らの専門性を深く意識し、その限界を知り、異なる分野・立場の人々と横断的に対話し、連帯することが重要であり、そのためにもすべての学生に「教養」が共有される必要がある。

本学では、教養教育と本学が専門とする分野と、それぞれの教育理念のバランスに配慮した学習科目を具体的に定め、それを実現するために最適と考えられる方法で、区分としての「教養教育」と「専門教育」とを組み合わせカリキュラムを編成している。

教養教育と専門教育は、一人の人間において両者の統合が目指されるべきであるという意味において相互に無関係ではない。かつて形骸化してしまった「一般教育」が、多分に単位修得のみを目的とした「知的渴望なき教養教育の履修」と、「教養なき専門教育の履修」という分裂をもたらしたことを想起することが重要である。したがって、どちらが先という考え方ではなく、カリキュラム全体を通じて育まれるべきものであると言える。

コミュニケーションは重要な「教養」のひとつの要素である。それは、一方的な情報伝達の営みではなく、自らとは異なる意見、感覚、経験を持つ人々と出会い、それを「聴く」能力こそが重要である。

言語は、人間にとって最も基本的な文化環境であり、すべての人間は、家庭と近隣の人間関係を通じて第一言語(母国語)を修得する力を備えている。しかしそれは環境であるばかりでなく、人間の主体を形成し、環境に対して働きかける道具でもある。自己、他者、集団、社会への問いかけと応答、そしてそれに基づく実践を可能にする能力である。したがって、社会生活、職業生活、精神生活で言語を公共的に使用するための訓練は、大学教育の基底とも言うべきものである。

また、グローバル化に伴い、英語は、世界で最も広い範囲に流布する国際共通語となっている。従来の外国語教育とは別のカテゴリーに属するものとして解した上で、異文化との接触を考慮し、日本事情、日本文化を重要な学習の要素とする。英語の習得はグローバル化の対応であるの対して、その他の外国語教育は、世界の多様性の認識、異文化の理解といった視点で実施する。

さらに、情報通信技術の進展は、グローバル化をはるかに凌駕し、いまやインターネット等は、学問のみならず、人間生活そのものに、なくてはならないツールであること

から、端末の操作やデータの整理、情報の整理や発信、インターネットでの情報検索など、端末やネットワークを活用して情報やデータを扱うための知識や能力を養い、情報ネットワークを活用する方法や、倫理等を理解し、あらゆる情報を活用する能力を養う。

大学は高等教育機関であると同時にある種の社交空間である。その空間には、講義などの制度的な仕組み以外の大学での生活がある。教職員とのコミュニケーション、様々なイベント、多様な人々との出会いや友人との交流、さらには大学周辺の街の雰囲気、そして本学のこれまでは特にクラブ活動、といった大学という社交空間で経験した生活の「匂い」と言うべきものは人の一生を通じて残り続ける。仮にこれを隠れたカリキュラムと名付けるとすれば、これこそが人の成長の糧を提供していると言える。これによって、人間の幅を広げ、知的に会話することや文化的背景の異なる人間と交流することを楽しめる人間を生み出すのである。したがって、正課のみならず、正課外活動と有機的に連動し、豊かな人間性を育むカリキュラムの多角的運用を実施する。

(7) 教養教育の具体的工夫について

学部共通科目は「教養科目」群と「総合科目」群に区分される。

これらの教養科目群と総合科目群の構成については、建学の精神はもとより、ミッション・ビジョンに基づくことから、体育学部とほぼ同一である。

教養科目群には、豊かなコミュニケーション能力を涵養することに加え、英語を通じた幅広い視野と多様な価値観を学び取る力を育成するため、「国語表現」「英語コミュニケーション」「基礎英語」などの語学関連科目を配置するほか、「英会話」「ドイツ語」「フランス語」「中国語」「韓国語」「海外語学研修」を配当し、より発展的に学ぶ構成としている。

また、人文・社会・自然の幅広い学問分野に触れ、社会の一員として求められる教養を涵養するとともに、情報機器を情報の収集や発信、能力や問題解決のツールとして積極的に活用できる能力を養うため「法学」「情報処理」「芸術」「哲学」「心理学」「社会学」「経済学」「歴史学」などの一般教養科目を配当する。

総合科目群には、自校教育により日体大への帰属意識を涵養するとともに、本学の特色でもある実習科目による実践教育を通じて、高度な専門的知識と豊かな人間性、さらには確かな実践力と仲間意識を涵養するため、「日体大の歴史」の他に「集団行動」にかかわる科目、「野外レクリエーションやスポーツ」に係る実習科目を配置するほか、生涯にわたる社会人としての人生選択が可能となる能力・資質を養う「キャリアデザイン」などの科目を配当する。

また、社会の仕組みや地域を取り巻く様々な環境から、地域の特性やそこに暮らす人々の営みを知り、地域における体育・スポーツに関する課題の発掘や、これらの地域課題への対応を学ぶことで、健康で豊かな生涯スポーツ社会の構築を目指したスポーツを通じた活力ある地域づくりの方向性について学修するため、「地域社会とスポーツ」を配置

し、これらの実践能力を涵養するため実践科目を配置する。

5. 教員組織の編成の考え方及び特色

(1) 教員組織

スポーツ文化学部は、「体育学（スポーツ科学）」と「武道学」の両方にまたがる学問領域によって構成されている。

教員組織の編成については、武道教育学科は剣道専攻の教員 3 名、柔道専攻の教員 1 名、相撲専攻の教員 2 名、伝統芸能・身体表現の教員 1 名、体育学(スポーツ科学)の教員 1 名、運動方法の教員 1 名、教育心理及び生徒指導の教員 2 名、安全教育の教員 1 名からなっている。

スポーツ国際学科では、外国語の教員 1 名、歴史学の教員 1 名、国際保健系の教員 1 名、体育学(スポーツ科学)の教員 4 名、伝統芸能・身体表現の教員 1 名、運動方法の教員 2 名、体育科教育の教員 1 名からなっている。

この教員グループの区分は科目の領域の類縁性に基づいて分類したものである。国際社会との関係性から教員組織の編成を説明すると、本学部の専任教員の 3 分の 1 の教員が 1 年以上の海外での研究や教育に従事してきた経験を持っており、これまで定期的に海外においてスポーツ指導や教育、研究などに携わってきた教員を含めると、3 分の 2 以上の教員がそのような経験を持っている。

専任教員の職位及び年齢構成は、武道教育学科は 60 代 2 名(教授 2 名)、50 代 4 名(教授 3 名・准教授 1 名)、40 代 1 名(准教授)、30 代 5 名(助教)となっている。スポーツ国際学科は、60 代 5 名(教授 4 名・准教授 1 名)、50 代 3 名(教授 3 名)、40 代 3 名(准教授 2 名・助教 1 名)となっている。

(2) 教員の配置について

教員の配置については武道教育学科、スポーツ国際学科が持つ研究領域や各学科が目指す人材の育成が果たせるように適切に配置する。

また、既設の体育学部、児童スポーツ教育学部、保健医療学部の教員に「兼担」として協力を仰ぐほか、兼任教員（非常勤講師）を配置した。

6. 教育方法、履修指導方法及び卒業要件

(1) 授業の内容に応じた授業の方法について

講義、演習、実技、実験授業については、単独担当、複数担当(オムニバス方式、複数の教員で共同担当)などの授業の特性及び教員の専門性に基づき、担当者を配置している。

本学に所属する専任教員は、本学の教育研究分野に基づいて独自に設定する【研究部門】「研究群」「研究領域」といった階層的区分に位置づく『研究室(領域)』に所属

しており、各学部の教育課程に配置された教科目については、この『研究室(領域)』の所管教科目として、組織的に管理されている。これにより、各教科目については、当該研究室の所属教員により、所管(担当)教科目の授業展開や改善などに関して、積極的に取り組んでいる。

授業は原則として、単独教員による開講であるが、授業の特性又は授業の展開計画に応じて、より専門性の高い教員の協力による複数担当での展開、さらには、少数の履修人数による効果を期待したクラス指定の授業など、関係教員の専門性と授業科目の特性に応じた開講体制をとっている。

学内外で実施される実習では、カリキュラム編成により系統的に学修した一般教養や専門知識を基に、実地実習により体験的に学習した内容を介して架橋・往還することで、教育・スポーツの現場に則した確かな実践力の育成を重視している。

また、海浜実習、キャンプ実習、スキー実習及びスケート実習などは、理論と実技の融合化を図るとともに、学生間の交流を深めることにより、コミュニケーション能力を高めることができるよう、合宿研修を伴う実習形式を展開している。

教育課程に配置する教科目については、開設する科目の目的と内容、教育効果等を考慮して、授業の方法及び単位の基準として、講義は 2 単位(半期)、演習は 2 単位又は 1 単位(半期)、実技又は実験は 1 単位(半期)、実習は 1 単位(15 時間又は 30 時間)と定めている。

これら単位等の実質化を図るため、1 単位に必要な標準的な学修時間 45 時間を確保することを目的として、授業時間外学習の平常化を実現するため、本学ポータルサイトで運用する Web サービス学生支援システム「n-pass(エヌ・パス)」の授業支援メニュー『クラスプロファイル』において、開設授業(履修授業)ごとに、授業資料(電子ファイル、動画ファイル、音声ファイルなどの各種デジタルコンテンツ)の事前又は事後配信、課題等の事前又は事後配信、臨時テストの実施、さらにはこれらの課題や臨時テストの採点結果の還元やアフターケアに至るまで、授業時間外の学習に関して ICT を活用したトータルサポートを実施している。なお、これらの機能は、近年めざましく普及進化するスマートフォンにも対応し、いつでもどこでもアクセスできることを可能にしている。

また、これに加えて、オンライン教育サポートシステム「GAKUEN EduTrack」を導入している。このシステムにより、個々の教員の IT スキルや情報リテラシーの高低を問わない次世代の学習支援方法が具現化するため、授業時間外の学習範囲やその深度が増し、授業では対話型学習などの理想的な「反転授業」が実践できるなど、学生は主体的に学べる真の学習環境が得られている。これらの ICT を活用した先端的教育機能の積極的導入により、飛躍的な教育改革を推進することができる教育環境も整えられたことから、課題解決に向けた主体的・協働的で、能動的な学び(アクティブ・ラーニング)の導入など、授業方法等を革新するため、これらの具体的手法や活用方法など

について、教員への教育や研修等に積極的に取り組んでいる。

また、これらの準備学習や事後学習などの取組みについて、学生が授業内容を十分に把握した上で履修計画を立てられるように、シラバスには、①授業の概要と目的、②到達目標、③授業の内容・計画、④成績評価の方法・基準、⑤準備学習や受講生に対するメッセージ、⑥教科書・参考書、の六項目について詳細に示しているほか、学生が日常的に n-pass を利用し履修授業時間割等の確認をする際、連動してシラバスの確認に至るよう工夫している。

(2) 授業方法に適した学生数について

教育課程に配置した教科目の授業の開講に関しては、授業方法に応じた履修者数を、講義の上限は最大 100 人、演習及び実技・実験の上限は最大 50 人とし、野外実習等は履修希望状況により団編成を行っている。

体育実技、情報処理などの実技を伴う技能教科の授業においては、一斉指導と小集団指導と個別指導とを組み合わせ、全学生に共通する知識や技能の修得水準の確保と個性や能力に応じた修得・習熟の保障とを両立させている。

また、授業時間割は、ホームルームクラスを基準として割当てられており、1 ホームルームクラスの人数は原則 20 人から 25 人となっていることから、授業クラスは、授業方法及び授業科目の内容等に応じて、上限の範囲内で複数のホームルームクラスを合わせた授業形式(時間割編成方針)をとっている。

なお、ホームルームクラスには、クラス担任として専任の教員が配置されており、クラス担任は、アカデミックアドバイザーとして、履修指導をはじめ学生生活全般についての指導にあたっている。

(3) 配当年次の設定について

スポーツ文化学部はこれまで体育学部位置づいていた「武道学科」を発展的に組み替えたものであることから、基本的に学部共通科目並びに学部専門科目の一部を除くと、その構造は体育学部のカリキュラムを踏襲している。ただし、本学部において焦点化されるスポーツ文化、日本の精神、語学といった部分については体育学部とは異なっている。

以上のことを前提として、配当年次の設定についてのスポーツ文化学部の基本的な考え方を示すことにする。本学部の学年配当は、最初に本学部において学修しなければならない学問領域を設定し、これと関連する科目の基礎となる科目を 1 年次に配当した。次に学年進行に合わせて順次応用性の高い科目を配当していくという方法を取った。このような科目配当の仕方は、学修の成果を上げるためのものであり、例えば、前期で学んだ科目と関連する科目は同学年の後期ないしは、次年度の前期に配当している。これによって学修の連続性を持たせている。この考え方は実技科目においても

同様であり、武道教育学科では実技の難易度を考慮した学年配当としている。スポーツ国際学科においても、学科専門の実技は他の科目との関係性から適正な学年に配当している。

(4) 卒業要件について

スポーツ文化学部はこれまで体育学部位置づいていた「武道学科」を発展的に組み替えたものであることから、体育学部と共通する学部共通、学部専門（理論）、学部専門（体育実技）についての 59 単位は、本学部も同様のカリキュラム形態と考え方をとっている。そのため、卒業要件単位数においても体育学部武道学科と同様に 124 単位としている。

学科基礎、学科専門の科目については、武道教育学科は 17 単位を必修として、それ以外の科目については、ある程度自由度を持って選択できるように配慮している。またスポーツ国際学科においても必修科目数は 21 単位ではあるが、それ以外の科目については選択が可能な状態になっている。

また、両学科に共通することで、保健体育の教員免許を取得するためには、法令科目の単位修得が必要となるが、そのうち、学科専門の資格関連の科目群として、11 単位を必修としており、これはスポーツの適正な教育の在り方を担保することを目的としている。

<履修モデル>

【資料 1-1】 武道や芸道を通じて国際交流や社会貢献を目指す場合（教免希望無し）

【資料 1-2】 学校教育機関において日本の身体運動文化や精神文化を教育できる人材を目指す場合（教免希望有り）

【資料 1-3】 国内外においてスポーツ活動を基盤とする社会貢献を目指す場合（教免希望無し）

【資料 1-4】 国内外のスポーツ関連企業や国内の自治体において活躍できる人材の育成を目指す（教免希望有り）

(5) 単位の実質化について

履修については、年間の履修登録の上限（いわゆるキャップ制）として 44 単位を設定する。

単位時間を理解するには、それぞれの授業の学習に必要とされている総時間に還元された学習量という観点に立たなければならない。

キャップ制の趣旨は、単位取得のみを目的とした表面的な学修にならないように、単位制度の実質化、学修効果の向上を意図している。学生は、過度な履修登録を避け、必要な教科目限定して履修登録を行い、それらの科目について確実に学習し履修しなければならない。

これまでの単位制度にあった問題点のひとつは、科目の単位がその成績と切り離されて機能してきたことである。そのため、単位は卒業資格要件、学士認定に対する量的な指標としてしか機能していなかった。例えば、大学設置基準に沿えば、在籍期間を満たし、所定の単位を取得すれば卒業要件を満たすので、学生にとっての単位の意味は実質的には「全か無」の基準でしかなかった。もともとそれぞれの科目の成績の多段階評価は、この卒業要件に直結した総修得単位に比べれば、学生にとっても二次的な意味しかもってこなかったともいえる。

そこで、履修行動の特性(結果)を評価、理解又は分析する手段となる最も適した方法として、グレードポイントアベレージ(GPA)制度を併用する。

GPA 算定の際には、不合格となった教科目も履修教科として算定式の一部に組み込まれる仕組みであり、教科目の単位の違いや可否に拘らず、受講した授業の性質や結果が算定式に組み込まれる。GP は、成績が表す価値を反映した数値を示すことから、履修や学修への取り組み方を含めた一連のプロセス評価を行う上で必要となる総合的な評価性能や情報性能を有するのである。

何よりも GPA は単なる成績の平均値ではなく、科目の単位数の違いが成績の重みづけに反映された評価になっていることである。加えて、履修を途中放棄したり、不合格になった科目があると、それが指標に負の影響をもたらすようになっていること、卒業要件単位数を大幅に上回るような過剰な科目履修は、GPA にとってはポイント低下の危険率を高めることから、必然と過剰履修は自己制御されるようになる。学生は GPA の数値を手がかりに、「どの程度、履修をしたらよいか」「履修した科目にはどのように接していけばよいか」「現在の GPA をもとにいまはどういう学修をする必要があるか」「この科目で努力すればどういう結果を望めるか」などの思考に接し、自分で主体的に学ぶという然るべき結果に達するのである。

本学は、学生一人一人の状況に関して、GPA による表示値をインデックスとして活用し、その傾向などを捉え、学生へのきめ細かな履修指導や学習支援の実施、評価機会の複数化と一体的に運用し、学習成果の効果的な達成を促すため、Web サービス学生支援システム「n-pass(エヌ・パス)」や、オンライン教育サポートシステム「GAKUEN Edu Track」などを活用している。

これにより授業時間外学習コンテンツへのアクセス状況(タイムスタンプ)などから学習事実や状況を把握することで、単位の実質化に取組み、教員は、履修者数の多少を問わず、それぞれの分野における教育の質の向上や授業の改善に専念できる仕組みを備え、学生は、自身の学習項目や学習状況の把握、さらには学習履歴の効率的な管理から、総合的な振り返りの循環を獲得する手段を確保している。

このように本学は、ICT を活用した先端的教育機能の備えにより、単位制度の実質化を確実に履行することができる教育環境を整えている。

7. 施設、設備等の整備計画

(1)校地、運動場等

日本体育大学の校地面積は、20 万 9,457.76 m²あり、東京・世田谷キャンパスは、1 街区から 5 街区 39,894 m²、6 街区 1,140 m²、和泉グラウンド 2,417 m²の合計 43,451 m²、横浜・健志台キャンパスは 16 万 6,006.76 m² となっている。校舎のほか体育大学の特性上から種目ごとに運動用地及び体育館用地を有しており、大学設置基準における校地面積（体育学部 42,400 m²+児童スポーツ教育学部 8,000 m² +保健医療学部 6,800 m² 計 57,200 m²）を上回っている。

東京・世田谷キャンパスと横浜・健志台キャンパス間の移動時間は約 1 時間を要するが、キャンパス間シャトルバスの運行によりクラブ活動時などにおける移動の負担の軽減を実現している。両キャンパスにおける運動施設等の各種施設は、体育大学としての教育研究の実践の場として整備されており、教育研究活動の目的を達成するため活用している。

① 東京・世田谷キャンパス

東京都内の都市型のキャンパスとして、1 街区から 5 街区の 39,894 m²と 6 街区 1,140 m²を体育学部と児童スポーツ教育学部で使用する。1 街区から 3 街区の教育研究棟は、教室、演習室、実験室、研究室、図書館等があり、5 街区のスポーツ棟は、大・中・小体育館、屋内プール、スポーツ・トレーニングセンター等があり、人工芝のグラウンドと 100m 走 8 コースの全天候型走路を有している。校舎及び運動場の整備は、平成 24(2012)年 4 月末に東京・世田谷キャンパス再開発工事が終了し教育研究棟及びスポーツ棟が完成した。6 街区は児童スポーツ教育学部が特に使用する教室、実験室、演習室がある。また、本キャンパスには、男子寮として深沢寮、女子寮として和泉寮、卒業生なども利用できる世田谷ゲストハウスがある。

また、交通アクセスは、東急田園都市線桜新町駅より徒歩約 15 分の閑静な住宅街に位置している。

② 横浜・健志台キャンパス

体育施設として広さや敷地を必要とする屋内運動施設や屋外運動施設の充実した郊外型のキャンパスであり、16 万 6,006.76 m² を有している。その内訳は、校舎敷地 91,306.16 m²、運動体育施設敷地 11,900.02 m²、運動用地 62,800.58 m² である。また、本キャンパスには、男子寮として健志台合宿寮が、女子寮として健志台桜寮、卒業生なども利用できる健志台ゲストハウスがある。敷地内には、教室及び研究室、図書館分室、体育館 4 棟、学生の福利厚生施設 2 棟、スポーツ・トレーニングセンター、屋外温水プール、陸上競技場、テニスコート、ラグビー場、サッカー場、野球場などを配している。そして平成 26(2014)年 3 月、新学部の保健医療学部用校舎棟を竣工した。

また、交通アクセスは、東急田園都市線青葉台駅よりバス利用約 10 分の静かで緑

豊かな場所に位置している。

③ 校外施設

校外施設として、長野県菅平に菅平実習場を保有している。野外実習にて利用する他、夏期にはキャンプ場、冬期にはスキー場ロッジとして利用可能である。

(2) 校舎等施設の整備計画

本学の校舎面積は、両キャンパスで 62,764.09 m² を有しており、東京・世田谷キャンパスは 32,913.62 m²、横浜・健志台キャンパスは 29,850.47 m² である。大学設置基準面積（体育学部 23,333.8 m²＋児童スポーツ教育学部 4,627.5 m²＋保健医療学部 7,107 m² 計 35,068.3 m²）を上まわっている。

東京・世田谷キャンパスの周辺の環境は、閑静な住宅街であり、研究室、実験室、体育研究所などの学術研究施設及び教室、図書館、体育館、スポーツ・トレーニングセンター、屋内温水プール、屋外運動場といった教育に関する建物等を擁している。先述の教育研究施設以外にも、学生の休憩場所としての活用を目的として、キャンパス内にテーブル・ベンチを増設した。また、両キャンパスの教室内は、ビデオプロジェクター等マルチメディア機器を設置している。

横浜・健志台キャンパスは前述のとおり郊外型キャンパスのなかに教育研究施設のほかスポーツのメッカとしての各種競技の専用施設を完備している。

【資料 2 施設別時間割】

(3) 図書等の資料及び図書館の整備計画

① 図書館閲覧室、閲覧席数、レファレンス・ルーム、検索手法等

東京・世田谷キャンパスの図書館の閲覧席数は 353 席（2 階 151 席、3 階 202 席）、地下の自動化書庫も含めて書架収容力は約 46 万冊となっている。閲覧席は、テーブルのほかに、間仕切りされた一人用閲覧席、複数人数での利用のためにグループ閲覧室（3 室）を備えている。また、所蔵資料検索については、学内外からインターネット上での検索が可能になっており、図書館内に専用端末も設置している。地下の自動化書庫に格納されている資料は、資料検索の結果から、オンラインで出納することが可能である。また、自動貸出装置を導入し、利用者の利便性の向上を図っている。

横浜・健志台キャンパスの図書館の閲覧席数は 236 席、保健医療学部用校舎棟内の図書室の閲覧席数は 74 席である。

開館時間については、授業期間中は平日 8 時 45 分から 22 時まで、土曜日は 8 時 45 分から 19 時まで、日曜日は 10 時 15 分から 18 時まで開館している。授業のない期間については、平日 8 時 45 分から 19 時まで、土曜日は 10 時 15 分から 18 時まで開館している。

② 図書等の整備

大学全体で和書約 37 万冊(東京・世田谷キャンパス図書館約 27 万冊、横浜・健志台キャンパス分館約 10 万冊)、洋書約 13 万冊の合計約 50 万冊を有している。

武道関係の図書は和書約 7,300 冊(東京・世田谷キャンパス約 4,300 冊、横浜・健志台キャンパス約 3,000 冊)、洋書約 1,800 冊を所蔵している。加えて、スポーツ社会学関係の図書は和書約 400 冊(東京・世田谷キャンパス約 200 冊、横浜・健志台キャンパス約 200 冊)、洋書約 800 冊を所蔵している。

学術雑誌については、武道学関係の和雑誌 82 種、洋雑誌 8 種を所蔵している。主なタイトルとしては、武道学研究、関西武道学研究、武術太極拳、弓道日本、柔道、なぎなた、剣道時代、剣道日本、中華武術などが挙げられる。

③ デジタルデータベース、電子ジャーナル等の整備

デジタルデータベースについては国立情報学研究所学術コンテンツポータル機関別定額制、医中誌 Web、メディカルオンライン、ジャパンナレッジ、Science Direct、WileyInterScience、MEDLINE Complete、SPORTDiscus with Full Text、Health Source など 19 種に加えて、朝日新聞聞蔵Ⅱ、読売ヨミダス文書館、毎日 News パックの新聞 Web 版を整備している。

電子ジャーナルについては、上記データベースによるものに加えて、American Journal of Education、Adult Education Quarterly など 32 種を整備している。検索については、タイトルからの検索を可能にする電子ジャーナルリストに加えて、複数データベースの同時検索を可能にするディスカバリーサービスを導入して利便性の向上に努めている。

④ 他の大学図書館等との協力

NACSIS - CAT・ILL(国立情報学研究所 目録所在情報サービス)に参加しており、相互協力に取り組んでいる。文献複写については長年にわたり積極的に取り組んでいる。

8. 入学者選抜の概要

(1) アドミッションポリシー

日本体育大学は、『體育富強之基』を建学の精神(教育理念)として、体育及びスポーツを通して全ての人々の願いである「心身の健康」を育むとともに、世界レベルの優秀な競技者・指導者の育成を一貫して追求し続けてきた。本学は、体育・スポーツの科学研究を基に、競技力の向上や豊かな社会の実現に向け多様な学修(「実践」と「理論」)を展開し、特に身体を動かすことによって、認知された人間の運動感覚(＝身体知)の諸問題について、分析や検討を加え、そこから得られた新たな知見を再びスポーツの現場に活かしていこうとする双方向の試みを積極的に展開している。

そこで、スポーツ文化学部では、「一般入試」及び「推薦入試」等の入試を実施し、

一定の基礎学力と運動能力を持ち、我が国固有の「道」の精神性を持つ武道とそれを包括する芸道についての正しい理解とその普及、さらにスポーツ分野における人的、物的な国際交流に関する知的好奇心の旺盛な者を幅広く迎え入れることとしている。本学独自の実践と理論との一体的学修の成果を基に、スポーツを通して国際相互理解や国際交流、国際支援、国際貢献が実現できるよう、眼前の課題に対して総合的かつ実践的な解決を真摯に探究できる者の入学を期待するものである。

【入学時まで身に付けてほしい学力・能力】

本学は体育及びスポーツの科学研究を基に、競技力の向上や健康で豊かな社会の実現に向け多様な学修（「実践」と「理論」）を展開している。そこで入学時まで次のような学力や能力を研いて、これらの学修に臨むことが期待される。

国語や英語で学んだことを基盤としたコミュニケーション能力、地理歴史や公民等を通じた地球規模で今日の社会を読み解く力、さらには数学や理科等で学んだ思考力に基づき、スポーツ等を客観的に分析する力等である。

(2) 選抜方法

本学のアドミッションポリシーに基づき、大学教育を受けるに相応しい能力・適性等を多面的に判定し、また多様な学生を受け入れるために次の方法で選抜を行う。

【平成 29 年度入試にて実施】

①一般入試（募集人員 30%）

（本入試の入学受入方針）

当分野での修学を目指す志願者の中から、特に高等学校までの学修において、高い学力を習得した者を受入れるため、学力検査等によって入学志願者の能力を合理的に判定する選抜方法である。具体的には次のとおりとする。

＜一般入試前期試験＞

ア) 全学統一日程

武道教育学科・スポーツ国際学科／2 教科（国語、英語）の総合得点によって判定する方式。

イ) 学部個別日程

武道教育学科のみ／2 教科（国語、英語）と武道実技試験（専攻種目）の総合得点によって判定する方式。

スポーツ国際学科のみ／2 教科（国語、英語）の総合得点によって判定する方式。

＜一般入試後期試験＞

ア) 後期

武道教育学科・スポーツ国際学科／2 教科（国語、英語）の総合得点によって判定する方式。

②推薦入試（募集人員 30%）

（本入試の入学受入方針）

当分野での修学を目指し、出身学校での修学状況及び課外活動を評価され学校長から推薦された者を受入れるため、出身学校長の推薦に基づき、学力検査を免除し、調査書の内容及び小論文、面接等の結果を主な資料として判定する選抜方法である。実施形態は、次の通りとする。

- a 本学同一法人の高等学校長の推薦に基づく選抜（指定校推薦：併設校）
- b スポーツ文化学部が指定する高等学校長の推薦に基づく選抜（指定校推薦：スポーツ文化学部指定校）
- c 日々の学習やクラブ活動等に積極的に取り組み、出身高等学校長が推薦するものに対する選抜（一般推薦）
- d 本学が指定する武道種目の競技会において、一定の基準を満たす志願者に対し、出願書類等の内容、小論文試験、面接等の結果を主な資料として判定する選抜方法である。

③アドミッション・オフィス（A0）入試（募集人員 40%）

（本入試の入学受入方針）

当該入試は、入学志願者が自らの意思で出願できるもので、当分野での修学に対する強い意欲、熱意・関心等に基づき、本学で修得する知識・技能を活かして将来展望の現実を目指す者を受入れるため、学力検査では計ることのできない適性や意欲、熱意・関心等を多面的に評価することを企図している。

具体的には、出願時に提出する調査書と課題論文等を評価する書類審査、スポーツ文化学部での学修に関わる基礎的内容に関して考察した結果を文章表現させる総合考査等の評価及び面接試験を行い、入学志願者を様々な観点から評価し、スポーツ文化学部の求める人物像等と合致しているかを確認・評価する選抜方法である。実施形態は、次の通りとする。

a 併設校 A0 入試

本学同一法人の高等学校に在籍する者で、当分野で修学する強い熱意及びその学修を通して身につけた知識や能力を活かした社会での将来展望を評価して合否決定する選抜方法である。

b 学科 A0 入試

入学志願者の当分野で修学する強い熱意及びその学修を通して身につけた知識や能力を活かした社会での将来展望を評価して合否決定する選抜方法である。

c トップアスリート A0 入試

本学が指定する武道種目等の高等学校在籍期間中の競技実績において、一定の基準を満たす志願者に対し、出願書類等の内容及び面接等の結果を主な資料

として判定する選抜方法である。

④その他入試

a 帰国生入試（募集人員若干名）

（本入試の入学受入方針）

当分野での学修を目指し、日本国籍を有する外国の学校教育を受けた者を受入れるため、本学での修学への意欲、将来展望及び海外生活で養った国際感覚等を多面的に評価して選抜する。

b 外国人留学生入試（募集人員若干名）

（本入試の入学受入方針）

本学の教育理念であるスポーツによる国際相互理解、国際平和の実現に貢献しうる人材として、当分野での学修を目指し、日本国籍を有しない外国人留学生を受入れるため、本学での修学への意欲、将来展望等を多面的に評価して選抜する。

c リカレント入試（募集人員若干名）

（本入試の入学受入方針）

国内外で活躍したトップアスリートでセカンドキャリア形成のために本学での学修を目指す者を受入れるため、修学の意欲、将来展望及び社会で養った経験等を多面的に評価して選抜する。

d 英語資格取得者入試（仮称）（募集人員若干名）

（本入試の入学受入方針）

当分野での学修に意欲を持ち、英検・TOEFL 等、英語に関する資格取得者で、将来スポーツを通して国際相互理解や国際交流、国際支援、国際貢献を目指す者を受入れるため、本学での修学への意欲、将来展望等を多面的に評価して選抜する。

【平成 29 年度以降実施予定】

平成 28 年度と同様に実施予定。

なお、平成 31 年度から正規課程外生の受入のため施策を実施する。

⑤正規課程外生選考試験（募集人員若干名）

科目等履修生・聴講生・研究生を本学学生の修学を妨げない場合に限り、いずれも若干名受入れる。

(3) 選抜体制

【平成 28 年度、開設前に実施する入学受入選抜】

入学受入選抜の最終決定は、学長が招集する入試本部会議の審議結果を基に学

長が行う。

【平成 29 年度以降実施予定】

①入学者選抜に係る組織・体制

- a 入学者選抜の最終決定は、学部教授会で審議された結果を基に学長が行う。
- b 入学者選抜に当たっては、学部教授会から付託を受けて設置している入試本部会議が、入学試験実施及び入学者選抜における全般を所掌し、判定案を学部教授会に提案する。
- c 入学試験制度案の策定は、入試本部長から委嘱された入試副本部長を中心に編成されたアドミッションセンター運営委員会において行う。
- d 入学試験実施は、入試副本部長を中心に教職員で編成された入試実施本部が中軸となり、全教職員が各種の担当を分担し運営する。

②判定の手順

- a 一般入試においては、試験結果に基づき入試本部会議が判定案を学部教授会へ提案し、学部教授会の議を経て学長が最終決定する。
- b 推薦入試、アドミッション・オフィス（AO）入試及びその他の入試においては、教授会の承認を得た予備審査会及び選考委員会を設置して、出願書類及び試験結果について精査し、入試本部会議に提案する。これに基づき入試本部会議が判定案を作成の上、学部教授会へ提案し審議した後に、学長が最終決定する。

9. 取得可能な資格

(1) 教育職員免許状資格（一種・保健体育）

中学校、高等学校の教育職員免許状（一種・保健体育）の取得を可能とするため、教職課程認定申請を2016年（平成28年）9月に行う予定である。

(2) 日本体育協会公認指導者資格

①各種の社会スポーツ指導者及び健康関連の基礎的な指導を行うことのできる人材に対する社会的ニーズが高まっている。公益財団法人日本体育協会は、上級指導員や上級コーチ等の競技種目別指導者資格、スポーツ・プログラマー等のフィットネス資格、アスレチック・トレーナー等のメディカル・コンディショニング資格、クラブ・マネージャー等のマネジメント指導者資格を認定している。

②スポーツ文化学部では、所定の科目の単位を取得することにより、共通科目Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの修了証明書及びスポーツリーダー認定証発行の申請が可能となる免除適応コースへの申請を2017年度（平成29年度）に行う予定である。

10. 実習の具体的計画

ア 実習先の確保の状況

教育実習（中学校教諭一種免許状・高等学校教諭一種免許状：保健体育）

既設学部において、東京都教育委員会を始めとする各都道府県市区町村教育委員会等を通して公立学校の申請を行っており、また、本法人併設校他、各地の中学・高等学校へ受け入れ依頼をし、合せて毎年約 800 校 1000 名以上の実習生受け入れが確保されている。

本学部の教育実習を実施するにあたり、東京都教育委員会、神奈川県教育委員会、横浜市教育委員会から資料の通り実習生受入の承諾を得ている。

【資料 3 実習先一覧】

出身県等で勤務を希望する学生は、その地で実習を行なうことにより、教育環境や教育方針を理解できることから、当該都道府県教育委員会に所定の申請を行ない、配置された学校にて実習を行なう。遠隔地における実習の場合、実習校との打合せ等で授業期間中に往復することがないように、打ち合せ等は連休や休業期間中に行なえるように事前に調整する。また、実習巡回指導を行なう特別講師による直前指導については、特別講師が大学に来て指導をするなどの配慮をする。

イ 実習先との契約内容

実習に際して、実習校との間で、前年度に受入依頼・受入回答の書類とともに、実習目的、実習内容、実習期間、実習方法、評価、その他（実習期間中における学生の指導上の責任、巡回、費用、麻疹の対応等）の内容を記した実習計画を付して書類を取り交わす。必要に応じて各教育委員会との間で所定の手続きをする。実施年度には実習期間確認書類を取り交わし、以下の内容を付した諸連絡を行なう。

1. 教育実習生関係書類について

（誓約書、教育実習生調書、教育実習録、出勤簿、成績評価報告書）

2. 出勤簿及び教育実習録の検印について

3. 実習終了後の実習校指導講評について

4. 成績評価報告書の提出について

5. 麻疹の対応について

6. 教育実習費（教材費・給食費等の実費を必要とする場合）について

7. 本学巡回教員・特別講師の巡回について

8. 公認欠席に係わること

9. 教育実習期間中における就職活動や個人的活動の禁止

10. 保険について

ウ 実習水準の確保の方策

1 年次から始まる「教員免許状取得必修プログラム」の参加と条件クリアを義務づけていること。また、中学・高校の校種に係わらず、教員免許状取得希望者は、実習の前年度までに介護等体験を行なうこと。実習の前年度までに開設しているすべての

教職に関する科目の履修及び修得を義務づけ、あわせて指定する必要単位数を満たすことを教育実習履修要件とする。

授業における「事前・事後の指導」はもちろんのこと、巡回を行なう教員・特別講師により直前指導を行なうこととし、実習水準の確保に努める。

エ 実習先との連携体制

本学教育実習等の円滑な実施・運営とその充実を図るため「教職支援センター運営委員会」の統括の下、教職支援センター員並びに巡回指導教員が本学と実習校との綿密な連絡・調整を行ない、相互理解と意思疎通を深め、教育実習の実施に万全を期す。連絡系統は【資料 4】のとおりとする。【資料 4 教育実習組織図（連携体制）】

オ 実習前の準備状況

①感染予防対策

麻疹について、本学では入学時に罹患歴及び予防接種状況について調査しており、罹患歴あるいは予防接種を受けたことがない学生に対しては健康管理センターから予防接種を受けるよう指導している。また、実習校から麻疹の抗体検査等を求められた場合は、健康管理センターを通して実習校の指示に従うよう指導を行なう。

②保険等の加入状況

実習生は、財）日本国際教育支援協会の「学生教育研究災害傷害保険」及び「学研災付帯賠償責任保険」に加入している。

カ 事前・事後における指導計画

4 年次前学期の「事前事後の指導」により、教育実習の意義と目的について十分に理解させ、教育実習生としての自覚と心得を養うとともに、実習を通して実務や教科指導、学級指導、ホームルーム経営（道徳指導）などについての実践的な指導力を高めるよう指導する。

キ 教員及び助手の配置並びに巡回指導計画

各都道府県に指導責任者を置き、実習先 1 校につき 1 人以上の担当教員を配置し、実習生への事前・事中・事後の個別指導にあたる。また、巡回指導計画については、担当者が実習期間中に挨拶並びに訪問指導を行なう。

担当者については、専任教員の他、教育実習の指導の充実を図るべく、教育実習巡回に際し、長年の学校現場指導経験に基づいた特別講師（各都道府県の教育実習巡回指導担当）を委嘱・配置しており、指導にあたっている。

ク 実習施設における指導者の配置計画

実習校には本学の専任教員は配置せず、各校の実習担当者と密接に連絡をとって実習の運営並びに実習生の指導にあたる。

ケ 成績評価体制及び単位認定方法

教育実習担当者が、実習校からの評価資料に基づき、勤務状態・研究授業の成果及び自己評価等実習全般にわたり、事前指導内容と照らし合わせ、教職支援センター運営委員会の意見を聴取し、総合的に評価する。

11. 企業実習や海外語学研修等の学外実習を実施する場合の具体的計画

「海外語学実習」

ア 英国エクセター大学での夏期語学研修に 8 月初旬から 2 週間参加する。現地での授業、ホストファミリーとの生活、地元の人達との交流などを通し、参加学生は英語の運用能力、特に聴解力と会話力を磨き、英語圏（英国）の文化の理解を深める。また、渡英前と帰国後の特別授業を実施する。

イ スポーツ・教育に関する協定を締結している。

ウ 渡英前と帰国後の授業態度（予習、復習や授業での発言など）、そして担当教員が現地に帯同し、英国での授業評価を行い、単位認定を行なう。

12. 多様なメディアを高度に利用して、授業を教室以外の場所で履修させる場合の具体的計画

原則として、対面授業を行う。ただし、国際大会に日本代表選手として選ばれる者が多い本学の特性上、一部の科目についてはこれらの ICT を活用した多様なメディアを利用して行なう授業を受講することができる制度を設けている。

ICT を活用した学習支援サービスにあっては、Web サービス学生支援システム「n-pass（エヌ・パス）」に加えて、平成 27(2015)年 4 月に、オンライン教育サポートシステム「GAKUEN Edu Track」を導入した。このシステムの学内リリースにより、個々の教員の IT スキルや情報リテラシーの高低を問わない次世代の学習支援方法が具現化する。さらには授業時間外の学習範囲やその深度が増し、教室以外でも、学生は主体的に学べる真の学習環境が得られる。これらの具体的手法や活用方法などについて、教員への教育や研修等に積極的に取り組む。

【資料 5 メディアを利用して行なう授業に関する規程】

13. 管理運営

(1) 学部長会

大学では、教学及び管理運営に関する事項のうち、全学に跨る事項及び重要な事項を審議するための機関として、学部長会を置いている。

学部長会の構成員は、学長、副学長、各学部長、各学科長、教養・教職科長及び学生支援センターを始めとする各センター長等とし、次に掲げる事項を審議する。

- ①学部、学科、専攻科等の設置及び廃止に関すること
- ②学生の定員に関すること
- ③教育研究施設等の設置及び廃止に関すること
- ④教育研究に関する施設設備等予算に関すること
- ⑤学則及び学内諸規程に関すること
- ⑥教員の採用及び昇格基準に関すること
- ⑦学部長会の構成員（学長及び学科長を除く）の選出に関すること
- ⑧各種委員会委員等の選出に関すること
- ⑨分限及び懲戒に関すること
- ⑩その他学長が必要と認めた教学に関する重要事項

学部長会は、学長が、各学部の学部長と協議のうえ必要と判断したときに開催し、学長が招集し、議長となる。

(2) 全学教授会

大学は、(1)のとおり学部長会を置くが、一方で、複数の学部教授会を合同した教授会の必要性も認められるため、全学教授会を置いている。

全学教授会の構成員は、各学部教授会の構成員（教授、准教授及び助教（任期の定めのある教員を除く。））とし、(1)に掲げる学部長会の審議事項及び(3)に掲げる学部教授会の審議事項について審議することができる。

全学教授会は、学長が、各学部の学部長と協議のうえ必要と判断したときに開催し、学長が招集し、議長となる。

(3) 学部教授会

学部の重要な事項を審議するため、スポーツ文化学部には学部教授会を置く。学部教授会の構成員は、教授、准教授、助教（任期の定めのある教員を除く）とする。学部教授会では、次に掲げる事項について審議する。

- ①教育課程、授業及び試験等教育に関すること
- ②学生の入学、卒業、休学、退学及び留学等に関すること
- ③学生の生活指導、福利厚生、奨学及び就職等に関すること
- ④学生の表彰及び懲罰に関すること
- ⑤研究計画、共同研究及び受託研究その他研究に関すること
- ⑥教員の人事に関すること

⑦学部長候補者の推薦及び学科長等の選出に関すること

⑧その他学部の教育及び研究に関する重要事項

学長、副学長は学部教授会に出席できることとし、加えて、大学事務局長その他必要な事務職員を出席させることができることとしている。

学部教授会は、原則として毎月 1 回開催（緊急を要する場合は臨時に開催）とし、学部長が招集し、議長となる。

(4) その他

学長の大学運営を補佐するため、学長補佐会議を置く。その構成員は、学長、副学長、研究科長及び学部長並びに事務局の幹部職員としている。

さらに、大学運営の重要事項について、学長の諮問又は教授会が付託する事項を審議するために各種の委員会を置くこととしており、これら各種の委員会は、部門別に区分され次のとおりとなっている。

学長は、各委員会からの学長諮問に対する答申又は各委員会から発議された上申を受けて、学部長会の審議に付すこととしている。

①管理部門

人事委員会、財務委員会、広報委員会、衛生委員会、倫理審査委員会

②教学部門

教務委員会、FD委員会、教養教育委員会

③学術部門

紀要委員会

14. 自己点検・評価

本学では、平成 5(1993)年に自己点検・評価のための組織体制を整えて以来、一貫して教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表するとともに改革改善に取り組んできた。

(1) 実施体制

①自己点検・評価協議会及び自己点検・評価委員会

本学の自己点検・評価の取組みは、平成 5(1993)年に自己点検・評価委員会を設置して、日本体育大学の現状と課題について分析することから始まった。その後、教育・研究水準の維持・向上を図り、目的及び社会的使命を達成するために平成 6(1994)年 7 月に「学校法人日本体育会自己点検・評価に関する規程」に基づき、「自己点検・評価協議会」及び「日本体育大学及び日本体育大学大学院自己点検・評価委員会」を設置し、自己点検・評価を平成 8(1996)年、平成 10(1998)年、平成 15(2003)年、平成 20(2008)年、平成 26(2014)年に実施した。その内容については『自己点検・評価報告書』としてまとめ、公開している。

また、平成 25(2013)年 12 月には「学校法人日本体育大学自己点検・評価等に関する

る規程」の改正を行い、自己点検・評価に関する複数の活動セクションを、「自己点検・評価等協議会」「日本体育大学及び日本体育大学大学院自己点検・評価等委員会」に統合し、効率化と合理化を図った。

「自己点検・評価等協議会」は学校法人日本体育大学に設置され、日本体育大学及び日本体育大学大学院の自己点検・評価に関する基本方針、実施時期及び実施基準などの基本的事項について審議決定するため、理事長、常務理事、法人事務局長、学長、副学長、学部長、大学院研究科長及び大学事務局長、その他理事長・学長が推薦する者で構成されている。

②調査・データの収集と分析を行う体制

大学機関別認証評価に係る所定のエビデンスデータ類については、事務局の各担当所掌部署にて最新の情報を更新している。

これらの最新情報は、「自己点検・評価等委員会」の構成員及び事務職員全体で共有され、これらの年度推移や現況の分析に基づき、自己点検・評価を行っている。本学の現状を把握するための情報に関しては、事務局の事務分掌の規定に応じて調査・収集・分析が実施されており、例えば、入学者に関することについてはアドミッションセンターが、学生の学習や修学支援等に関しては学生支援センター学習支援部門が、学生の生活支援や課外活動支援に関しては学生支援センター生活支援部門が、就職を含む進路に関しては学生支援センターキャリア支援部門が、教員の業務等に関しては庶務課が業務を担当しており、それぞれの業務に関わる情報やデータを集約している。そして、それらの情報やデータは、企画部課程・評価課において統一的に集約され、総合的に事務局で共有されるほか、「自己点検・評価等委員会」の資料として整理されている。

(2)実施方法

大学及び大学院の教育・研究活動等固有の事項については、学長が中心となって「自己点検・評価等委員会」が対処しており、具体的な自己点検・評価は、各学部（大学院研究科含む）、附置機関等を通じて、大学事務局が行い、企画部課程・評価課がとりまとめており、直近では、平成 27 年 5 月 1 日の状況を点検し評価を行ったほか、公益財団法人日本高等教育評価機構が実施する大学機関別認証評価を受審した。

各部署においては、関係するデータ収集・整理を行い、改善・向上方策を通常業務に反映させるほか、大学改革構想に係る所掌の取組状況や各年度事業計画等の実績や進捗状況に基づいた次年度の事業計画等の立案に取入れ、それらの事業報告をまとめる中で自己点検評価の機能を併行している。

また、教学事項に関しては、特に、FD 委員会が中心となって、授業改善に資する活動の一つとして、前学期及び後学期全ての授業で、学生による授業評価アンケートを行っている。アンケート結果については、各学期の履修授業の各成績が確定した直後に、そ

それぞれの授業担当教員及びそれぞれの授業履修者に還元している。

授業担当教員は、各学期の学生の受講反応を詳細に確認でき、次学期の授業展開に改善を加えるために有効に活用しているほか、履修者は自身の履修した授業に関し、他の履修者の回答結果を閲覧し、自身の履修行動を省みる機会となっている。

財務事項に関しては、決算後の5月に実施する会計監査にとどまらず、会計年度進行中の11月及び3月に期中監査を行い、その透明性と会計基準や予算制度などに関するコンプライアンスを担保している。

(3) 評価項目

「日本体育大学及び日本体育大学大学院自己点検・評価等委員会」は「自己点検・評価等協議会」の下、基本方針に則り、教育及び研究等の活動について自己点検・評価の実施項目、内容、方法及び結果の活用方法等の具体策を策定し、自己点検・評価の実施及び推進に当たっている。

◇自己点検・評価等協議会が定める自己点検・評価の基準

①基準 1. 使命・目的等

- 1-1. 使命・目的及び教育目的の明確性
- 1-2. 使命・目的及び教育目的の適切性
- 1-3. 使命・目的及び教育目的の有効性

②基準 2. 学修と教授

- 2-1. 学生の受入れ
- 2-2. 教育課程及び教授方法
- 2-3. 学修及び授業の支援
- 2-4. 単位認定、卒業・修了認定等
- 2-5. キャリアガイダンス
- 2-6. 教育目的の達成状況の評価とフィードバック
- 2-7. 学生サービス
- 2-8. 教員の配置・職能開発等
- 2-9. 教育環境の整備

③基準 3. 経営・管理と財務

- 3-1. 経営の規律と誠実性
- 3-2. 理事会の機能
- 3-3. 大学の意思決定の仕組み及び学長のリーダーシップ
- 3-4. コミュニケーションとガバナンス
- 3-5. 業務執行体制の機能性

3-6. 財務基盤と収支

3-7. 会計

④基準 4. 自己点検・評価

4-1. 自己点検・評価の適切性

4-2. 自己点検・評価の誠実性

4-3. 自己点検・評価の有効性

⑤その他の基準

A. 国際的な競技力向上への貢献

1. 国際化を推進すべく、諸外国との学術・スポーツ交流協定の締結
2. 体育・スポーツの指導者養成及び国際競技大会等への選手・指導者の派遣
3. 競技力向上と重点強化種目及び重点強化選手への支援及び強化策策定

B. 健康で豊かな生涯スポーツ社会の構築

1. 両キャンパス周辺地域住民を巻き込んだ健康維持・増進プログラムの推進
2. 老若男女が積極的に取り組むことのできるスポーツプログラムの構築

(4) 結果の公表

「自己点検・評価等委員会」による自己点検及び評価の結果については、「日本体育大学の現状と課題－自己点検・評価報告書－」として刊行（平成 5(1993)年度版、平成 7(1995)年度版、平成 9(1997)年度版、平成 14(2002)年度版、平成 18(2006)年度版、平成 19(2007)年度版、平成 20(2008)年度版）し、学内外に公表している。

自己点検・評価報告書のほか、認証評価機関による認証評価を受ける際に提出した所定の報告書等についても、本学ホームページに掲載して内外に公表している。

(5) 結果の活用

自己点検・評価は、大学の教育研究活動と管理運営についての現状説明、点検・評価、問題点の整理と改善に向けた課題の分析がなされており、大学運営の改善に積極的に生かされている。

これまでの自己点検・評価又は大学機関別認証評価、さらには、短期大学機関別認証評価（平成 22(2010)年 3 月 財団法人短期大学基準協会）等を経て改善・向上の方策として認識された事項については、然るべき検討・構想案件として認識されている。

自己点検・評価の結果は、「11 の大学改革構想案」に反映させているほか、特に教育課程関係については、体育学部の 2003 カリキュラム、2005 カリキュラム、2008 カリキュラム、2009 カリキュラム、2013 カリキュラムそれぞれに活かされている。

また、平成 22(2010)年 9 月には、短期的改革・改善事項及び中期的改革・改善事項として整理分類され、それらを議論するにあたって、「大学・短期大学部の改革・改善について考えるフォーラム」が設置された。このフォーラムは、教職協働で運営され、「体育学部、短期大学部の在り方」「日体大スポーツの強化（競技力向上）」「研究活動の在り方」「学生生活の充実」の四つの分科会で構成された。

各フォーラムでは、本学の現状分析、他大学の動向把握に関して、客観的データに基づいた議論が展開された上で、取り組むべき具体的方策の提案が行われた。さらに、これら活動を通じて、情報の共有化が本学構成員の間で図られていくこととなり、新たな学部や附置機関、併設機構の設置、人事制度の改革に至るまで、大学改革に資する様々な取組みに活かされている。

さらに、然るべき意思決定の場面にに関して、その計画立案、運営改善を導く先進的な研究と分析を行うことは、今日の大学運営には必須であり、外部環境への対応と拡張過程の整理、高等教育機能の追加的増加、点検及び評価から導いた課題は大学の経営問題として扱い、その対応や処理を行うことは、組織マネジメントや成果測定基準を導くこと、すなわち、各種情報の可視化を通じた共通理解及び多角的分析に基づく「運営戦略・経営戦略」を構築することであるとの考えから、平成 27(2015)年 4 月にインスティテューショナル・リサーチ室（IR 室）を設置した。IR 活動を恒常化することは、将来構想を確実に実現していくにあたって必須であり、情報の収集や分析にのみ傾倒し、数値的变化や経年推移を確認するだけにとどめず、本学の実態を視覚化して共有することにより、未来の日体大を予測する実質的な手段や仕組みを速やかに構築して、意思決定に資する取組みを推進することとしている。

15. 情報の公表

本学は、平成 22(2010)年 6 月 16 日付け文部科学省通達「学校教育法施行規則等の一部を改正する省令の施行について（通知）」を踏まえ、ホームページに情報公開コンテンツを設け、大学が公的な教育機関として、社会に対する説明責任を果たすとともに、教育の質を向上させる観点から、公表すべき情報を法令上明確にし、教育情報の一層の促進を目的とし公表している。また、「大学案内(NITTAIDAI)」や「大学広報誌(学報 NITTAIDAI)」を継続的に刊行し、学生、教職員のみならず、保護者や卒業生、本学への進学を希望・検討している高校生等に対して積極的に情報を公表している。

例：<http://www.nittai.ac.jp/about/information/index.html>

ホーム > 大学案内 > 情報公開

16. 教育内容等の改善を図るための組織的な取組

本学では、教育理念及び教育目標に基づき、FD 委員会を設置しており、教育・研究活動、教授方法及び教員の相互研鑽の支援並びに教育効果などに関して恒常的に検討を行

い、教員の資質の向上を図るため、大学全体で組織的に取り組んでいる。

また、個々の教員の教育・研究活動の質を保障・支援するため、日本体育大学専任教員の活動評価制度に基づき、年度当初に目標を掲げて諸活動に取り組むこと並びに年度終了後の自己点検・評価及びフィードバックを導入し、教員の資質の維持向上を図る。

具体的には以下のとおりである。

- ①年度当初に研究と競技指導について目標を掲げる
- ②年度終了後の自己点検・評価
- ③教員へのフィードバック
- ④研究資源の一元化による積極的な研究の活発化
- ⑤個人研究費を活用し国内外の学会参加
- ⑥共同研究体制を組織化し、研究書の出版など研究成果の公開
- ⑦学生による授業評価

本学の教学支援システム(Web サービス)NSSU PASSPORT<通称 n-pass(エヌ・パス)>では、「授業」を切り口とした、担当教員と履修者の I C Tホットライン「クラスプロフィール」を有効活用しており、授業評価アンケートや採点、出席管理から授業資料の事前・事後配付、課題配信に至るまで、単位相当の授業管理を行っている。

授業評価アンケート設問に対する回答の状況や履修者から寄せられる意見などから、授業担当教員は、自らの授業方法の改善や修正、また、有効な授業方法の情報提供を行うほか、n-pass の運用方法提案や機能修正の要望、さらには有効な使用方法の教授を求めるなど、授業改善と自身のスキルアップに取り組んでいる。

大学が提供する 1 時限 9 0 分の授業をより効果的に行うため、先ずは、出席者の把握や、資料等の配付、課題の回収にかかる時間を除去削減し、授業担当教員が学問の教授に集中できるよう、事務局は授業に係る周辺業務の効率化に積極的に参画している。各教員は、これら効率化の先に授業内容の充実を展開し、大学は、カリキュラム改革、組織の整備改善等に取り組む。

また、ICT を活用した学習支援サービスにあつては、「n-pass」に加えて、平成 27 年 4 月にオンライン教育サポートシステム「GAKUEN EduTrack」<通称 n-track(エヌ・トラック)>を導入した。このシステムの学内リリースにより、個々の教員の IT スキルや情報リテラシーの高低を問わない次世代の学習支援方法が具現化するため、授業時間外の学習範囲やその深度が増し、授業では対話型学習などの理想的な「反転授業」が実践できるなど、学生は主体的に学べる真の学習環境が得られる。これらの ICT を活用した先端的教育機能の積極的導入により、飛躍的な教育改革を推進することができる教育環境も整えられたことから、課題解決に向けた主体的・協働的で、能動的な学び（アクティブラーニング）の導入など、授業方法等を革新するために、これらの具体的手法や活用方法などについて、教育への教育や研修等に積極的に取り組む。

17. 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

(1) 本学における就業力育成の基本的な考え方

中央教育審議会の答申及び大学設置基準の改正に謳われている「学士力」及び「就業力」を教育課程の内外を通じて培い、質の高い教養と高度な専門性を兼ね備えた人材を育成し輩出することが可能となる仕組みを構築し、学生自身にどのような資質や能力をどのようにして獲得していくのかを十分理解させ、自らが学修計画を考え学ぶことができるように体系的な整備を行った上で、これを明らかにすることが必要となる。

このため、本学の建学の精神、ミッション、ビジョン、アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーを基盤として、これを体現させるために必要となる教育課程を構築するほか、本学の学生が享受できる実践的なコンピテンシー（行動特性）及びそれらの獲得のための具体的方策を明らかにするとともに、本学独自の学友会活動など、教育課程外の活動と有機的に連動する仕組みを備えるものとする。

加えて、知識基盤社会に通用しうる高い教養と専門的能力を育成する学士課程を構築するため、日本語の運用能力やコミュニケーション能力、自ら課題を発見してその解決に向けて取組むことのできる力、組織の一員として仲間と協力して目標を達成する力、実能力などを修得させるためのプログラムを備えた仕組みとする。

(2) 本学の就業力育成の取組み

①キャリア形成プロジェクトの編成と実施

学生が社会において強力な即戦力として活躍できる就業力及び自らの生涯にわたって充実したキャリアアップが図れる力の獲得を目指し、キャリア形成プロジェクトを編成している。

【業務】

(ア) 新入生に対してリメディアル教育(補習教育)及び導入教育(1年次)を実施し、基礎学力の向上と自己認識を到達目標として定め、教育課程上に、キャリア形成に資する関連科目を配置し適切な時期に開設する。

(イ) インターネットを利用したポータルシステム上で、学生の学びや気づき、体験や大学生活を学生自身が記録し、入学から卒業までの学生個々の日頃の学習や活動を学生各自が記録することによって、学生自らが自己を振り返って現状を認識するとともに、学生自らがPDCA サイクルに沿った学修を実践するほか、キャリアアドバイザーを中心とした学生支援センター員の指導を受けて、次段階の行動に意識的につなげていけるようにする。

(ウ) インターンシップあるいはボランティアなど、地域と連携した活動等ある

いは本学学友会活動の体験を通じて、自己の課題発見と自己管理の習慣化を図り、継続的に学ぶことのできる習慣の獲得を図る。

(エ) 継続的にインターンシップ、学友会等の活動を行うとともに、教育課程において展開される専門的知識の獲得とを合わせ、専門知識の応用能力を磨くことによって就業力の獲得につなげる。

(オ) キャリア形成を主眼とした科目を教育課程上で、適切な時期に設定し、学外における活動やキャリア形成講座等を連動させることにより、社会適応能力や実践的専門能力の向上につなげる。

(カ) 就職後3年間は、毎年新卒入社企業等に対する定着率を調査するとともに、適宜助言を行う。

【プロジェクトの編成】

学生支援センターのセンター員(キャリア支援部門)から選任するほか、さらにキャリアアドバイザー(事務職員＝専門職)を配置する。

【プロジェクトの運営】

学生支援センター運営委員会が、教養教育委員会及び教職支援センター運営委員会と連携して検討する。

(3) 全学的な就業力育成を支える体制

【学生支援センター】

本学では、平成24(2012)年度に「学生支援センター」を設置した。学生支援センターの根幹となる機能は、学生が本学の教育理念に則って、有為な人材として社会に巣立って行くために、本学でのキャンパスライフをより快適かつ有意義に送ることができるよう支援することである。

学生のキャリア形成や、本学において学生生活を送る上で必要となる履修及び学生生活(学友会活動及び寮生活を含む)に係る各種支援業務について、教育課程に包含するキャリア形成プロジェクトや日体力育成プログラム(既設体育学部において平成25(2013)年度から取組開始)で有機的に連動し、より高い教育効果を得ることが可能となる組織構成としている。

具体的には、学習支援部門、生活支援部門、キャリア支援部門及び健志台事務室を設置し、ワンストップによる学生対応により、利便性と即応性さらには各部門の協働関係の向上を実現する。

また、充実した学生サポートを行うため、キャリアアドバイザーとアカデミックアドバイザーを配置し連携を取ることにしている。

①キャリア支援部門

キャリア形成プロジェクト、キャリアガイダンス、就職相談、新規就職先開拓、就職対策講座等の研修会や学習会の企画・運営等、学生のキャリアアップにつな

がる各種支援業務を担当する。

②学習支援部門

履修、単位取得、修学相談、正課外活動等、学生が修学する上で必要となる各種支援業務を担当する。

③生活支援部門

奨学金、賞罰、学友会活動、生活拠点、寮生活等、学生が学生生活を送る上で必要となる各種支援業務を担当する。

④健志台事務室

横浜・健志台キャンパスにおける、庶務業務及びキャリア支援業務を除く各種支援業務全般並びに施設・設備等の維持管理業務を担当する。

【資料 6 学生支援センターの機能と学士課程のグランドデザイン】

資 料 目 次

- 【資料 1-1】 履修モデル① 武道や芸道を通じて国際交流や社会貢献を目指す場合（教免希望無し）
- 【資料 1-2】 履修モデル② 学校教育機関において日本の身体運動文化や精神文化を教育できる人材を目指す場合（教免希望有り）
- 【資料 1-3】 履修モデル③ 国内外においてスポーツ活動を基盤とする社会貢献を目指す場合（教免希望無し）
- 【資料 1-4】 履修モデル④ 国内外のスポーツ関連企業や国内の自治体において活躍できる人材の育成を目指す（教免希望有り）
- 【資料 2】 施設別時間割
- 【資料 3】 実習先一覧
- 【資料 4】 教育実習組織図（連携体制）
- 【資料 5】 メディアを利用して行なう授業に関する規程
- 【資料 6】 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制に係る図

（履修モデル1）スポーツ文化学部武道教育学科 【武道や芸道を通じて国際交流や社会貢献を目指す（教免希望無し）】

資料1-1

		1 年 次				2 年 次				3 年 次				4 年 次			
		前 期		後 期		前 期		後 期		前 期		後 期		前 期		後 期	
		科 目 名	単位	科 目 名	単位	科 目 名	単位	科 目 名	単位	科 目 名	単位	科 目 名	単位	科 目 名	単位	科 目 名	単位
学部共通	教養	国語表現Ⅰ	1	基礎英語Ⅱ	1	国語表現Ⅱ	1	英語コミュニケーションⅡ	1								
		基礎英語Ⅰ	1			英語コミュニケーションⅠ	1										
		芸術	2			社会学	2										
		哲学	2			歴史学	2										
	総合	日体大の歴史(日体伝統実習を含む)	2	地域社会とスポーツ	2	キャンプ実習	1	スポーツと組織	2	スポーツ文化研究C	2	(スポーツ文化研究C)		スポーツ文化研究D	2	(スポーツ文化研究D)	
		2			キャリアデザインA	2	スポーツ文化研究B	1			スケート実習	1					
(学部専門 理論)	基幹			スポーツ哲学	2	芸道論	2			スポーツ社会学	2						
				スポーツ史	2	異文化交流論	2										
				野外活動論	2	スポーツ医学	2										
	展開			衛生学・公衆衛生学(運動衛生学を含む)	2			身体文化論	2								
(学部専門 実技)	展開	運動方法・陸上競技	1	運動方法・体づくり運動(体操)	1					運動方法・球技A	1	運動方法・球技B	1				
		運動方法・水泳	1	運動方法・器械運動	1					スポーツ実践指導法・相撲	1						
		運動方法・フットボール(野球を含む)	1	運動方法・ダンス(フォードダンスを含む)	1												
		運動方法・武道(柔道)	1														
学科基礎	基幹	文化人類学	2	スポーツ文化論	2			武道論	2								
		礼法	1	スポーツ人類学	2												
	展開			伝統芸能の諸相	2	スポーツ栄養学(食品学を含む)	2	学校保健	2	スポーツ心理学	2	コーチング学	2				
								国際情勢理解	2			スポーツ経営管理学	2				
学科専門	基幹(理論)					武道教育論	2					伝統芸能論	2				
						比較武道文化論	2					武道技術論	2				
						比較国際普及論	2					稽古論	2				
	基幹(実践)											伝統文化交流実習A	1				
	展開(理論)					舞踊創作論(作品論を含む)	2			武道用具論	2			芸能鑑賞論	2	武道文献購読	2
															古典芸能論(能・舞踊)	2	
	展開(実践)	伝統芸能実技1	1	国際武術実技	1	伝統芸能実技3	1	伝統芸能実技4	1	武道実技(形)	1	伝統芸能実技6	1				
				伝統芸能実技2	1			伝統芸能実習Ⅰ	1	伝統芸能実技5	1	伝統芸能実習Ⅱ	1				
学門科専	資格関連	教師論	2	教育原理	2	道德教育の研究	2	特別活動の研究	2	体育科教育実践法	1						
										学習指導論	2						
小計			20		24		28		16		15		15		4		4
合計									126								

（履修モデル2）スポーツ文化学部武道教育学科 【学校教育機関において日本の身体運動文化や精神文化を教育できる人材を目指す（教免希望有り）】

資料1-2

		1 年 次				2 年 次				3 年 次				4 年 次			
		前 期		後 期		前 期		後 期		前 期		後 期		前 期		後 期	
		科 目 名	単位	科 目 名	単位	科 目 名	単位	科 目 名	単位	科 目 名	単位	科 目 名	単位	科 目 名	単位	科 目 名	単位
学部共通	教養	国語表現Ⅰ	1	基礎英語Ⅱ	1	国語表現Ⅱ	1	英語コミュニケーションⅡ	1								
		基礎英語Ⅰ	1			英語コミュニケーションⅠ	1										
		法学（日本国憲法）	2														
		情報処理（情報機器の操作を含む）	2			歴史学	2										
	芸術	2															
	総合	日体大の歴史（日体伝統実習を含む）	2			キャリアデザインA	2	スポーツと組織	2	スポーツ文化研究C	2	（スポーツ文化研究C）		スポーツ文化研究D	2	（スポーツ文化研究D）	
		スポーツ文化研究A	2			海浜実習	1	スポーツ文化研究B	1			スキー実習	1				
			地域社会とスポーツ	2													
学部専門（理）	基幹	救急処置各論	2	スポーツ哲学	2	芸道論	2			スポーツ社会学	2						
				スポーツ史	2	異文化交流論	2										
	展開			野外活動論	2												
				機能解剖学	2			衛生学・公衆衛生学	2								
（学部専門） （技術）	展開							スポーツ生理学	2								
		運動方法・陸上競技	1	運動方法・体づくり運動（体操）	1					運動方法・球技A	1	運動方法・球技B	1				
		運動方法・水泳	1	運動方法・器械運動	1					スポーツ実践指導法・相撲	1						
		運動方法・フットボール（野球を含む）	1	運動方法・ダンス（フォークダンスを含む）	1												
学科基礎	基幹	文化人類学	2	スポーツ文化論	2			武道論	2								
		礼法	1	スポーツ人類学	2												
	展開			伝統芸能の諸相	2	トレーニング学	2	人権教育	2	スポーツ心理学	2						
								学校保健	2	学校安全（救急処置を含む）	2	伝統芸能論	2				
学科専門	基幹（理論）					武道教育論	2					武道技術論	2				
						比較武道文化論	2					稽古論	2				
						武道国際普及論	2										
	基幹（実践）											伝統文化交流実習A	1				
	展開（理論）					舞踊創作論（作品論を含む）	2							芸能鑑賞論	2	古典芸能論（能・舞踊）	2
						伝統芸能交流論	2										
	展開（実践）	専攻武道実技Ⅰ	2	（専攻武道実技Ⅰ）						専攻武道実技Ⅲ	2	（専攻武道実技Ⅲ）		専攻武道実技Ⅳ	2	（専攻武道実技Ⅳ）	
					専攻武道実技Ⅱ	2	（専攻武道実技Ⅱ）		武道実技（弓道）		競技スポーツ実技	1					
学門科専	資格関連	教師論	2	教育原理	2	体育科教育法	2	教育心理学	2	学習指導論	2	教育課程論	2	事前事後の指導	1	教職実践演習	2
						道徳教育の研究	2	保健科教育法	2	生徒指導論（進路指導を含む）	2	教育カウンセリング	2	教育実習	4		
								特別活動の研究	2			教育経営	2				
小計			25		22		29		20		18		16		11		4
合計																	

(履修モデル3) スポーツ文化学部国際スポーツ学科 【国内外においてスポーツ活動を基盤とする社会貢献を目指す(教免希望無し)】

資料1-3

		1 年 次				2 年 次				3 年 次				4 年 次			
		前 期		後 期		前 期		後 期		前 期		後 期		前 期		後 期	
		科 目 名	単位	科 目 名	単位	科 目 名	単位	科 目 名	単位	科 目 名	単位	科 目 名	単位	科 目 名	単位	科 目 名	単位
学部共通	教養	国語表現Ⅰ	1	基礎英語Ⅱ	1	国語表現Ⅱ	1	英語コミュニケーションⅡ	1	英会話	2	(英会話)					
		基礎英語Ⅰ	1			英語コミュニケーションⅠ	1										
		芸術	2			社会学	2										
		哲学	2			歴史学	2										
	総合	日体大の歴史(日体伝統実習を含む)	2	地域社会とスポーツ	2	海浜実習	1	スポーツと組織	2	スポーツ文化研究C	2	(スポーツ文化研究C)		スポーツ文化研究D	2	(スポーツ文化研究D)	
		スポーツ文化研究A	2			キャリアデザインA	2	スポーツ文化研究B	1			スキー実習	1				
(学部専門)	基幹			スポーツ哲学	2	芸道論	2			スポーツ社会学	2						
				スポーツ史	2	異文化交流論	2										
				スポーツの安全管理(リスクマネジメント)	2												
				野外活動論	2												
	展開							身体文化論	2								
								スポーツ生理学	2								
技(体育専門)	展開	運動方法・陸上競技	1	運動方法・体づくり運動(体操)	1					運動方法・球技A	1	運動方法・球技B	1				
		運動方法・水泳	1	運動方法・器械運動	1					スポーツ実践指導法・相撲	1						
		運動方法・フットボール(野球を含む)	1	運動方法・ダンス(フォークダンスを含む)	1												
		運動方法・武道(相撲)	1														
学科基礎	基幹	文化人類学	2	スポーツ文化論	2			武道論	2								
		礼法	1	スポーツ人類学	2												
	展開			伝統芸能の諸相	2	トレーニング学	2	人権教育	2	スポーツと国際協力	2	コーチング学	2				
						スポーツ栄養学(食品学を含む)	2	伝統芸能史	2			スポーツ経営管理学	2				
学科専門	基幹(理論)	ニューススポーツ論	2			スポーツフィールドワーク論	2	スポーツ国際概論	2	アジアのスポーツ文化論	2	欧米のスポーツ文化論	2				
								スポーツフィールドワーク実習	1								
	基幹(実践)			ニューススポーツ実技	1							スポーツ国際実習	1				
												スポーツ国際支援実習	1				
	展開(理論)					スポーツメガイベント論	2	スポーツ政策論	2	スポーツマネジメント	2	世界のスポーツ情勢	2				
												スポーツ情報リテラシー	2				
												スポーツ運動のメカニズム論	2				
												健康スポーツ開発論	2				
	展開(実践)			エスニックスポーツ実技	1							海外スポーツ指導実技	1				
学門科専	資格関連	教師論	2	教育原理	2	道德教育の研究	2	教育心理学	2	体育科教育実践法	1						
								特別活動の研究	2								
小計			21		24		23		23		15		19		2		0
合計		127															

():通年科目

（履修モデル４）スポーツ文化学部国際スポーツ学科 【国内外のスポーツ関連企業や国内の自治体において活躍できる人材の育成を目指す（教免希望有り）】

資料1-4

		1 年 次				2 年 次				3 年 次				4 年 次			
		前 期		後 期		前 期		後 期		前 期		後 期		前 期		後 期	
		科 目 名	単位	科 目 名	単位	科 目 名	単位	科 目 名	単位	科 目 名	単位	科 目 名	単位	科 目 名	単位	科 目 名	単位
学部共通	教養	国語表現Ⅰ	1	基礎英語Ⅱ	1	国語表現Ⅱ	1	英語コミュニケーションⅡ	1								
		基礎英語Ⅰ	1			英語コミュニケーションⅠ	1	海外語学研修	2								
		芸術	2			歴史学	2										
		法学（日本国憲法）	2														
		情報処理（情報機器の操作を含む）	2														
	総合	自体大の歴史（日本伝統実習を含む）	2	地域社会とスポーツ	2	キャンプ実習	1	スポーツと組織	2	スポーツ文化研究C	2	（スポーツ文化研究C）		スポーツ文化研究D	2	（スポーツ文化研究D）	
		スポーツ文化研究A	2			キャリアデザインA	2	スポーツ文化研究B	1			スケート実習	1				
（学部専門 理論）	基幹			スポーツ哲学	2	芸道論	2			スポーツ社会学	2						
				スポーツ史	2	異文化交流論	2										
				野外活動論	2	スポーツ医学	2										
	展開			衛生学・公衆衛生学	2			スポーツ生理学	2								
（学部専門 実技）	展開			発育発達論	2												
		運動方法・陸上競技	1	運動方法・体づくり運動（体操）	1					運動方法・球技A	1	運動方法・球技B	1				
		運動方法・水泳	1	運動方法・器械運動	1					スポーツ実践指導法・剣道	1						
		運動方法・フットボール（野球を含む）	1	運動方法・ダンス（フォークダンスを含む）	1												
		運動方法・武道（剣道）	1														
学科基礎	基幹	文化人類学	2	スポーツ文化論	2			武道論	2								
		礼法	1	スポーツ人類学	2												
	展開							学校保健	2	スポーツ心理学	2	コーチング学	2				
										学校安全	2	スポーツ経営管理学	2				
						比較舞踊学	2			スポーツと国際協力	2	伝統芸能論	2				
学科専門	基幹（理論）	ニューススポーツ論	2			スポーツフィールドワーク論	2	スポーツ国際概論	2	アジアのスポーツ文化論	2	欧米のスポーツ文化論	2				
								スポーツフィールドワーク実習	1								
	基幹（実践）			ニューススポーツ実技	1							スポーツ国際支援実習	1				
	展開（理論）					スポーツメガイベント論	2	スポーツ政策論	2	スポーツマネジメント	2	世界のスポーツ情勢	2				
								スポーツとコミュニケーションA	1			スポーツ情報リテラシー	2				
								スポーツとコミュニケーションB	1			健康スポーツ開発論	2				
	展開（実践）					身体表現実技	1					海外スポーツ指導実技	1				
学門科専	資格関連	教師論	2	教育原理	2	道德教育の研究	2	教育心理学	2	学習指導論	2	教育課程論	2	事前事後の指導	1	教職実践演習	2
						体育科教育法	2	特別活動の研究	2	生徒指導論（進路指導を含む）	2	教育カウンセリング	2	教育実習	4		
								保健科教育法	2			教育経営	2				
	小計		23		23		24		25		20		24		7		2
合計		148															

（ ）：通年科目

施設時間割【東京・世田谷キャンパス】 【月】曜日																	
校舎	教室番号	収容人数	1 限			2 限			3 限			4 限			5 限		
			期間	科目名	学年・クラス	期間	科目名	学年・クラス	期間	科目名	学年・クラス	期 間	科目名	学年・クラス	期 間	科目名	学年・クラス
	1201	200	前学期:精神医学 後学期:スポーツ史		2:B1-9 2:B1-9	前学期:教師論 後学期:障害福祉		3:A45-50 3:B1-9	前学期:文学 後学期:児童・家庭福祉		2:B1-9 3:B1-9						
	1202	200	後学期:スポーツ心理学		3:B1-9	前学期:保健科教育実践法 後学期:スポーツ医学		3:A21-26 2:B1-9	前学期:スポーツ社会学 後学期:経済学		3:A45-50 2:B1-9	前学期:スポーツ生理学 後学期:スポーツ経営管理学		2:B1-9 3:A45-50			
	1301	200				前学期:トレーニング学 後学期:スポーツ心理学		2:B1-9 3:D1-8	前学期:保健科教育実践法 後学期:コンディショニング論		3:A27-32 3:A45-50	後学期:学校保健(小児保健・精神保健を含む)		2:B1-9			
	1302	200	後学期:世界のスポーツ情勢		3:T1-4	前学期:健康管理学 後学期:学習指導論		3:B1-9 3:A45-50	前学期:臨床心理学(カウンセリングを含む) 後学期:武道論		3:B1-9 2:T1-4	前学期:臨床看護学(実習を含む)【一般学生】 後学期:ヘルスカウンセリング		3:B1-9 3:B1-9			
	2201	200	前学期:学習指導論 後学期:古典芸能論(能・舞踊)		3:T1-4 4:S1-4	後学期:武道文献講読		4:S1-4	前学期:アジアのスポーツ文化論 後学期:スポーツ文化論		3:T1-4 1:T1-4	前学期:文化人類学 後学期:スポーツ生理学		1:T1-4 2:T1-4	前学期:比較舞踊学 後学期:スポーツ生理学		2:S1-4 2:S1-4
	2202	200	前学期:伝統芸能交渉論 後学期:地域社会とスポーツ		2:S1-4 1:T1-4	前学期:学校安全(救急処置を含む) 後学期:武道史各論		3:T1-4 2:S1-4	前学期:哲学 後学期:地域社会とスポーツ		1:T1-4 1:S1-4	前学期:生徒指導論(進路指導を含む) 後学期:伝統芸能の諸相		3:T1-4 1:T1-4	前学期:生徒指導論(進路指導を含む) 後学期:生徒指導論(進路指導を含む)		3:S1-4 3:S1-4
	2301	200	前学期:キャリアデザインA 後学期:機能解剖学		2:T1-4 1:S1-4	前学期:キャリアデザインA 後学期:機能解剖学		2:S1-4 1:T1-4	前学期:文化人類学 後学期:伝統芸能論		1:S1-4 3:T1-4	前学期:学習指導論 後学期:教育課程論		3:S1-4 3:T1-4	通年:フランス語 通年:フランス語		3:T1-4 3:T1-4
	3201	200	前学期:日体大の歴史(日体伝統実習を含む) 後学期:児童健康教育論		1:G1-8 1:G1-8	前学期:文学と人間 後学期:変遷する社会と人間生活		2:G1-8 2:G1-8	前学期:児童スポーツコーチング学 後学期:教育の方法と技術(リサーチ教育含)		2:G1-6 2:G1-6	前学期:国語科教育実践論 後学期:伝統芸能論		4:G1-6 3:S1-4			
	3202	200	前学期:スポーツハイパフォーマンス 後学期:アスリートスポーツ論		3:G1-8 3:G1-8	前学期:幼児理解		4:G1-6	前学期:保育内容(表現)指導法 後学期:発達障害と特別支援教育		4:G1-6 3:G1-6	前学期:教育相談(カウンセリングを含む) 後学期:初等図画工作科教育法		3:G1-6 3:G1-6			
	2204	100	前学期:国語表現Ⅰ 後学期:キャリアデザインB		1:T1-2 3:S1-4	前学期:国語表現Ⅰ 後学期:キャリアデザインB		1:T3-4 3:T1-4	前学期:社会学 後学期:教職実践演習		2:S1-4 4:S3-4	前学期:社会学 後学期:教職実践演習		2:T1-4 4:S1-2			
	2206	100				後学期:教育カウンセリング		3:A21-26	前学期:歴史学 後学期:教育カウンセリング		2:T1-4 3:A27-32	前学期:歴史学 後学期:教育カウンセリング		2:S1-4 3:A27-32			
	3204	100	前学期:キャリアデザインB 後学期:救急処置実習(テーピングを含む)		3:B1-9 4:G4-6	前学期:生徒指導論(進路指導を含む) 後学期:体育科教育実践法		3:A27-32 3:A27-32	前学期:生徒指導論(進路指導を含む) 後学期:体育科教育実践法		3:A21-26 3:A21-26						
	3206	100	前学期:英語コミュニケーションⅠ 後学期:英語コミュニケーションⅡ		2:G1-2 2:G1-2	前学期:家庭支援論 後学期:救急処置実習(テーピングを含む)		4:G7.8 4:G1-3	前学期:基礎英語Ⅰ 後学期:基礎英語Ⅱ		1:G3.4 1:G3.4						
	6B01 (移動席)	104				後学期:発達障害と特別支援教育		3:G7.8	前学期:社会的養護内容 後学期:発達心理学		4:G7.8 3:G7.8						
	2203	50	前学期:保育内容(人間関係)		2:G7.8	前学期:保育内容(人間関係)		3:G7.8	前学期:野外活動理論・実習 後学期:保育内容(環境)		大学院:M5 2:G7.8	後学期:教育の方法と技術(リサーチ教育含)		2:G7.8			
	2205	50	後学期:スポーツ文化研究B		2:T1-2	後学期:スポーツ文化研究B		2:T3-4	後学期:スポーツ文化研究B		2:S3-4	後学期:スポーツ文化研究B		2:S1-2			
	3205	50	後学期:スポーツフィールドワーク実習		2:T3-4	後学期:スポーツフィールドワーク実習		2:T1-2	後学期:保健科教育実践法		3:S3-4	後学期:保健科教育実践法		3:S1-2			
	6301 移動席	54							後学期:保育内容総論		1:G7.8						
	3G01 実験室	60										前学期:臨床看護学(実習を含む)【病院実習生】		3:B1-9			
	3G02 実験室	60															
	2302 コンピュータ室	60				前学期:情報機器の操作		1:G5.6				前学期:情報機器の操作		1:G1.2			
	3301 音楽室	80	後学期:ピアノ		2:G7				通年:初等音楽 通年:初等音楽		1:G1.2 1:G1.2	通年:初等音楽 通年:初等音楽		1:G7 1:G7			
	2G03 福祉・介護 演習・実習室																
	3G13 (社会福祉) 実習指導室																
	3203 保育演習室	50															
	3312 幼児教育優先 調理実習室																
	2306	25				前学期:スポーツ教育論 後学期:スポーツ経営学特論		大学院:M5 大学院:D1	前学期:野外活動理論・実習 通年2:公衆衛生学特論演習		大学院:M5 大学院:D4						
	2G15 カンファレンスルーム					前学期:障害学特論		大学院:D3				後学期:インクルーシブ体育指導理論・実習		大学院:M5			
	2307 大学院優先	25	前学期:レクリエーション指導理論・実習 後学期:パフォーマンス分析理論・実習		大学院:M5 大学院:M4	前学期:コーチング学特論Ⅱ 後学期:トレーニング学特論Ⅱ		大学院:M4 大学院:M2	前学期:健康教育学特論 後学期:体づくり運動授業づくり理論・実習		大学院:D3 大学院:M5	通年:スポーツ教育学特論演習 通年:スポーツ教育学特論演習		大学院:D4 大学院:D4			
	2310 大学院優先	25	前学期:スポーツメディア論特論Ⅰ 後学期:レジャー・レクリエーション学特論Ⅱ		大学院:M1 大学院:M1	前学期:身体教育学特論Ⅰ 後学期:身体教育学特論Ⅱ		大学院:M1 大学院:M1	前学期:スポーツ経営学特論Ⅰ 後学期:スポーツ経営学特論Ⅱ		大学院:M1 大学院:M1	前学期:スポーツ史特論Ⅰ 後学期:スポーツ哲学特論Ⅱ		大学院:M1 大学院:M1			
	2311 大学院優先	25	前学期:健康教育学特論 後学期:健康環境学特論Ⅱ		大学院:M3 大学院:M3	前学期:保健環境学特論Ⅰ 後学期:保健環境学特論Ⅱ		大学院:M3 大学院:M3	前学期:運動生理学特論Ⅰ 後学期:運動生理学特論Ⅱ		大学院:M3 大学院:M3	前学期:学校心理学特論 後学期:運動衛生学特論Ⅱ		大学院:M5 大学院:M3			
	2312 大学院優先	25	前学期:スポーツ人類学特論 後学期:スポーツ心理学特論Ⅱ		大学院:D1 大学院:D2	後学期:スポーツ生理学特論		大学院:D2	通年:トレーニング学特論演習 通年:トレーニング学特論演習		大学院:D2 大学院:D2	前学期:トレーニング学特論 後学期:競技力向上メカニズム論B		大学院:D2 大学院:M2			
	3313 作法室																
	6101 調理実習室	72															
	6201 図画工作室	70				通年:初等図画工作 通年:初等図画工作		3:G1.2 3:G1.2				通年:初等図画工作 通年:初等図画工作		3:G7.8 3:G7.8			
	6202 理科室	56															
	6302 家庭科室	72															

施設時間割【東京・世田谷キャンパス】														【火】曜日			
校舎	教室番号	収容人数	1 限			2 限			3 限			4 限			5 限		
			期間	科目名	学年・クラス	期間	科目名	学年・クラス	期間	科目名	学年・クラス	期 間	科目名	学年・クラス	期 間	科目名	学年・クラス
	1201	200	前学期: 体育科学論IIA 後学期: 体育科学論IIB		大学院: M全 大学院: M全	前学期: 地域福祉A 後学期: スポーツ経営管理学		3: B1-9 3: B1-9	前学期: 教育課程論 後学期: 教師論		3: B1-9 3: B1-9	前学期: 生命科学 後学期: スキー理論・実習		1: A21-26 3: D1-8			
	1202	200	後学期: スポーツビジネス論		3: D1-8	前学期: 芸能鑑賞論 後学期: 高齢者福祉と介護Ⅰ		4: S1-4 2: B1-9	前学期: 道徳教育の研究 後学期: スポーツ社会学		2: B1-9 3: D1-8	前学期: 学校安全(救急処置を含む)		3: B1-9			
	1301	200	前学期: 社会福祉調査 後学期: スポーツ社会学		3: B1-9 3: B1-9	後学期: 教師論		3: D1-8	前学期: 芸道論 後学期: 国際情勢理解		2: T1-4 2: T1-4	前学期: ソーシャルワーク概論A 後学期: ソーシャルワーク概論B		2: B1-9 2: B1-9			
	1302	200	前学期: 保育内容(人間関係)指導法 後学期: スポーツ哲学		4: G1-6 1: S1-4	後学期: スポーツ哲学		1: T1-4	前学期: 日体大の歴史(日体伝統実習を含む) 後学期: 心理学		1: S1-4 1: S1-4	前学期: 教育課程論		3: D1-8			
	2201	200	後学期: 稽古論		3: S1-4	後学期: 国際情勢理解		2: S1-4	前学期: スポーツと国際協力 後学期: スポーツ史		3: S1-4 1: T1-4	後学期: スポーツ史		1: S1-4			
	2202	200	前学期: 日体大の歴史(日体伝統実習を含む) 後学期: コーチング学		1: T1-4 3: T1-4	後学期: コーチング学		3: S1-4	前学期: 比較武道文化論 後学期: 武道国際交流論		2: S1-4 2: S1-4	前学期: スポーツフィールドワーク論 後学期: 教育心理学		2: T1-4 2: T1-4	前学期: 比較舞踊学 後学期: 教育心理学		2: T1-4 2: S1-4
	2301	200	後学期: 心理学		1: T1-4	前学期: 生命の科学 後学期: 経済学から眺める社会		2: G1-8 2: G1-8	前学期: 保育内容(造形表現)指導法 後学期: 生涯スポーツ論		4: G1-6 4: G1-6	前学期: 教師論 後学期: 保健科教育法		1: S1-4 2: S1-4	前学期: 芸道論 後学期: 保健科教育法		2: T1-4 2: T1-4
	3201	200	前学期: 教育実習指導Ⅰ 後学期: 教育の制度と経営		3: G1-2 3: G1-6	前学期: 保育内容(健康)指導法 後学期: スポーツ社会学		4: G1-6 3: G1-6	前学期: 生徒指導論(進路指導を含む) 後学期: 地域福祉と社会教育		3: G1-6 4: D1-8	前学期: スポーツと国際協力 後学期: 教育カウンセリング		3: T1-4 3: S1-4	通年: 英会話 通年: 英会話		3: S1-4 3: S1-4
	3202	200	前学期: 保育原理 後学期: 保育内容(言葉)指導法		1: G1-6 4: G1-6	前学期: 身体とスポーツの文化論 後学期: スポーツ生理学		1: G1-8 1: G1-8	前学期: 児童スポーツトレーニング学 後学期: 初等体育科教育法(実技場併用)		2: G1-6 2: G1-6	前学期: 児童医学 後学期: 初等社会		4: G1-6 1: G1-6			
	2204	100	前学期: 国語表現Ⅱ 後学期: 基礎看護学		2: B1-2 2: B1-4	前学期: 国語表現Ⅱ 後学期: スポーツとコミュニケーションA		2: B6-7 2: T3-4	前学期: 生命科学 後学期: 基礎看護学		1: A27-32 2: B6-9	前学期: 教師論		1: G7-8			
	2206	100	前学期: 国語表現Ⅱ 後学期: スポーツとコミュニケーションA		2: S1-2 2: T1-2	前学期: 国語表現Ⅱ 後学期: 健康スポーツ開発論		2: T1-2 3: T1-4	後学期: 教職実践演習		4: T3-4	後学期: 教職実践演習		4: T1-2	通年: ドイツ語 通年: ドイツ語		3: T1-4 3: T1-4
	3204	100	前学期: 国語表現Ⅱ 後学期: スポーツとコミュニケーションB		2: S3-4 2: T3-4	前学期: 国語表現Ⅱ 後学期: スポーツとコミュニケーションB		2: T3-4 2: T1-2				前学期: 事前事後の指導 後学期: 教育実践演習		4: B1-2 4: B1-2			
	3206	100	前学期: 初等算数		1: G7-8	後学期: 保育内容(環境)指導方		4: G1-6	前学期: 基礎英語Ⅰ 後学期: 基礎英語Ⅱ		1: G5-6 1: G5-6	前学期: 事前事後の指導 後学期: 教育実践演習		4: B3-4 4: B3-4			
	6B01	104 (移動席)	前学期: 英語コミュニケーションⅠ 後学期: 英語コミュニケーションⅡ		2: G3-4 2: G3-4				前学期: 保育内容(健康) 後学期: 保育内容(言葉)		2: G7-8 2: G7-8	前学期: 保育内容(表現)		2: G7-8			
	2203	50	前学期: 体育科教育実践法 後学期: 国語表現Ⅰ		3: S3-4 1: A43-44	前学期: 体育科教育実践法 後学期: 国語表現Ⅰ		3: S1-2 1: A41-42	前学期: 保育の心理学Ⅱ 後学期: 国語表現Ⅰ		4: G7-8 1: A21-23	後学期: 国語表現Ⅰ		1: A27-29			
	2205	50	前学期: 教育実習指導Ⅰ		3: G3-4	後学期: 子どもの保育Ⅱ		4: G8	前学期: 事前事後の指導 後学期: 教育実践演習		4: B6-7 4: B6-7						
	3205	50	前学期: 教育実習指導Ⅰ 後学期: 子どもの保育Ⅱ		3: G5-6 4: G7	前学期: コーチング実践研究法		大学院: M2(4)	前学期: 事前事後の指導 後学期: 教育実践演習		4: B8-9 4: B8-9	後学期: 地域福祉B		3: B1-9			
	6301	54 (移動席)	前学期: 保育内容演習(健康) 後学期: 保育内容演習(環境)		3: G7-8 3: G7-8	前学期: 社会的養護 後学期: 保育内容演習(言葉)		3: G7-8 3: G7-8	前学期: 保育内容演習(表現) 後学期: 教育の制度と経営		3: G7-8 3: G7-8	通年: 保育実習指導Ⅰ 通年: 保育実習指導Ⅰ		3: G7-8 3: G7-8			
	3G01	60 実験室															
	3G02	60 実験室	前学期: スポーツ研究B		2: B8-9	前学期: スポーツ研究B		2: B3-4									
	2302	60 コンピュータ				前学期: 情報処理(情報機器の操作を含む) 後学期: 情報処理(情報機器の操作を含む)		1: T3-4 1: A43-44	前学期: 情報機器の操作 後学期: 情報処理(情報機器の操作を含む)		1: G7-8 1: A41-42	前学期: 情報機器の操作		1: G3-4			
	3301	80 音楽室	前学期: 器楽演習 後学期: ピアノ		2: G7 2: G8	前学期: 芸術		1: T1-2	通年: 初等音楽 通年: 初等音楽		1: G3-4 1: G3-4						
	2G03	福祉・介護 演習・実習室															
	3G13	(社会福祉) 実習指導室															
	3203	50 保育演習室															
	3312	幼児教育優先 調理実習室															
	2306	25				前学期: コーチング学特論Ⅰ		大学院: M2(4)	前学期: 公衆衛生学特論 後学期: 保健授業づくり理論・実習		大学院: D4 大学院: M(5)	通年: 公衆衛生学特論		大学院: D4			
	2G15	25 カフアレンスルーム	通年: 障害学特論演習 通年: 障害学特論演習		大学院: D3 大学院: D3												
	2307	25 大学院優先	通年: コーチング学特論演習 通年: コーチング学特論演習		大学院: D4 大学院: D4	前学期: 学校経営論(スクールリーダー論)		大学院: M(5)	通年: スポーツ栄養学特論演習 通年: スポーツ栄養学特論演習		大学院: D2 大学院: D2						
	2310	25 大学院優先				前学期: スポーツ哲学特論Ⅰ 後学期: スポーツ人類学特論Ⅰ		大学院: M(1) 大学院: M(1)				前学期: スポーツ社会学特論Ⅰ 後学期: スポーツ社会学特論Ⅱ		大学院: M(1) 大学院: M(1)			
	2311	25 大学院優先				後学期: スポーツ損傷と予防特論		大学院: D3	通年: スポーツ損傷と予防特論演習 通年: スポーツ損傷と予防特論演習		大学院: D3 大学院: D3	通年: 健康教育学特論演習 通年: 健康教育学特論演習		大学院: D3 大学院: D3			
	2312	25 大学院優先	前学期: スポーツ栄養学特論		大学院: D2	前学期: スポーツ心理学特論Ⅰ 後学期: スポーツ栄養学特論Ⅱ		大学院: D2 大学院: M(2)	前学期: スポーツ心理学特論Ⅰ 後学期: スポーツ心理学特論Ⅱ		大学院: M(2) 大学院: M(2)	通年: スポーツ心理学特論演習Ⅰ 通年: スポーツ心理学特論演習Ⅰ		大学院: D 大学院: D			
	3313	作法室				後学期: スポーツカウンセリング理論・実習		大学院: M(4)									
	6101	72 調理実習室															
	6201	70 図画工作室										通年: 初等図画工作 通年: 初等図画工作		3: G3-4 3: G3-4			
	6202	56 理科室															
	6302	72 家庭科室															

施設時間割【東京・世田谷キャンパス】 【水】曜日																	
校舎	教室番号	収容人数	1 限			2 限			3 限			4 限			5 限		
			期間	科目名	学年・クラス	期間	科目名	学年・クラス	期間	科目名	学年・クラス	期 間	科目名	学年・クラス	期 間	科目名	学年・クラス
	1201	200	前学期:救急処置 後学期:アスレティックトレーニング論(総合Ⅰ)		3:B1-9 3:A1-50	前学期:教育経営 後学期:アスレティックトレーニング論(総合Ⅱ)		3:A21-26 3:A1-50	前学期:教育経営 後学期:教育経営		3:B1-9 3:A9-16	後学期:教育経営		3:A1-8			
	1202	200	前学期:教育経営		3:A27-32	前学期:社会保障A 後学期:学校保健Ⅱ(保健室経営を含む)		3:B1-9 3:B1-9	前学期:道德教育の研究 後学期:学校安全(救急処置を含む)		2:A9-16 3:A1-8	前学期:道德教育の研究 後学期:学習指導論		2:A1-8 3:A27-32			
	1301	200	前学期:特別活動の研究 後学期:社会学		2:A9-16 2:A9-16	前学期:特別活動の研究 後学期:社会学		2:A1-8 2:A1-8	前学期:人権教育 後学期:学習指導論		3:A45-50 3:A21-26	前学期:生徒指導論(進路指導を含む) 後学期:労働衛生		3:A45-50 3:B1-9			
	1302	200	前学期:キャリアデザインB		3:A21-26	前学期:キャリアデザインB 後学期:武道科教育法		3:A27-32 3:S1-4	前学期:生徒指導論(進路指導を含む) 後学期:体育科教育法		3:A41-44 2:A9-16	前学期:免疫学 後学期:体育科教育法		3:B1-9 2:A1-8			
	2201	200	前学期:道德教育の研究 後学期:地域ボランティア実習(事前・事後指導含む)		2:T1-4 2:S1-4	前学期:道德教育の研究 後学期:教育原理		2:S1-4 1:T1-4	前学期:教育課程論 後学期:スポーツ人類学		3:A9-16 1:T1-4	前学期:人権教育 後学期:学校安全(救急処置を含む)		3:A1-8 3:A9-16			
	2202	200	前学期:教材・教具論 後学期:発育発達論		4:G1-8 1:T1-4	前学期:救急処置概論 後学期:スポーツ国際概論		1:T1-4 2:T1-4	前学期:救急処置概論 後学期:スポーツ経営管理学		1:S1-4 3:T1-4	前学期:教育原理 後学期:比較スポーツカリキュラム論		1:S1-4 2:T1-4	後学期:学校保健(小児保健・精神保健を含む)	2:S1-4	
	2301	200	前学期:スポーツ栄養学(食品学を含む) 後学期:スポーツ文化論		2:S1-4 1:S1-4	前学期:スポーツメカイベント論 後学期:スポーツ人類学		2:T1-4 1:S1-4	前学期:スポーツ栄養学(食品学を含む) 後学期:発育発達論		2:T1-4 1:S1-4	前学期:比較スポーツカリキュラム論 後学期:学校保健(小児保健・精神保健を含む)		2:T1-4 2:T1-4	後学期:スポーツ経営管理学	3:S1-4	
	3201	200	前学期:児童スポーツ教育論 後学期:初等国語科教育法		1:G1-4 3:G1-6	前学期:発育発達論 後学期:初等国語(書写を含む)		2:G1-8 2:G1-6	前学期:ニューススポーツ論 後学期:経済学		1:T1-4 2:T1-4	前学期:教師論 後学期:経済学		1:T1-4 2:S1-4	通年:コリア語 通年:コリア語	3:T1-4 3:T1-4	
	3202	200	前学期:現代社会と憲法 後学期:特別活動の指導法		1:G5-8 1:G1-6	前学期:現代社会と憲法 後学期:武道論		1:G1-4 2:S1-4	前学期:衛生学・公衆衛生学 後学期:初等生活科教育法		3:G1-6 3:G1-6	前学期:スポーツ心理学		3:T1-4			
	2204	100	通年:児童スポーツ教育演習 通年:児童スポーツ教育演習		2:G1.2 2:G1.2				前学期:ゲーミング理論(実習を含む) 後学期:ゲーミング理論(実習を含む)		2:A5-8 2:A1-4	前学期:ゲーミング理論(実習を含む) 後学期:ゲーミング理論(実習を含む)		2:A13-16 2:A9-12			
	2206	100	通年:児童スポーツ教育演習 通年:児童スポーツ教育演習		2:G3.4 2:G3.4				前学期:キャリアデザインB 後学期:教育課程論		3:A1-8 3:A27-32	前学期:キャリアデザインB 後学期:教育課程論		3:A9-16 3:A21-26			
	3204	100	通年:児童スポーツ教育演習 通年:児童スポーツ教育演習		2:G5.6 2:G5.6	前学期:児童スポーツ教育論 後学期:子どもの保健IA		1:G5-8 1:G7.8	前学期:基礎英語I 後学期:基礎英語II		1:G7.8 1:G7.8	前学期:英語コミュニケーションI 後学期:英語コミュニケーションII		2:G7.8 2:G7.8			
	3206	100	前学期:国語表現Ⅰ 後学期:子どもの保健IB		1:S3.4 2:G7.8				前学期:社会福祉学 後学期:初等国語(書写を含む)		2:G7.8 2:G7.8						
	6B01	104 (移動席)				前学期:在宅保育論 後学期:保育・教職実践演習(幼稚園)		4:G7.8 4:G7.8	前学期:生活 後学期:コーピング演習		4:G7.8 3:A45-47						
	2203	50				後学期:社会保障B		3:B1-9	前学期:武道教育研究法 後学期:生活保護		3:S3.4 3:B1-9						
	2205	50	後学期:保健科教育実践法		3:T3.4	前学期:武道教育研究法 後学期:保健科教育実践法		3:S1.2 3:T1.2	通年:子どもの食と栄養 通年:子どもの食と栄養		3:G7 3:G7	通年:子どもの食と栄養 通年:子どもの食と栄養		3:G8 3:G8			
	3205	50	前学期:体育科学論IA 後学期:体育科学論IB		大学院:全 大学院:全												
	6301	54 (移動席)															
	3G01	60 実験室	通年:児童スポーツ教育演習(教室併用)		2												
	3G02	60 実験室	通年:児童スポーツ教育演習(教室併用)		2												
	2302	60 コンピュータ室	前学期:情報処理(情報機器の操作を含む)		1:T1.2	前学期:スポーツ情報処理理論・実習		大学院:M4				前学期:情報処理(情報機器の操作を含む)		1:S1.2			
	3301	80 音楽室	前学期:器楽演習		2:G8				通年:初等音楽 通年:初等音楽		1:G5.6 1:G5.6	通年:初等音楽 通年:初等音楽		1:G8 1:G8			
	2G03	福祉・介護 演習・実習室															
	3G13	(社会福祉) 実習指導室															
	3203	50 保育演習室															
	3312	幼児教育優先 調理実習室															
	2306	25															
	2G15	カンファレンスルーム															
	2307	25 大学院優先				前学期:コーピング学特論		大学院:D4									
	2310	25 大学院優先				前学期:スポーツ政策学特論I		大学院:M1	通年:大学院英語演習 通年:		大学院 大学院	通年:英語論文ライティング 通年:英語論文ライティング		大学院:D 大学院:D			
	2311	25 大学院優先	通年:運動生理学特論演習 通年:運動生理学特論演習		大学院:D3 大学院:D3	前学期:スポーツ医学特論I 後学期:スポーツ医学特論II		大学院:M3 大学院:M3									
	2312	25 大学院優先				前学期:トレーニング学特論I		大学院:M2									
	3313	作法室															
	6101	72 調理実習室															
	6201	70 図画工作室										通年:初等図画工作 通年:初等図画工作		3:G5.6 3:G5.6			
	6202	56 理科室															
	6302	72 家庭科等															

施設時間割【東京・世田谷キャンパス】 【木】曜日																	
校舎	教室番号	収容人数	1 限			2 限			3 限			4 限			5 限		
			期間	科目名	学年・クラス	期間	科目名	学年・クラス	期間	科目名	学年・クラス	期 間	科目名	学年・クラス	期 間	科目名	学年・クラス
	1201	200	前学期:文学 後学期:生徒指導論(進路指導を含む)		2:A45-50 3:B1-9	前学期:教育経営 後学期:スポーツバイオメカニクス		3:A45-50 3:A45-50	前学期:教育カウンセリング 後学期:歴史学		3:A45-50 2:A21-26	前学期:スポーツ生理学 後学期:歴史学		2:A45-50 2:A45-50			
	1202	200	前学期:スポーツ生理学 後学期:社会学		2:A27-32 2:A45-50	前学期:道徳教育の研究 後学期:社会学		2:A45-50 2:A41-44	前学期:人権教育 後学期:学校安全(救急処置を含む)		3:B1-9 3:A27-32	前学期:学校保健(小児保健・精神保健を含む) 後学期:学校安全(救急処置を含む)		2:A27-32 3:A21-26			
	1301	200	前学期:労働生理 後学期:体育科教育法		3:B1-9 2:A41-44	前学期:法学(日本国憲法) 後学期:体育科教育法		1:T1-4 2:A45-50	前学期:スポーツ生理学 後学期:保健科教育実践法		2:A21-26 3:A45-47	前学期:スポーツ心理学 後学期:健康管理学		3:A45-50 3:A45-50			
	1302	200	前学期:道徳教育の研究 後学期:スポーツトレーニング論B(技)		2:A41-44 2:A21-26	前学期:異文化交流論 後学期:教師論(養護)		2:T1-4 3:B1-9	前学期:特別活動の研究 後学期:スポーツトレーニング論B(技)		2:A45-50 2:A45-50	前学期:特別活動の研究 後学期:スポーツトレーニング論B(技)		2:A41-44 2:A27-32			
	2201	200	前学期:人権教育		4:G1-8	前学期:スポーツ社会学 後学期:伝統芸能史		3:S1-4 2:T1-4	前学期:スポーツ社会学 後学期:伝統芸能史		3:T1-4 2:S1-4	前学期:トレーニング学 後学期:特別活動の研究		2:S1-4 2:S1-4	後学期:特別活動の研究		2:T1-4
	2202	200	前学期:スポーツボランティア論 後学期:教育経営		2:T1-4 3:T1-4	前学期:武道教育論 後学期:教育経営		2:S1-4 3:S1-4	前学期:スポーツボランティア論 後学期:教育カウンセリング		2:S1-4 3:B1-9	前学期:社会科教育実践論 後学期:衛生学・公衆衛生学(運動衛生学を含む)		4:G1-6 1:T1-4			
	2301	200	前学期:異文化交流論 後学期:スポーツ政策論		2:S1-4 2:T1-4	前学期:こころと行動の科学 後学期:スポーツ栄養学		1:G1-8 4:G1-6	前学期:法学(日本国憲法) 後学期:衛生学・公衆衛生学(運動衛生学を含む)		1:S1-4 1:S1-4	前学期:哲学 後学期:伝統芸能の諸相		1:S1-4 1:S1-4	前学期:舞踊創作論(作品論を含む) 後学期:人権教育		2:S1-4 2:S1-4
	3201	200	前学期:初等生活 後学期:現代子ども論		3:G1-6 3:G1-8	前学期:理科教育実践論 後学期:保育内容総論		4:G1-6 3:G1-6	前学期:トレーニング学 後学期:スポーツ運動のメカニズム論		2:T1-4 3:T1-4	前学期:児童の身体づくり 後学期:人権教育		1:G1-8 2:T1-4			
	3202	200	前学期:教育課程論 後学期:スポーツ経営管理		2:G1-6 4:G1-6	前学期:学校教育論 後学期:道徳教育指導論		2:G1-8 2:G1-6	前学期:算数科教育実践論 後学期:スポーツ心理学		4:G1-6 2:G1-6	前学期:児童スポーツ指導論(体育館併用) 後学期:教育課程論		2:G1-4 3:S1-4			
	2204	100	前学期:基礎セミナーI 後学期:基礎セミナーII(アカデミックリテラシー)		1:G1.2 1:G1.2	前学期:教師論 後学期:テーピング理論(実習を含む)		3:A27-32 2:A24-26	前学期:教師論 後学期:テーピング理論(実習を含む)		3:A21-26 2:A30-32	前学期:社会学 後学期:テーピング理論(実習を含む)		2:A21-26 2:A41-44	通年:英会話 通年:英会話		3:T1-4 3:T1-4
	2206	100	前学期:基礎セミナーI 後学期:基礎セミナーII(アカデミックリテラシー)		1:G3.4 1:G3.4	前学期:文学 後学期:健康管理学		2:A21-26 3:A27-32	前学期:社会学 後学期:健康管理学		2:A27-32 3:A21-26	通年:中国語 通年:中国語		3:T1-4 3:T1-4	通年:中国語 通年:中国語		3:S1-4 3:S1-4
	3204	100	前学期:基礎セミナーI 後学期:基礎セミナーII(アカデミックリテラシー)		1:G5.6 1:G5.6	前学期:学校保健(小児保健・精神保健を含む) 後学期:野外活動論		2:A41-44 1:T1-4	前学期:武道用具論 後学期:身体文化論		3:S1-4 2:T1-4						
	3206	100	前学期:スポーツ心理学 後学期:野外活動論		3:A27-32 1:S1-4	前学期:スポーツ心理学 後学期:身体文化論		3:A21-26 2:S1-4	前学期:保育相談支援 後学期:コーピング演習		3:G7.8 3:A48-50	前学期:教育実習指導Ⅰ 後学期:保育内容総論演習		3:G7.8 3:G7.8			
	6B01 (移動席)	104				前学期:教育実習指導Ⅱ 後学期:歴史学		4:G7.8 2:A27-32	前学期:基礎英語Ⅰ 後学期:基礎英語Ⅱ		1:G1.2 1:G1.2	前学期:英語コミュニケーションⅠ 後学期:英語コミュニケーションⅡ		2:G5.6 2:G5.6			
	2203	50	前学期:体育科教育実践法 後学期:社会学		3:T3-4	前学期:相談援助 後学期:社会福祉Ⅱ		3:G7.8 3:B1-9				前学期:相談援助演習ⅡA 後学期:相談援助演習ⅡB		3:B1-9 3:B1-9			
	2205	50	通年:乳児保育 後学期:社会学		3:G7.8	前学期:体育科教育実践法 後学期:社会学		3:T1-2 3:G7.8	通年:児童スポーツ教育演習 後学期:児童スポーツ教育演習		2:G7.8 2:G7.8						
	3205	50	前学期:基礎セミナーI 後学期:基礎セミナーII(アカデミックリテラシー)		1:G7.8 1:G7.8	前学期:高齢者福祉と介護Ⅱ 後学期:子ども家庭福祉		3:B1-9 1:G7.8	前学期:教育原理 後学期:子ども家庭福祉		1:G7.8						
	6301 移動席	54				後学期:初等理科		1:G1.2	後学期:初等理科		1:G3.4	後学期:初等理科		1:G5.6			
	3G01 実験室	60										前学期:衛生学・公衆衛生学実験実習		3:B1-9			
	3G02 実験室	60															
	2302 コンピュータ	60	前学期:情報処理(情報機器の操作を含む) 後学期:情報処理(情報機器の操作を含む)		1:A9-10 1:A13-14	前学期:情報処理(情報機器の操作を含む) 後学期:情報処理(情報機器の操作を含む)		1:A11-12 1:A15-16	前学期:情報処理(情報機器の操作を含む) 後学期:情報処理(情報機器の操作を含む)		1:A1-2 1:A5-6	前学期:情報処理(情報機器の操作を含む) 後学期:情報処理(情報機器の操作を含む)		1:A3-4 1:A7-8			
	3301 音楽室	80	前学期:芸術 後学期:芸術		1:T3-4												
	2G03 福祉・介護 演習・実習室																
	3G13 (社会福祉) 実習指導室																
	3203 保育演習室	50															
	3312 幼児教育優先 調理実習室																
	2306	25	前学期:レジャー・クリエーション学特論Ⅰ 後学期:レジャー・クリエーション学特論Ⅱ		大学院:M(1) 大学院:M(2)	前学期:体育授業観察・評価理論・実習 後学期:体育授業観察・評価理論・実習		大学院:M(5) 大学院:M(5)	前学期:健康教育実践学特論 後学期:健康教育実践学特論		大学院:M(5) 大学院:M(5)						
	2G15 カンファレンスルーム																
	2307 大学院優先	25	前学期:学校保健学特論 後学期:保健科教育法特論		大学院:M(5) 大学院:M(3)	前学期:コーピング実践研究法 後学期:コーピング実践研究法		大学院:M(2)④ 大学院:M(2)④	前学期:スポーツ教育学特論 後学期:スポーツ教育学特論		大学院:D4 大学院:D4	前学期:学校保健観察・評価理論・実習 後学期:学校保健観察・評価理論・実習		大学院:M(5) 大学院:M(5)			
	2310 大学院優先	25	前学期:コーピング学特論Ⅳ 後学期:コーピング学特論Ⅴ		大学院:M(4) 大学院:M(4)	前学期:リプロダクティブ・ヘルス特論 後学期:武道学特論Ⅰ		大学院:D4 大学院:M(1)	前学期:運動衛生学特論 後学期:体力学特論Ⅱ		大学院:D3 大学院:M(2)	後学期:コーピング学特論Ⅲ 後学期:コーピング学特論Ⅲ		大学院:M(4) 大学院:M(4)			
	2311 大学院優先	25	前学期:体力医学特論 後学期:体力医学特論		大学院:D3 大学院:M(3)	前学期:運動衛生学特論Ⅰ 後学期:発達発達特論Ⅰ		大学院:M(3) 大学院:M(3)	前学期:発達発達特論Ⅰ 後学期:スポーツ道場特論		大学院:M(3) 大学院:M(3)	前学期:健康発達学特論 後学期:発達発達特論Ⅱ		大学院:D3 大学院:M(3)			
	2312 大学院優先	25	前学期:体力学特論Ⅰ 後学期:体力学特論Ⅰ		大学院:M(2) 大学院:M(2)	前学期:スポーツ教授学・方法学特論 後学期:スポーツ教授学・方法学特論		大学院:D4 大学院:D4	前学期:スポーツバイオメカニクス特論Ⅰ 後学期:スポーツバイオメカニクス特論		大学院:M(2) 大学院:D2	通年:スポーツバイオメカニクス特論演習 通年:スポーツバイオメカニクス特論演習		大学院:D2 大学院:D2			
	3313 作法室	72															
	6101 調理実習室	72															
	6201 図画工作室	70															
	6202 理科室	56				後学期:初等理科(併用)		1:G1.2	後学期:初等理科(併用)		1:G3.4	後学期:初等理科(併用)		1:G5.6			
	6302 家庭科室	72															

施設時間割【東京・世田谷キャンパス】														【金】曜日															
校舎	教室番号	収容人数	1 限			2 限			3 限			4 限			5 限														
			期間	科目名	学年・クラス	期間	科目名	学年・クラス	期間	科目名	学年・クラス	期 間	科目名	学年・クラス	期 間	科目名	学年・クラス												
	1201	200	前学期: テーピング理論(実習を含む)		2: B1-4	前学期: テーピング理論(実習を含む)		2: B6-9 後学期: 特別活動の研究		2: B1-9 4: G1-6	前学期: ヘルスプロモーション論		1: B1-9 後学期: スポーツ史		1: B1-9 2: A45-50														
	1202	200	前学期: エコロジー		2: A45-50 後学期: 衛生学・公衆衛生学Ⅱ		2: B1-9 前学期: 野外活動論		4: G1-6		前学期: 教育実践演習		4: A45-46 後学期: 学校保健(小児保健・精神保健を含む)		2: A45-50		前学期: エコロジー		2: B1-9 後学期: 予防医学		2: B1-9								
	1301	200	前学期: 運動処方演習		2: B8-9		前学期: 保健科教育法		2: A45-50		前学期: 事前事後の指導		4: A45-46 後学期: スポーツと組織		2: S1-4		前学期: コーチング学		2: A45-50 後学期: 相談援助演習Ⅰ		2: B1-9								
	1302	200	前学期: 体育科教育法		2: T1-4		前学期: 運動処方演習		2: B3-4 後学期: スポーツと組織		2: T1-4		前学期: 体育科教育法		2: S1-4 後学期: 地域ボランティア実習(事前・事後指導含む)		2: T1-4		通年: コリア語		3: S1-4 通年: コリア語		3: S1-4						
	2201	200	前学期: スポーツ医学		2: S1-4 後学期: 武道技術論		3: S1-4		前学期: スポーツバイオメカニクス		3: T1-4 後学期: 国際保健学		3: S1-4		前学期: スポーツバイオメカニクス		3: S1-4 後学期: 国際保健学		3: T1-4		後学期: 教育カウンセリング		3: T1-4	前学期: 武道国際普及論		2: S1-4			
	2202	200	前学期: スポーツマネジメント		3: T1-4 後学期: スポーツの安全指導(リスクマネジメント)		1: S1-4		前学期: スポーツ医学		2: T1-4 後学期: 欧米のスポーツ文化論		3: T1-4		前学期: スポーツ文化研究A		1: T1-4		前学期: スポーツ文化研究A		1: S1-4		通年: ドイツ語		3: S1-4 通年: ドイツ語		3: S1-4 通年: フランス語		3: S1-4 通年: フランス語
	2301	200	前学期: 初等理科教育法		2: G1-6 後学期: スポーツ情報リテラシー		3: T1-4		前学期: ライフステージ栄養学		2: G1-8 後学期: 教育・保育課程論		2: G7-8		前学期: 体育科教育実践論		4: G1-6 後学期: スポーツの安全指導(リスクマネジメント)		1: T1-4		前学期: 児童スポーツ指導論(体育館併用)		2: G5-8						
	3201	200	前学期: 児童の体づくりと動きづくり(グラウンド併用)		3: G1-8 後学期: 初等算数科教育法		3: G1-6		前学期: 学校保健(小児保健・精神保健を含む)		3: G1-6 後学期: スポーツ現場実務論		3: G1-8		後学期: 児童文化		2: G7-8		前学期: ヘルスプロモーション		3: G1-6 後学期: 初等社会科教育法		3: G1-6						
	3202	200	前学期: 初等算数		1: G1-6 後学期: 教育心理学		1: G1-6		前学期: 教育原理		1: G1-6 後学期: スポーツの歴史と本質		1: G1-6		前学期: 教師論		1: G1-6 後学期: 発達心理学		3: G1-6		前学期: 教育論		1: G1-8						
	2204	100					前学期: 基礎英語Ⅰ		1: S1-2 後学期: 基礎英語Ⅱ		1: S1-2		前学期: 英語コミュニケーションⅠ		2: B1-2 後学期: 英語コミュニケーションⅡ		2: B1-2		前学期: 基礎英語Ⅰ		1: T1-2 後学期: 基礎英語Ⅱ		1: T1-2						
	2206	100	通年: 体育科学論演習Ⅰ		大学院: M1全		前学期: 基礎英語Ⅰ		1: S3-4 後学期: 基礎英語Ⅱ		1: S3-4		前学期: 英語コミュニケーションⅠ		2: B3-4 後学期: 英語コミュニケーションⅡ		2: B3-4		前学期: 基礎英語Ⅰ		1: T3-4 後学期: 基礎英語Ⅱ		1: T3-4						
	3204	100	前学期: 教育実習指導Ⅱ		4: G1-2 後学期: 教職実践演習(幼稚園・小学校)		4: G1-2		前学期: 英語コミュニケーションⅠ		2: S1-2 後学期: 英語コミュニケーションⅡ		2: S1-2		前学期: 英語コミュニケーションⅠ		2: B6-7 後学期: 英語コミュニケーションⅡ		2: B6-7		前学期: 英語コミュニケーションⅠ		2: T1-2 後学期: 英語コミュニケーションⅡ		2: T1-2				
	3206	100	前学期: 教育実習指導Ⅱ		4: G3-4 後学期: 教職実践演習(幼稚園・小学校)		4: G3-4		前学期: 英語コミュニケーションⅠ		2: S3-4 後学期: 英語コミュニケーションⅡ		2: S3-4		前学期: 英語コミュニケーションⅠ		2: B8-9 後学期: 英語コミュニケーションⅡ		2: B8-9		前学期: 英語コミュニケーションⅠ		2: T3-4 後学期: 英語コミュニケーションⅡ		2: T3-4				
	6B01	104 (移動席)	前学期: 教育実習指導Ⅱ		4: G5-6 後学期: 教職実践演習(幼稚園・小学校)		4: G5-6		前学期: 幼児理解とカウンセリング		3: G7-8		前学期: 病児・病後児保育		4: G7-8														
	2203	50	前学期: 事前事後の指導		4: A49-50 後学期: 教育実践演習		4: A49-50		前学期: 事前事後の指導		4: A21-23 後学期: 教育実践演習		4: A21-23		前学期: 事前事後の指導		4: A45-46 後学期: 教職実践演習		4: A45-46		前学期: 事前事後の指導		4: A27-29 後学期: 教職実践演習		4: A27-29				
	2205	50	前学期: 障がい児保育演習		4: G7-8 後学期: 障がい児保育演習		4: G7-8		前学期: 事前事後の指導		4: A24-26 後学期: 教育実践演習		4: A24-26		前学期: 保育原理		1: G7-8		前学期: コーチング学特論Ⅰ		大学院: M2(4)								
	3205	50	前学期: 国語表現Ⅰ		1: B8-9 後学期: 国語表現Ⅰ		1: B3-4		前学期: 国語表現Ⅰ		1: B6-7 後学期: 国語表現Ⅰ		1: B1-2		前学期: 国語表現Ⅰ		1: D1-2 後学期: 国語表現Ⅰ		1: D5-6		前学期: 国語表現Ⅰ		1: D3-4 後学期: 国語表現Ⅰ		1: D7-8				
	6301	54 (移動席)					前学期: 障がい児保育		2: G7-8		前学期: 事前事後の指導		4: A47-48 後学期: 教育実践演習		4: A47-48		前学期: 事前事後の指導		4: A30-32 後学期: 教職実践演習		4: A30-32								
	3G01	60 実験室																											
	3G02	60 実験室	前学期: スポーツ研究B		2: B6-7 後学期: スポーツ研究B		2: A49-50		前学期: スポーツ研究B		2: B1-2 後学期: スポーツ研究B		2: A45-46		後学期: スポーツ研究B		2: A47-48												
	2302	60 コンピュータ室	前学期: 情報処理(情報機器の操作を含む)		1: S3-4							後学期: 情報処理(情報機器の操作を含む)		1: B6-7 前学期: 芸術		1: S3-4		後学期: 情報処理(情報機器の操作を含む)		1: B8-9									
	3301	80 音楽室	前学期: 芸術		1: S1-2		後学期: 初等音楽科教育法		2: G3-4		後学期: 初等音楽科教育法		2: G3-4		前学期: 芸術		1: S3-4 後学期: 初等音楽科教育法		2: G1-2		後学期: 初等音楽科教育法		2: G5-6						
	2G03	福祉・介護 演習・実習室																											
	3G13	(社会福祉) 実習指導室																											
	3203	50 保育演習室																											
	3312	幼児教育優先 調理実習室																											
	2306	25					前学期: 生涯スポーツ学特論Ⅰ		大学院: M1 後学期: 生涯スポーツ学特論Ⅱ		大学院: M1		通年: スポーツ教授学・方法学特論演習		大学院: D4				後学期: ダンス授業づくり理論・実習		大学院: M5								
	2G15	カンファレンスルーム																											
	2307	25 大学院優先					前学期: 学校保健学特論		大学院: D4		前学期: スポーツ史特論Ⅱ		大学院: D1 後学期: スポーツ史特論Ⅱ		大学院: M1		通年: 学校保健学特論演習		大学院: D4										
	2310	25 大学院優先	前学期: 体育科学論演習Ⅰ		大学院: D全 後学期: 体育科学論演習Ⅱ		大学院: D全		前学期: 体育授業づくり理論・実習		大学院: M5		通年: スポーツ心理学特論演習Ⅱ		大学院: D2 通年: スポーツ心理学特論演習Ⅱ		大学院: D2		後学期: レジャーレクリエーション学特論Ⅱ		大学院: M1								
	2311	25 大学院優先					前学期: 運動衛生学特論		大学院: D3		前学期: 運動衛生学特論		大学院: D3 通年: 運動衛生学特論演習		大学院: D3		通年: 運動衛生学特論演習		大学院: D3		通年: 健康発達学特論演習		大学院: D3						
	2312	25 大学院優先					前学期: スポーツ栄養学特論Ⅰ		大学院: M2		前学期: 運動衛生学特論		大学院: M3 後学期: スポーツバイオメカニクス特論Ⅱ		大学院: M2		通年: スポーツ生理学特論演習		大学院: D2										
	3313	作法室																											
	6101	72 調理実習室																											
	6201	70 図画工作室																											
	6202	56 理科室	前学期: 初等理科教育法(併用)		2: G1-6																								
	6302	72 家庭科等																											

施設時間割【東京世田谷キャンパス】 【月】曜日																		
区分	施設	番号	1 限			2 限			3 限			4 限			5 限			
			期間:	科目名	学年: クラス	期間:	科目名	学年: クラス	期間:	科目名	学年: クラス	期 間:	科目名	学年: クラス	期 間:	科目名	学年: クラス	
1 街区	1B01	601	前学期:	レクリエーション	4:G1-8													
		講堂																
3 街区	体育館 (体操)	3B03	前学期:	レクリエーション指導理論・実習	大学院:M⑤													
			後学期:	体育科教育実践法(教室併用)	3:A27-32	後学期:	体育科教育実践法(教室併用)	3:A21-26										
スポーツ 棟	剣道場	5B01	前学期:	スポーツ実践指導法・剣道	3:S3・4	前学期:	スポーツ実践指導法・剣道	3:S1・2	通年:	専攻武道実技Ⅰ(剣道)	1:S1-4							
			後学期:	運動方法・剣道	1:A47-48			通年:	専攻武道実技Ⅰ(剣道)	1:S1-4								
	柔道場	5B02	前学期:	スポーツ実践指導法・柔道	3:S1・2	前学期:	スポーツ実践指導法・柔道	3:S3・4	通年:	専攻武道実技Ⅰ(柔道)	1:S1-4							
			後学期:	運動方法・柔道	1:A45-46	後学期:	国際武術実技	1:S1-2	通年:	専攻武道実技Ⅰ(柔道)	1:S1-4							
	中体育館	5B03	前学期:	体づくり運動(体操)	2:G3・4	前学期:	集団行動演習	2:T3・4	前学期:	体づくり運動(体操)	2:G7・8	通年:	初等体育A(個人スポーツ)	2:G1-3				
			後学期:	運動方法・器械運動	1:S3・4			通年:	初等体育A(個人スポーツ)	2:G1-3								
	多目的プール (25m×7)	5B04		前学期:	水泳	1:G7・8	前学期:	運動方法・水泳	1:A49-50	前学期:	水泳	1:G3・4						
				後学期:	運動方法・水泳	1:A47-48			後学期:	運動方法・水泳	1:A45-46							
	小体育館 相撲	5G01	前学期:	運動方法・武道(相撲)	1:T3・4	前学期:	運動方法・武道(相撲)	1:T1・2	前学期:	運動方法・相撲	1:A45-46	通年:	専攻武道実技Ⅰ(相撲)	1:S1-4				
						後学期:	運動方法・相撲	1:A49-50	後学期:	運動方法・相撲	1:A47-48	通年:	専攻武道実技Ⅰ(相撲)	1:S1-4				
	トレセン	5101	後学期:	トレーニング実践演習	4:G1-3	後学期:	トレーニング実践演習	4:G4-6										
	トレーナールーム (トレセン)	5101-AT																
	小体育館2 レスリング	5102																
	屋外体育施設 弓道	5103	前学期:	礼法	1:S3・4	前学期:	礼法	1:S1・2				通年:	専攻武道実技Ⅰ(弓道)	1:S1-4				
									通年:	専攻武道実技Ⅰ(弓道)	1:S1-4							
	小体育館3 ダンス・伝統芸能	5104	前学期:	運動方法・ダンス(フォークダンスを含む)	1:A45-46	前学期:	運動方法・ダンス(フォークダンスを含む)	1:A47-48				前学期:	伝統芸能実技1	1:S1-4				
			後学期:	運動方法・ダンス(フォークダンスを含む)	1:A49-50	後学期:	ダンス	1:G7・8	後学期:	ダンス	1:G5・6	後学期:	伝統芸能実技2	1:S1-4				
	小体育館4 薙刀・エアロビ	5105										通年:	専攻武道実技Ⅰ(薙刀)	1:S1-4				
	小体育館5 空手	5106										通年:	専攻武道実技Ⅰ(空手)	1:S1-4				
	小体育館6 合気道	5107										通年:	専攻武道実技Ⅰ(合気道)	1:S1-4				
									通年:	専攻武道実技Ⅰ(合気道)	1:S1-4							
	小体育館7 少林寺拳法	5108										通年:	専攻武道実技Ⅰ(少林寺)	1:S1-4				
									通年:	専攻武道実技Ⅰ(少林寺)	1:S1-4							
	小体育館8 卓球	5109	前学期:	スポーツ実践指導法・卓球	3:A48-50							前学期:	運動方法・卓球	1:A49-50				
			後学期:	スポーツ実践指導法・卓球	3:A45-47			後学期:	運動方法・卓球	1:A45-46	後学期:	運動方法・卓球	1:A47-48					
	メインアリーナ バレー・バドミントン	5201-1				前学期:	ボールゲーム	1:G1-4	前学期:	ボールゲーム	1:G5-8							
						後学期:	競技スポーツ実技	3:S1・2	後学期:	競技スポーツ実技	3:S3・4	通年(後):	初等体育B(対人・集団スポーツ)	2:G4-6				
	メインアリーナ バレー・バドミントン	5201-2																
	メインアリーナ バスケットボール	5201-3	前学期:	運動方法・球技A	3:S3・4	前学期:	ボールゲーム	1:G1-4	前学期:	ボールゲーム	1:G5-8	通年(前):	初等体育B(対人・集団スポーツ)	2:G4-6				
			後学期:	スポーツ実践指導法・バスケットボール	3:A21-26	後学期:	運動方法・バスケットボール	1:A45-46	後学期:	運動方法・バスケットボール	1:A49-50	後学期:	スポーツ実践指導法・バスケットボール	3:A27-32				
	メインアリーナ バスケットボール	5201-4																
	ランボリン場	5202																
	グラ ウン ド	グラウンド1	ソフト・野球	前学期:	スポーツ実践指導法・ソフトボール(野球を含む)	3:A45-47				前学期:	運動方法・ソフトボール(野球を含む)	1:A47-48	前学期:	スポーツ実践指導法・ソフトボール(野球を含む)	3:A27-32			
後学期:				スポーツ実践指導法・ソフトボール(野球を含む)	3:A48-50			後学期:	スポーツ実践指導法・ソフトボール(野球を含む)	3:A21-26								
グラウンド2		陸上	前学期:	運動方法・陸上競技	1:S1・2	前学期:	運動方法・陸上競技	1:S3・4				通年:	初等体育A(個人スポーツ)	2:G1-3				
									通年:	初等体育A(個人スポーツ)	2:G1-3							
グラウンド3	その他																	

施設時間割【東京世田谷キャンパス】 【火】曜日																	
区分	施設	番号	1 限			2 限			3 限			4 限			5 限		
			期間	科目名	学年・クラス	期間	科目名	学年・クラス	期間	科目名	学年・クラス	期 間	科目名	学年・クラス	期 間	科目名	学年・クラス
1 街 区	1B01	601															
		講堂															
3 街 区	体育館 (体操)	3B03	前学期:エアロビックダンス 後学期:エアロビックダンス		2:B3・4 2:B6・7	前学期:エアロビックダンス 後学期:エアロビックダンス		2:B8・9 2:B1・2	通年:初等体育C(子どもの運動遊び) 通年:初等体育C(子どもの運動遊び)		2:G4・6 2:G4・6						
	剣道場	5B01	前学期:武道実技(形)		3:S1・2	前学期:武道実技(形)		3:S3・4	前学期:スポーツ実践指導法・剣道		3:T1・2						
ス ポ ー ツ 棟	柔道場	5B02	前学期:運動方法・武道(柔道) 後学期:運動方法・柔道		1:S3・4 1:A30-32	前学期:運動方法・武道(柔道) 後学期:運動方法・柔道		1:S1・2 1:A24-26	前学期:運動方法・武道(柔道)		1:T3・4	前学期:運動方法・武道(柔道)		1:T1・2			
	中体育館	5B03	前学期:体づくり運動(体操) 後学期:器械運動		2:G1.2 1:G3-6	前学期:集団行動演習 後学期:運動方法・器械運動		2:S1・2 1:S1・2	前学期:運動方法・体づくり運動(体操) 後学期:器械運動		1:A43・44 1:G1.2, G7.8	前学期:運動方法・体づくり運動(体操) 後学期:運動方法・器械運動		1:A41・42 1:T3・4			
	多目的プール (25m×7)	5B04	前学期:運動方法・水泳 後学期:運動方法・水泳		1:A30-32 1:A41・42	前学期:運動方法・水泳 後学期:運動方法・水泳		1:A24-26 1:A21-23	前学期:水泳 後学期:運動方法・水泳		1:G1.2 1:A27-29	前学期:水泳 後学期:運動方法・水泳		1:G5.6 1:A43・44			
	小体育館 相撲	5G01	前学期:運動方法・相撲		1:A43・44	前学期:スポーツ実践指導法・相撲		3:T1・2	前学期:スポーツ実践指導法・相撲 後学期:運動方法・相撲		3:T3・4 1:A24-26						
	トレセン	5101	前学期:トレーニング実践演習 後学期:トレーニング実践演習		2:B6・7 2:B8・9	前学期:トレーニング実践演習		2:B1・2	後学期:トレーニング実践演習		2:B3・4						
	トレーナールーム (トレセン)	5101-AT															
	小体育館2 レスリング	5102	前学期:ストレッチング実習		1:A41・42	前学期:ストレッチング実習		1:A43・44									
	屋外体育施設 弓道	5103				前学期:武道実技(弓道)		2:S3・4				前学期:武道実技(弓道)		2:S1・2			
	小体育館3 ダンス・伝統芸能	5104				前学期:運動方法・ダンス(フォークダンスを含む) 後学期:運動方法・ダンス(フォークダンスを含む)		1:A41・42 1:S3・4				前学期:運動方法・ダンス(フォークダンスを含む)		1:A43・44			
	小体育館4 薙刀・エアロビ	5105										後学期:ダンス授業づくり理論・実習		大学院:M⑤			
	小体育館5 空手	5106															
	小体育館6 合気道	5107															
	小体育館7 少林寺拳法	5108															
	小体育館8 卓球	5109	前学期:運動方法・卓球		1:A21-23	前学期:運動方法・卓球		1:A27-29	前学期:運動方法・卓球 後学期:運動方法・卓球		1:A24-26 1:A43・44	前学期:運動方法・卓球 後学期:運動方法・卓球		1:A30-32 1:A41・42			
	メインアリーナ バレー・バド	5201-1	前学期:スポーツ実践指導法・バレーボール 後学期:運動方法・バレーボール		3:D4-6 1:A27-29	前学期:スポーツ実践指導法・バレーボール		3:D7・8	前学期:スポーツ実践指導法・バレーボール 後学期:運動方法・球技B		3:D1-3 3:T1・2	通年(後):初等体育B(対人・集団スポーツ)		2:G1-3			
	メインアリーナ バレー・バド	5201-2															
	メインアリーナ バスケット・バド	5201-3	前学期:スポーツ実践指導法・バスケットボール 後学期:運動方法・バスケットボール		3:D1-3 1:A21-23	前学期:スポーツ実践指導法・バスケットボール 後学期:運動方法・バスケットボール		3:D4-6 1:A27-29	前学期:スポーツ実践指導法・バスケットボール 後学期:運動方法・バスケットボール		3:D7・8 1:A30-32	通年(前):初等体育B(対人・集団スポーツ) 後学期:エスニックスポーツ実技		2:G1-3 1:T1・2			
	メインアリーナ バスケット・バド	5201-4															
	トランポリン場	5202															
	グラ ウン ド	グラウンド1 ソフト・野球		前学期:運動方法・ソフトボール(野球を含む)		1:S1・2	前学期:運動方法・ソフトボール(野球を含む)		1:S3・4	前学期:運動方法・ソフトボール(野球を含む)		1:T1・2	前学期:運動方法・ソフトボール(野球を含む)		1:T3・4		
グラウンド2 陸上			前学期:スポーツ実践指導法・陸上競技		3:D7・8	前学期:スポーツ実践指導法・陸上競技		3:D1-3	前学期:スポーツ実践指導法・陸上競技		3:D4-6						
グラウンド3 その他																	

施設時間割【東京世田谷キャンパス】 【水】曜日																	
区分	施設	番号	1 限			2 限			3 限			4 限			5 限		
			期間	科目名	学年・クラス	期間	科目名	学年・クラス	期間	科目名	学年・クラス	期間	科目名	学年・クラス	期間	科目名	学年・クラス
1 街区	1B01	601		講堂													
3 街区	体育館 (体操)	3B03	前学期:エアロビックダンス		2:A5-8	前学期:エアロビックダンス		2:A13-16	通年:初等体育C(子どもの運動遊び)	2:G1-3							
			後学期:エアロビックダンス		2:A1-4	後学期:エアロビックダンス		2:A9-12	通年:初等体育C(子どもの運動遊び)	2:G1-3							
ス ポ ー ツ 棟	剣道場	5B01	前学期:スポーツ実践指導法・剣道		3:A45-47	前学期:スポーツ実践指導法・剣道		3:A41-44	通年:専攻武道実技Ⅱ(剣道)	2:S1-4	通年:専攻武道実技Ⅲ(剣道)	3:S1-4					
						後学期:スポーツ実践指導法・剣道		3:A27-32	通年:専攻武道実技Ⅱ(剣道)	2:S1-4	通年:専攻武道実技Ⅲ(剣道)	3:S1-4					
	柔道場	5B02	前学期:柔道		3:G1-4	前学期:柔道		3:G5-8	通年:専攻武道実技Ⅱ(柔道)	2:S1-4	通年:専攻武道実技Ⅲ(柔道)	3:S1-4					
			後学期:スポーツ実践指導法・柔道		3:A41-44	後学期:スポーツ実践指導法・柔道		3:A48-50	通年:専攻武道実技Ⅱ(柔道)	2:S1-4	通年:専攻武道実技Ⅲ(柔道)	3:S1-4					
	中体育館	5B03	前学期:エアロビックエクササイズ		3:G5-8	前学期:エアロビックエクササイズ		3:G1-4	通年:初等体育A(個人スポーツ)	2:G4-6	前学期:集団行動演習	2:S3・4					
			後学期:スポーツ実践指導法・体づくり運動(体操)		3:A27-32	後学期:スポーツ実践指導法・体づくり運動(体操)		3:A21-26	通年:初等体育A(個人スポーツ)	2:G4-6	後学期:運動方法・器械運動	1:T1・2					
	多目的プール (25m×7)	5B04	前学期:スポーツ実践指導法・水泳		3:A13-16	前学期:スポーツ実践指導法・水泳		3:A9-12			前学期:運動方法・水泳	1:S3・4					
			後学期:スポーツ実践指導法・水泳		3:A48-50	後学期:スポーツ実践指導法・水泳		3:A45-47									
	小体育館 相撲	5G01	前学期:運動方法・武道(相撲)		1:S1・2	前学期:運動方法・武道(相撲)		1:S3・4	通年:専攻武道実技Ⅱ(相撲)	2:S1-4	通年:専攻武道実技Ⅲ(相撲)	3:S1-4					
			後学期:スポーツ実践指導法・相撲		3:A21-26	後学期:スポーツ実践指導法・相撲		3:A41-44	通年:専攻武道実技Ⅱ(相撲)	2:S1-4	通年:専攻武道実技Ⅲ(相撲)	3:S1-4					
	トレセン	5101	前学期:トレーニング実践演習		2:A3-4	前学期:トレーニング実践演習		2:A11-12	前学期:トレーニング実践演習	2:A1・2	前学期:トレーニング実践演習	2:A9・10					
			後学期:トレーニング実践演習		2:A7-8	後学期:トレーニング実践演習		2:A15-16	後学期:トレーニング実践演習	2:A5・6	後学期:トレーニング実践演習	2:A13-14					
	トレーニングルーム (トレセン)	5101-AT															
	小体育館2 レスリング	5102															
	屋外体育施設 弓道	5103	前学期:礼法		1:T3・4				通年:専攻武道実技Ⅱ(弓道)	2:S1-4	通年:専攻武道実技Ⅲ(弓道)	3:S1-4					
									通年:専攻武道実技Ⅱ(弓道)	2:S1-4	通年:専攻武道実技Ⅲ(弓道)	3:S1-4					
	小体育館3 ダンス・伝統芸能	5104	前学期:スポーツ実践指導法・ダンス(フォークダンスを含む)		3:A41-44	前学期:スポーツ実践指導法・ダンス(フォークダンスを含む)		3:A48-50	前学期:スポーツ実践指導法・ダンス(フォークダンスを含む)	3:A27-32	前学期:伝統芸能実技5	3:S1-4					
							後学期:ダンス		1:G1・2		後学期:伝統芸能実技6	3:S1-4					
	小体育館4 薙刀・江戸流	5105							通年:専攻武道実技Ⅱ(薙刀)	2:S1-4	通年:専攻武道実技Ⅲ(薙刀)	3:S1-4					
									通年:専攻武道実技Ⅱ(薙刀)	2:S1-4	通年:専攻武道実技Ⅲ(薙刀)	3:S1-4					
小体育館5 空手	5106							通年:専攻武道実技Ⅱ(空手)	2:S1-4	通年:専攻武道実技Ⅲ(空手)	3:S1-4						
								通年:専攻武道実技Ⅱ(空手)	2:S1-4	通年:専攻武道実技Ⅲ(空手)	3:S1-4						
小体育館6 合気道	5107							通年:専攻武道実技Ⅱ(合気道)	2:S1-4	通年:専攻武道実技Ⅲ(合気道)	3:S1-4						
								通年:専攻武道実技Ⅱ(合気道)	2:S1-4	通年:専攻武道実技Ⅲ(合気道)	3:S1-4						
小体育館7 少林寺拳法	5108							通年:専攻武道実技Ⅱ(少林寺)	2:S1-4	通年:専攻武道実技Ⅲ(少林寺)	3:S1-4						
								通年:専攻武道実技Ⅱ(少林寺)	2:S1-4	通年:専攻武道実技Ⅲ(少林寺)	3:S1-4						
小体育館8 卓球	5109	前学期:スポーツ実践指導法・卓球		3:A1-4	前学期:スポーツ実践指導法・卓球		3:A5-8	前学期:スポーツ実践指導法・卓球	3:A21-26	前学期:スポーツ実践指導法・卓球	3:A27-32						
		後学期:スポーツ実践指導法・卓球		3:A9-12	後学期:スポーツ実践指導法・卓球		3:A13-16	後学期:スポーツ実践指導法・卓球	3:A41-44								
メインアリーナ バレー・バド	5201-1	前学期:スポーツ実践指導法・バレーボール		3:A9-12	前学期:スポーツ実践指導法・バレーボール		3:A13-16	後学期:運動方法・球技B	3:S1・2	後学期:運動方法・球技B	3:T3・4						
		後学期:スポーツ実践指導法・バレーボール		3:A1-4	後学期:スポーツ実践指導法・バレーボール		3:A5-8										
メインアリーナ バレー・バド	5201-2																
メインアリーナ バスケ・ハンド	5201-3	前学期:スポーツ実践指導法・バスケットボール		3:A5-8	前学期:スポーツ実践指導法・バスケットボール		3:A1-4	前学期:運動方法・球技A	3:S1・2								
		後学期:スポーツ実践指導法・バスケットボール		3:A13-16	後学期:スポーツ実践指導法・バスケットボール		3:A9-12	後学期:スポーツ実践指導法・バスケットボール	3:A48-50	後学期:エスニックスポーツ実技	1:T3・4						
メインアリーナ バスケ・ハンド	5201-4																
トランポリン場	5202	前学期:運動方法・トランポリン		2:A1・2	前学期:運動方法・トランポリン		2:A9・10	前学期:運動方法・トランポリン	2:A3・4	前学期:運動方法・トランポリン	2:A11・12						
		後学期:運動方法・トランポリン		2:A5・6	後学期:運動方法・トランポリン		2:A13・14	後学期:運動方法・トランポリン	2:A7・8	後学期:運動方法・トランポリン	2:A15・16						
グ ラ ウ ン ド	グラウンド1	ソフト・野球	後学期:海外スポーツ指導実技		3:T1・2	後学期:海外スポーツ指導実技		3:T3・4									
	グラウンド2	陸上	前学期:スポーツ実践指導法・陸上競技		3:A48-50	前学期:スポーツ実践指導法・陸上競技		3:A45-47	通年:初等体育A(個人スポーツ)	2:G4-6	前学期:スポーツ実践指導法・陸上競技	3:A21-26					
			後学期:陸上競技		1:G3-6	後学期:陸上競技		1:G3-6	通年:初等体育A(個人スポーツ)	2:G4-6							
グラウンド3	その他																

施設時間割【東京世田谷キャンパス】 【木】曜日														
区分	施設	番号	1 限			2 限			3 限			4 限		
			期間:	科目名	学年: クラス	期間:	科目名	学年: クラス	期間:	科目名	学年: クラス	期 間:	科目名	学年: クラス
1 街 区	1B01	601												
3 街 区	体育館 (体操)	3B03										前学期:児童スポーツ指導論(教室併用)	2:G1-4	
ス ポ ー ツ 棟	剣道場	5B01	前学期:運動方法・武道(剣道) 後学期:運動方法・剣道	1:S3・4 1:A5・6		前学期:運動方法・武道(剣道) 後学期:運動方法・剣道	1:S1・2 1:A3・4		前学期:運動方法・武道(剣道) 後学期:運動方法・剣道	1:T3・4 1:A11・12		前学期:運動方法・武道(剣道) 後学期:運動方法・剣道	1:T1・2 1:A13・14	
	柔道場	5B02	前学期:スポーツ実践指導法・柔道 後学期:運動方法・柔道	3:T1・2 1:A3・4		前学期:スポーツ実践指導法・柔道 後学期:運動方法・柔道	3:T3・4 1:A1・2		前学期:運動方法・柔道 後学期:運動方法・柔道	1:A13・14 1:A9・10		前学期:運動方法・柔道 後学期:運動方法・柔道	1:A15・16 1:A11・12	
	中体育館	5B03	前学期:集団行動実技 後学期:運動方法・体づくり運動(体操)	1:S1・2 1:T3・4		前学期:集団行動実技 後学期:運動方法・体づくり運動(体操)	1:S3・4 1:T1・2		前学期:体づくり運動(体操) 後学期:運動方法・体づくり運動(体操)	2:G5・6 1:T1・2		前学期:運動方法・ダンス(フォークダンスを含む)	1:A1・2	
	多目的プール (25m×7)	5B04							前学期:運動方法・水泳 後学期:運動方法・水泳	1:T1・2 1:T1・2		前学期:運動方法・水泳 後学期:運動方法・水泳	1:T3・4 1:T3・4	
	小体育館 相撲	5G01	前学期:スポーツ実践指導法・相撲 後学期:スポーツ実践指導法・相撲	3:A48-50 3:A27-32		前学期:スポーツ実践指導法・相撲 後学期:スポーツ実践指導法・相撲	3:A27-32 1:A11・12		前学期:運動方法・相撲 後学期:運動方法・相撲	1:A5・6 1:A1・2		前学期:運動方法・相撲 後学期:運動方法・相撲	1:A9・10	
	トレセン	5101	前学期:トレーニング実践演習 後学期:トレーニング実践演習	2:A24-26 2:A27-29		前学期:トレーニング実践演習 後学期:トレーニング実践演習	2:A30-32 2:A30-32		前学期:トレーニング実践演習 後学期:トレーニング実践演習	2:A43-44 2:A41-42		前学期:トレーニング実践演習 後学期:トレーニング実践演習	2:A21-23	
	トレーニングルーム (トレセン)	5101-AT												
	小体育館2 レスリング	5102				前学期:ストレッチング実習 後学期:ストレッチング実習	1:A9・10 1:A13・14		前学期:ストレッチング実習 後学期:ストレッチング実習	1:A7・8 1:A3・4				
	屋外体育施設 弓道	5103												
	小体育館3 ダンス・伝統芸能	5104	前学期:運動方法・ダンス(フォークダンスを含む) 後学期:伝統芸能実技4	1:A5・6 2:S1-4		前学期:運動方法・ダンス(フォークダンスを含む) 後学期:スポーツ実践指導法・ダンス(フォークダンスを含む)	1:A15・16 3:A21-26					前学期:身体表現実技 後学期:身体表現実技	2:T1・2	
	小体育館4 薙刀・エアロビ	5105												
	小体育館5 空手	5106												
	小体育館6 合気道	5107												
	小体育館7 少林寺拳法	5108												
	小体育館8 卓球	5109	前学期:運動方法・卓球 後学期:運動方法・卓球	1:A11・12 1:A15・16		前学期:運動方法・卓球 後学期:運動方法・卓球	1:A13・14 1:A9・10		前学期:運動方法・卓球 後学期:運動方法・卓球	1:A3・4 1:A7・8		前学期:運動方法・卓球 後学期:運動方法・卓球	1:A5・6 1:A1・2	
	メインアリーナ バレー・バド	5201-1	前学期:スポーツ実践指導法・バレーボール 後学期:スポーツ実践指導法・バレーボール	3:A45-47 3:A48-50		前学期:運動方法・バレーボール 後学期:運動方法・バレーボール	1:A3・4 1:A7・8		前学期:運動方法・バレーボール 後学期:運動方法・バレーボール	1:A11・12 1:A15・16		前学期:運動方法・バレーボール 後学期:運動方法・バレーボール	1:A13・14 1:A9・10	
	メインアリーナ バレー・バド	5201-2												
	メインアリーナ バスケット・バド	5201-3	前学期:運動方法・バスケットボール 後学期:運動方法・バスケットボール	1:A3・4 1:A7・8		前学期:運動方法・バスケットボール 後学期:運動方法・バスケットボール	1:A1・2 1:A5・6		前学期:運動方法・バスケットボール 後学期:運動方法・バスケットボール	1:A9・10 1:A13・14		前学期:運動方法・バスケットボール 後学期:運動方法・バスケットボール	1:A11・12 1:A15・16	
	メインアリーナ バスケット・バド	5201-4												
	トランポリン場	5202	前学期:運動方法・トランポリン 後学期:運動方法・トランポリン	2:A21-23 2:A30-32		前学期:運動方法・トランポリン 後学期:運動方法・トランポリン	2:A27-29 2:A30-32		前学期:運動方法・トランポリン 後学期:運動方法・トランポリン	2:A41-42 2:A43-44		前学期:運動方法・トランポリン 後学期:運動方法・トランポリン	2:A24-26	
グラ ウン ド	グラウンド1	ソフト・野球												
	グラウンド2	陸上	前学期:運動方法・陸上競技	1:T1・2										
	グラウンド3	その他												

施設時間割【東京世田谷キャンパス】 【金】曜日																	
区分	施設	番号	1 限			2 限			3 限			4 限			5 限		
			期間	科目名	学年 クラス	期間	科目名	学年 クラス	期間	科目名	学年 クラス	期 間	科目名	学年 クラス	期 間	科目名	学年 クラス
1 街 区	1B01 講堂	601										前学期:アダブテッドスポーツ実技	4:G1-8				
3 街 区	体育館 (体操)	3B03	通年:幼児体育	1:G7	通年:幼児体育	1:G8	前学期:リトミック	3:G8	前学期:リトミック	3:G7							
		通年:幼児体育	1:G7	通年:幼児体育	1:G8			後学期:ダンス授業づくり理論・実習	大学院:M⑤								
ス ポ ー ツ 棟	剣道場	5B01	前学期:運動方法・剣道	1:D3・4	前学期:運動方法・剣道	1:D5・6	前学期:スポーツ実践指導法・剣道	3:T3・4	通年:専攻武道実技Ⅳ(剣道)	4:S1-4							
			後学期:運動方法・剣道	1:B1・2	後学期:運動方法・剣道	1:D1・2	後学期:運動方法・剣道	1:D7・8	通年:専攻武道実技Ⅳ(剣道)	4:S1-4							
	柔道場	5B02	前学期:運動方法・柔道	1:D1・2	前学期:運動方法・柔道	1:B3・4	前学期:運動方法・柔道	1:D3・4	通年:専攻武道実技Ⅳ(柔道)	4:S1-4							
			後学期:運動方法・柔道	1:D5・6	後学期:運動方法・柔道	1:D7・8	後学期:国際武術実技	1:S3・4	通年:専攻武道実技Ⅳ(柔道)	4:S1-4							
	中体育館	5B03	前学期:集団行動実技	1:T3・4	前学期:集団行動実技	1:T1・2	前学期:集団行動演習	2:T1・2	前学期:児童スポーツ指導論(教室併用)	2:G5-8							
			後学期:ニュースポーツ実技	1:T1・2	後学期:ニュースポーツ実技	1:T3・4	後学期:運動方法・体づくり運動(体操)	1:S1・2	後学期:運動方法・体づくり運動(体操)	1:S3・4							
	多目的プール (25m×7)	5B04	前学期:運動方法・水泳	1:B3・4	前学期:運動方法・水泳	1:B1・2	前学期:運動方法・水泳	1:S1・2									
							後学期:運動方法・水泳	1:B8・9	後学期:運動方法・水泳	1:B6・7							
	小体育館 相撲	5G01	前学期:スポーツ実践指導法・相撲	3:S1・2	前学期:スポーツ実践指導法・相撲	3:S3・4			通年:専攻武道実技Ⅳ(相撲)	4:S1-4							
									通年:専攻武道実技Ⅳ(相撲)	4:S1-4							
	トレセン	5101	前学期:運動処方演習(教室併用)	2:B8・9	前学期:運動処方演習(教室併用)	2:B3・4											
			後学期:トレーニング実践演習	2:A47・48	後学期:トレーニング実践演習	2:A49・50	後学期:トレーニング実践演習	2:A45・46									
	トレーニングルーム (トレセン)	5101-AT															
	小体育館2 レスリング	5102															
	屋外体育施設 弓道	5103	前学期:礼法	1:T1・2					通年:専攻武道実技Ⅳ(弓道)	4:S1-4							
									通年:専攻武道実技Ⅳ(弓道)	4:S1-4							
	小体育館3 ダンス・伝統芸能	5104	前学期:運動方法・ダンス(フォークダンスを含む)	1:D5・6	前学期:運動方法・ダンス(フォークダンスを含む)	1:D7・8	前学期:身体表現実技	2:T3・4	前学期:伝統芸能実技3	2:S1-4							
			後学期:運動方法・ダンス(フォークダンスを含む)	1:T3・4	後学期:運動方法・ダンス(フォークダンスを含む)	1:T1・2	後学期:ダンス	1:G3・4	後学期:運動方法・ダンス(フォークダンスを含む)	1:S1・2							
	小体育館4 薙刀・エフド	5105							通年:専攻武道実技Ⅳ(薙刀)	4:S1-4							
									通年:専攻武道実技Ⅳ(薙刀)	4:S1-4							
	小体育館5 空手	5106							通年:専攻武道実技Ⅳ(空手)	4:S1-4							
									通年:専攻武道実技Ⅳ(空手)	4:S1-4							
	小体育館6 合気道	5107							通年:専攻武道実技Ⅳ(合気道)	4:S1-4							
									通年:専攻武道実技Ⅳ(合気道)	4:S1-4							
	小体育館7 少林寺拳法	5108							通年:専攻武道実技Ⅳ(少林寺)	4:S1-4							
									通年:専攻武道実技Ⅳ(少林寺)	4:S1-4							
小体育館8 卓球	5109	前学期:運動方法・卓球	1:B1・2	前学期:運動方法・卓球	1:B8・9	前学期:運動方法・卓球	1:D5・6	前学期:運動方法・卓球	1:D7・8								
		後学期:運動方法・卓球	1:B6・7	後学期:運動方法・卓球	1:B3・4	後学期:運動方法・卓球	1:D1・2	後学期:運動方法・卓球	1:D3・4								
メインアリーナ バレー・バド	5201-1	後学期:運動方法・バレーボール	1:D7・8	前学期:運動方法・バレーボール	1:D3・4	後学期:運動方法・球技B	3:S3・4	前学期:運動方法・バレーボール	1:D5・6								
				後学期:運動方法・バレーボール	1:B6・7			後学期:運動方法・バレーボール	1:D1・2								
メインアリーナ バレー・バド	5201-2																
メインアリーナ バスケット・ハンド	5201-3	前学期:運動方法・バスケットボール	1:D7・8	前学期:運動方法・バスケットボール	1:D1・2	前学期:運動方法・球技A	3:T1・2	前学期:運動方法・球技A	3:T3・4								
		後学期:運動方法・バスケットボール	1:D3・4	後学期:運動方法・バスケットボール	1:D5・6	後学期:運動方法・バスケットボール	1:B3・4	後学期:運動方法・バスケットボール	1:B1・2								
メインアリーナ バスケット・ハンド	5201-4																
トランポリン場	5202																
		後学期:運動方法・トランポリン	2:A45・46	後学期:運動方法・トランポリン	2:A47・48	後学期:運動方法・トランポリン	2:A49・50										
グ ラ ウ ン ド	グラウンド1 ソフト・野球	前学期:運動方法・ソフトボール(野球を含む)	1:B6・7			前学期:運動方法・ソフトボール(野球を含む)	1:D7・8	前学期:運動方法・ソフトボール(野球を含む)	1:D1・2								
				後学期:運動方法・ソフトボール(野球を含む)	1:B8・9	後学期:運動方法・ソフトボール(野球を含む)	1:D3・4	後学期:運動方法・ソフトボール(野球を含む)	1:D5・6								
グラウンド2	陸上	前学期:児童の体づくりと動きづくり(教室併用)	3:G1-8	前学期:運動方法・陸上競技	1:T3・4												
		後学期:運動方法・陸上競技	1:B8・9			後学期:陸上競技	1:G1.2.7.8										
グラウンド3	その他																

施設時間割(横浜・健志台キャンパス)【月】曜日																		
校舎	教室番号	収容人数	1 限				2 限				3 限				4 限			
			期間	科目名	学年	クラス	期間	科目名	学年	クラス	期間	科目名	学年	クラス	期間	科目名	学年	クラス
	1402	453 (晴・ブ・VTR)					前学期:衛生学・公衆衛生学(運動衛生学を含む)		1:A27-32		前学期:衛生学・公衆衛生学(運動衛生学を含む)		1:A21-26					
	1201	231... (晴・ブ・VTR)	前学期:哲学		1	D1-8					後学期:野外活動論		1	D1-8	後学期:野外活動論		1	A41-44
	1301	231... (晴・ブ・VTR)	前学期:スポーツ研究A		1	B1-9	後学期:発育発達論		1	A41-44	後学期:発育発達論		1	A1-8	前学期:スポーツ研究A		1	A27-32
	1401	231... (晴・ブ・VTR)									後学期:スポーツマネジメント論		1	D1-8				
	8107	250... (ブ・黒紙)					前学期:体育科教育実践法		3	A5-8	前学期:体育科教育実践法		3	A13-16	前学期:体育科教育実践法		3	A41-44
	8108	250... (ブ・黒紙)									後学期:スポーツ栄養学(食品学を含む)		2	A45-50	後学期:スポーツ栄養学(食品学を含む)		2	A41-44
	8206	234... (ブ・黒紙)					後学期:教師論		3	A9-16	後学期:教師論		3	A1-8	後学期:教師論		3	A41-44
	8207	252... (ブ・黒紙)					前学期:スポーツ心理学		3	A41-44	後学期:ポラシティと社会教育		3	D1-8	前学期:統計学		2	A1-8
	8208	250... (ブ・黒紙)									前学期:スポーツトレーニング論A(心)		2	A45-50	前学期:スポーツトレーニング論A(心)		2	A41-44
	7201	236... (晴・VTR・PG)	前学期:生涯学習概論Ⅱ		2	D1-8	前学期:経済学		2	D1-8	前学期:トレーニング学		2	D1-8	前学期:文学		2	D1-8
	7202	236... (晴・VTR・PG)	後学期:スポーツ医学		2	D1-8	後学期:スポーツ史		2	D1-8	後学期:学校保健(小児保健・精神保健を含む)		2	D1-8	後学期:スポーツ生理学		2	D1-8
	1303	191... (晴・VTR・PG)	前学期:基礎英語Ⅰ		1	A21-23	後学期:測定評価学		3	A1-8	前学期:スポーツ人類学		3	A41-44				
	1304	178... (晴・VTR・PG)	前学期:スポーツ経営管理学		3	A41-44	後学期:機能解剖学		1	A41-44	後学期:測定評価学		3	A9-16	前学期:保健科教育実践法		3	D1-6
	8105	214... (ブ・黒紙)	前学期:アスレティックトレーニング論(基礎ⅠA)		2	A1-50	前学期:アスレティックトレーニング論(基礎ⅡA)		2	A1-50	前学期:体育科教育法		2	A27-32	前学期:体育科教育法		2	A21-26
	8106	214... (ブ・黒紙)	後学期:アスレティックトレーニング論(基礎ⅠB)		2	A1-50	後学期:アスレティックトレーニング論(基礎ⅡB)		2	A1-50	後学期:スポーツバイオメカニクス		3	A41-44				
	8205	214... (ブ・黒紙)					前学期:コーチング演習		3	A1-4	前学期:教育心理		2	A41-44	前学期:教育心理		2	A45-50
	8201	104...	前学期:国語表現Ⅰ		1	A3-4	後学期:国語表現Ⅰ		1	A5-6	後学期:教育心理		2	A27-32	後学期:教育心理		2	A21-26
	8202	104...	後学期:国語表現Ⅰ		1	A7-8	前学期:パフォーマンス分析演習		4	A21-32	前学期:障害者スポーツ論Ⅱ		3	D1-8				
	8203	104... (ブ・黒紙)	後学期:コンディショニング演習		4	A21-32	後学期:コンディショニング演習		4	A45-50	後学期:障害者スポーツ論Ⅱ		3	D1-8	前学期:国語表現Ⅰ		1	A13-14
	8204	104...	後学期:体育科教育実践法		3	D1-6					前学期:国語表現Ⅰ		1	A15-16	後学期:国語表現Ⅰ		1	A9-10
	8101	96 (移動席)	後学期:基礎英語Ⅱ		1	A21-23	前学期:基礎英語Ⅰ		1	D1-2	前学期:パフォーマンス分析演習		4	A45-50	後学期:社会教育演習Ⅱ(実習を含む)		3	D7-8
	8102	96 (移動席)	前学期:基礎英語Ⅰ		1	A24-26	後学期:基礎英語Ⅱ		1	D1-2	後学期:社会調査演習		3	D1-4				
	8103	96 (移動席)	後学期:基礎英語Ⅱ		1	A24-26	前学期:基礎英語Ⅰ		1	D3-4	後学期:英語コミュニケーションⅡ		2	A1-2	前学期:社会教育演習Ⅰ(実習を含む)		3	D7-8
	8104	96 (移動席)	前学期:基礎英語Ⅰ		1	A27-29	後学期:基礎英語Ⅱ		1	D3-4	前学期:英語コミュニケーションⅠ		2	A3-4				
	7101	62 (移動席)	後学期:基礎英語Ⅱ		1	A27-29	前学期:基礎英語Ⅰ		1	D5-6	後学期:英語コミュニケーションⅡ		2	A3-4				
	7102	62 (移動席)	前学期:基礎英語Ⅰ		1	A30-32	後学期:基礎英語Ⅱ		1	D5-6	前学期:英語コミュニケーションⅠ		2	A5-6				
	7103	62 (移動席)	後学期:基礎英語Ⅱ		1	A30-32	前学期:基礎英語Ⅰ		1	D7-8	後学期:英語コミュニケーションⅡ		2	A5-6				
	7104	62 (移動席)	前学期:基礎英語Ⅰ		1	A30-32	後学期:基礎英語Ⅱ		1	D7-8	前学期:英語コミュニケーションⅠ		2	A7-8				
	1409	50 (コンピュータ)					前学期:コンディショニング論		3	A9-16	前学期:英語コミュニケーションⅠ		2	A7-8				
	1410	50 (コンピュータ)					後学期:コンディショニング論		3	A9-16	後学期:英語コミュニケーションⅡ		2	A7-8				
	1405	80 (音楽)	後学期:芸術(音楽)		1	B6-9	前学期:芸術(音楽)		1	A13-16	前学期:芸術(音楽)		1	A41-44	後学期:芸術(音楽)		1	B1-4
	1202	80 (実験)					後学期:芸術(音楽)		1	A9-12								
	1203	80 (実験)																
	1204	80 (実験)																
コンテナ ニングル	1M206	70																
	1302	20 (ブ)																
	1406	20 (ゼミ)																
	1407	20 (ゼミ)																
	1408	20 (ゼミ)																

3限から5限へ
前学期 統計学 2 A9-16

施設時間割【横浜・健志台キャンパス】 【火】曜日														
校舎	教室番号	収容人数	1 限			2 限			3 限			4 限		
			期間:	科目名	学年: クラス	期間:	科目名	学年: クラス	期間:	科目名	学年: クラス	期 間:	科目名	学年: クラス
	1402	453 (暗・フ・VTR)												
	1201	231 (暗・フ・VTR)	前学期:日体大の歴史 後学期:機能解剖学		1:D1-8 1:B1-9	前学期:スポーツ医学 後学期:機能解剖学		2:A45-50 1:D1-8	前学期:日体大の歴史 後学期:スポーツ哲学		1:A45-50 1:A45-50	前学期:スポーツ研究A 後学期:スポーツ哲学		1:A1-8 1:A1-8
	1301	231 (暗・フ・VTR)	後学期:野外活動論		1:A9-16	前学期:法学(日本国憲法を含む) 後学期:野外活動論		1:D1-8 1:A1-8	前学期:キャリアデザインB 後学期:学校安全(救急処置を含む)		3:A45-50 3:A41-44	前学期:キャリアデザインB 後学期:学校安全(救急処置を含む)		3:A41-44 3:A45-50
	1401	231 (暗・フ・VTR)	前学期:スポーツ行政 後学期:生涯スポーツ論		2:A45-50 1:D1-8	前学期:経済学 後学期:法学(日本国憲法を含む)		2:A45-50 1:A9-16	前学期:保健科教育実践法 後学期:法学(日本国憲法を含む)		3:A9-12 1:A1-8	前学期:保健科教育実践法		3:A1-4
	8107	250 (フ・黒紙)	後学期:キャリアデザインA		2:A45-50	前学期:教育原理 後学期:教育発達論		1:A9-16 1:A45-50	後学期:生徒指導論(進路指導を含む)		3:A9-16	前学期:教育原理 後学期:生徒指導論(進路指導を含む)		1:B1-9 3:A1-8
	8108	250 (フ・黒紙)	後学期:スポーツ史		2:A9-16	前学期:エコロジー		2:A1-8	前学期:エコロジー 後学期:スポーツ史		2:A9-16 2:A41-44	前学期:エコロジー 後学期:スポーツ史		2:A41-44 2:A1-8
	8206	234 (フ・黒紙)	前学期:コーチング学 後学期:スポーツ生理学		2:A1-8 2:A41-44	前学期:コーチング学 後学期:スポーツ生理学		2:A9-16 2:A1-8	前学期:コーチング学 後学期:教育課程論		2:A41-44 3:A45-50	前学期:トレーニング学 後学期:教育課程論		2:A45-50 3:A41-44
	8207	252 (フ・黒紙)	前学期:歴史学 後学期:教育原理		2:A9-16 1:A45-50	前学期:歴史学 後学期:スポーツ医学		2:A41-44 2:A41-44	後学期:スポーツ医学		2:A9-16	前学期:歴史学		2:A1-8
	8208	250 (フ・黒紙)	前学期:スポーツ医学 後学期:スポーツトレーニング論B(技)		2:A21-26 2:A1-8	前学期:スポーツ医学 後学期:スポーツトレーニング論B(技)		2:A27-32 2:A9-16	前学期:特別活動の研究		2:A27-32	前学期:特別活動の研究 後学期:スポーツトレーニング論B(技)		2:A21-26 2:A41-44
	7201	236 (暗・VTR・PC)				後学期:社会教育施設論		4:D1-8	後学期:地域福祉と社会教育		4:D1-8			
	7202	236 (暗・VTR・PC)							後学期:スポーツトレーニング論C(体)		2:A45-50	後学期:スポーツトレーニング論C(体)		2:A27-32
	1303	191 (暗・VTR・PC)	前学期:アスレティックトレーニング論(応用Ⅰ)A 後学期:アスレティックトレーニング論(応用Ⅰ)B		3:A1-50 3:A1-50	前学期:アスレティックトレーニング論(応用Ⅱ)A 後学期:アスレティックトレーニング論(応用Ⅱ)B		3:A1-50 3:A1-50	前学期:測定評価学 後学期:統計学		3:A27-32 2:A21-26	前学期:測定評価学		3:A21-26
	1304	178 (暗・VTR・PC)							前学期:スポーツバイオメカニクス 後学期:コンディショニング論		3:A21-26 3:A27-32	前学期:スポーツバイオメカニクス 後学期:コンディショニング論		3:A21-26 3:A21-26
	8105	214 (フ・黒紙)	前学期:トレーニング学 後学期:エコロジー		2:A27-32 2:A21-26	前学期:トレーニング学 後学期:エコロジー		2:A21-26 2:A27-32	前学期:スポーツ行政 後学期:スポーツ経営管理学		2:A21-26 3:A21-26	前学期:スポーツ行政 後学期:スポーツ経営管理学		2:A27-32 3:A27-32
	8106	214 (フ・黒紙)	前学期:マリンスポーツ理論:実習 後学期:統計学		2:D1-8 2:A27-32	前学期:救急処置実習 後学期:スポーツトレーニング論C(体)		2:D1-2 2:A21-26	前学期:救急処置実習 後学期:キャリアデザインA		2:D7-8 2:A27-32	後学期:キャリアデザインA		2:A21-26
	8205	214 (フ・黒紙)	前学期:基礎英語Ⅰ 後学期:基礎英語Ⅱ		1:A3-4 1:A3-4	前学期:基礎英語Ⅰ 後学期:基礎英語Ⅱ		1:B3-4 1:B3-4	前学期:基礎英語Ⅰ 後学期:基礎英語Ⅱ		1:A11-12 1:A11-12	後学期:スポーツ人類学		3:A9-16
	8201	104	前学期:国語表現Ⅱ 後学期:国語表現Ⅱ		2:A41-42 2:D5-6	前学期:国語表現Ⅱ 後学期:国語表現Ⅱ		2:D3-4 2:D7-8						
	8202	104				後学期:救急処置実習		2:D5-6	後学期:救急処置実習		2:D3-4			
	8203	104 (フ・黒紙)							前学期:運動処方演習 後学期:運動処方演習		2:A7-8 2:A3-4	前学期:運動処方演習 後学期:運動処方演習		2:A15-16 2:A11-12
	8204	104				後学期:デューピング理論(実習を含む)		2:A48-50	前学期:基礎英語Ⅰ 後学期:基礎英語Ⅱ		1:A15-16 1:A15-16	後学期:デューピング理論(実習を含む)		2:A45-47
	8101	96 (移動席)	前学期:基礎英語Ⅰ 後学期:基礎英語Ⅱ		1:A1-2 1:A1-2	前学期:基礎英語Ⅰ 後学期:基礎英語Ⅱ		1:B1-2 1:B1-2	前学期:基礎英語Ⅰ 後学期:基礎英語Ⅱ		1:A9-10 1:A9-10			
	8102	96 (移動席)				前学期:生涯スポーツ論		1:A45-50				前学期:生涯スポーツ論		1:A9-16
	8103	96 (移動席)	前学期:基礎英語Ⅰ 後学期:基礎英語Ⅱ		1:A5-6 1:A5-6	前学期:基礎英語Ⅰ 後学期:基礎英語Ⅱ		1:B6-7 1:B6-7	前学期:基礎英語Ⅰ 後学期:基礎英語Ⅱ		1:A13-14 1:A13-14			
	8104	96 (移動席)	前学期:基礎英語Ⅰ 後学期:基礎英語Ⅱ		1:A7-8 1:A7-8	前学期:基礎英語Ⅰ 後学期:基礎英語Ⅱ		1:B8-9 1:B8-9	前学期:野外活動実技 後学期:野外活動実技		2:D3-4 2:D7-8	前学期:野外活動実技 後学期:野外活動実技		2:D5-6 2:D1-2
	7101	62 (移動席)	前学期:事前事後の指導 後学期:教職実践演習		4:A13-14 4:A13-14				前学期:事前事後の指導 後学期:教職実践演習		4:A9-10 4:A9-10	前学期:事前事後の指導 後学期:教職実践演習		4:A5-6 4:A5-6
	7102	62 (移動席)	前学期:事前事後の指導 後学期:教職実践演習		4:A15-16 4:A15-16				前学期:事前事後の指導 後学期:教職実践演習		4:A11-12 4:A11-12	前学期:事前事後の指導 後学期:教職実践演習		4:A7-8 4:A7-8
	7103	62 (移動席)												
	7104	62 (移動席)												
	1409	50 (コンピュータ)												
	1410	50 (コンピュータ)												
	1405	80 (音楽)	前学期:芸術(音楽)		1:A45-47	前学期:芸術(音楽)		1:A1-4	前学期:芸術(音楽)		1:A5-8	後学期:芸術(音楽)		1:A48-50
	1202	80 (実験)				前学期:スポーツ研究B 後学期:スポーツ研究B		2:D5-6 2:D1-2	前学期:スポーツ研究B 後学期:スポーツ研究B		2:A5-6 2:A1-2	前学期:スポーツ研究B 後学期:スポーツ研究B		2:A13-14 2:A9-10
	1203	80 (実験)												
	1204	80 (実験)												
コ ン テ イ ン グ ル ー ン グ	1M206	70												
	1302	20 (フ)												
	1406	20 (ゼミ)												
	1407	20 (ゼミ)												
	1408	20 (ゼミ)												

施設時間割【横浜・健志台キャンパス】 【水】曜日														
校舎	教室番号	収容人数	1 限			2 限			3 限			4 限		
			期間:	科目名	学年: クラス	期間:	科目名	学年: クラス	期間:	科目名	学年: クラス	期 間:	科目名	学年: クラス
	1402	453 (暗・フ・VTR)				前学期:衛生学・公衆衛生学(運動衛生学を含む)		1:D1-8	前学期:衛生学・公衆衛生学(運動衛生学を含む)		1:A45-50		教授会	
	1201	231 (暗・フ・VTR)	後学期:スポーツ哲学		1:A9-16							後学期:経済学		2:A41-44
	1301	231 (暗・フ・VTR)	前学期:ウォーターセーフティー理論・実習		3:D1-8	前学期:野外活動と環境		3:D1-8	後学期:保健科教育法		2:A41-44	後学期:保健科教育法		2:A21-26
	1401	231 (暗・フ・VTR)	後学期:スケート理論・実習		3:D1-8	前学期:経営管理論		3:D1-8				教授会		
	8107	250 (フ・黒紙)	後学期:法学(日本国憲法を含む)		1:B1-9	前学期:生命科学		1:A41-44	前学期:生命科学		1:D1-8	前学期:生命科学		1:A1-8
	8108	250 (フ・黒紙)	前学期:統計学		2:A41-44	前学期:統計学		2:A45-50	後学期:法学(日本国憲法を含む)		1:A41-44	後学期:統計学		2:B1-9
	8206	234 (フ・黒紙)	前学期:養護概説(養護教諭の職務を含む)		2:B1-9	後学期:心理学		1:A41-44	前学期:心理学		1:D1-8	後学期:心理学		1:A21-26
			後学期:精神保健		2:B1-9	前学期:アダプテッドフィジカルアクティビティ		2:B1-9	後学期:心理学		1:D1-8	前学期:社会学		2:B1-9
	8207	252 (フ・黒紙)				後学期:生涯学習概論Ⅰ		1:D1-8	前学期:コーチング学		2:B1-9	後学期:労働関係法規Ⅰ		4:B1-9
						前学期:経済学		2:A21-26	後学期:労働関係法規Ⅱ		4:B1-9	前学期:社会学		2:B1-9
	8208	250 (フ・黒紙)	前学期:スポーツ研究A		1:A45-50	後学期:キャリアデザインA		2:B1-9	後学期:スポーツ経営管理学		3:D1-8	前学期:経済学		2:A27-32
									前学期:スポーツ研究A		1:A21-26			
	7201	236 (暗・VTR・PC)	前学期:レクリエーション概論		2:D1-8	後学期:野外活動における安全管理		3:D1-8	後学期:歴史学		2:B1-9			
			後学期:キャリアデザインA		2:D1-8	前学期:道徳教育の研究		2:D1-8	前学期:社会学		2:D1-8	前学期:スポーツ行政		2:D1-8
	7202	236 (暗・VTR・PC)				後学期:体育科教育法		2:D1-8	後学期:統計学		2:D1-8	後学期:歴史学		2:D1-8
	1303	191 (暗・VTR・PC)												
	1304	178 (暗・VTR・PC)										前学期:体育科教育実践法		3:D7-8
	8105	214 (フ・黒紙)	前学期:文学		2:A27-32	後学期:機能解剖学		1:A9-16	前学期:文学		2:A41-44			
									後学期:機能解剖学		1:A1-8			
	8106	214 (フ・黒紙)	前学期:哲学		1:B1-9				後学期:養育発達論		1:A21-26			
			後学期:養育発達論		1:A27-32				前学期:哲学		1:A41-44	前学期:哲学		1:A27-32
	8205	214 (フ・黒紙)	前学期:哲学		1:A9-16	後学期:生涯スポーツ論		1:A27-32				後学期:生涯スポーツ論		1:A1-8
			後学期:生涯スポーツ論		1:A21-26									
	8201	104	前学期:国語表現Ⅰ		1:A24-26	前学期:国語表現Ⅰ		1:A30-32				後学期:国語表現Ⅰ		1:A45-46
	8202	104	前学期:国語表現Ⅱ		2:A47-48	前学期:国語表現Ⅱ		2:A27-29	前学期:国語表現Ⅱ		2:A21-23	前学期:国語表現Ⅱ		2:A45-46
			後学期:国語表現Ⅱ		2:A43-44	後学期:国語表現Ⅱ		2:A30-32	後学期:国語表現Ⅱ		2:A24-26	後学期:国語表現Ⅱ		2:A49-50
	8203	104 (フ・黒紙)	後学期:テーピング理論(実習を含む)		2:A27-29	後学期:テーピング理論(実習を含む)		2:A21-23				後学期:社会調査演習		3:D5-8
	8204	104	前学期:運動処方演習		2:A49-50	前学期:運動処方演習		2:A30-32	前学期:運動処方演習		2:A24-26	前学期:運動処方演習		2:A47-48
			後学期:運動処方演習		2:A45-46				後学期:運動処方演習		2:A21-23	後学期:運動処方演習		2:A27-29
	8101	96 (移動席)	前学期:基礎英語Ⅰ		1:A41-42	前学期:英語コミュニケーションⅠ		2:A41-42	前学期:英語コミュニケーションⅠ		2:A45-46			
			後学期:基礎英語Ⅱ		1:A41-42	後学期:英語コミュニケーションⅡ		2:A41-42	後学期:英語コミュニケーションⅡ		2:A45-46			
	8102	96 (移動席)	前学期:基礎英語Ⅰ		1:A43-44	前学期:英語コミュニケーションⅠ		2:A43-44	前学期:英語コミュニケーションⅠ		2:A47-48			
			後学期:基礎英語Ⅱ		1:A43-44	後学期:英語コミュニケーションⅡ		2:A43-44	後学期:英語コミュニケーションⅡ		2:A47-48			
	8103	96 (移動席)							前学期:英語コミュニケーションⅠ		2:A49-50			
									後学期:英語コミュニケーションⅡ		2:A49-50			
	8104	96 (移動席)							前学期:キャンプ理論・実習		3:D1-8	前学期:ネイチャーゲーム		3:D1-3
	7101	62 (移動席)				前学期:事前事後の指導		4:A41-42				前学期:事前事後の指導		4:A1-2
						後学期:教職実践演習		4:A41-42				後学期:教職実践演習		4:A1-2
	7102	62 (移動席)				前学期:事前事後の指導		4:A43-44				前学期:事前事後の指導		4:A3-4
						後学期:教職実践演習		4:A43-44				後学期:教職実践演習		4:A3-4
	7103	62 (移動席)												
	7104	62 (移動席)												
	1409	50 (コンピュータ)	後学期:情報処理(情報機器の操作を含む)		1:D7-8	後学期:情報処理(情報機器の操作を含む)		1:A24-26	後学期:情報処理(情報機器の操作を含む)		1:A30-32	後学期:情報処理(情報機器の操作を含む)		1:B1-2
	1410	50 (コンピュータ)												
	1405	80 (音楽)	前学期:芸術(音楽)		1:D7-8	前学期:芸術(音楽)		1:A24-26	前学期:芸術(音楽)		1:A30-32			
			後学期:芸術(音楽)		1:D1-6	後学期:芸術(音楽)		1:A21-23	後学期:芸術(音楽)		1:A27-29			
	1202	80 (実験)	後学期:スポーツ研究B		2:A30-32	後学期:スポーツ研究B		2:A24-26	後学期:スポーツ研究B		2:A27-29	前学期:スポーツ研究B		2:A21-23
	1203	80 (実験)												
	1204	80 (実験)												
コメディ ンクル	70													
1M206	AT													
1302	20 (フ)													
1406	20 (ゼミ)													
1407	20 (ゼミ)													
1408	20 (ゼミ)													

施設時間割【横浜・健志台キャンパス】 【木】曜日														
校舎	教室番号	収容人数	1 限			2 限			3 限			4 限		
			期間:	科目名	学年: クラス	期間:	科目名	学年: クラス	期間:	科目名	学年: クラス	期 間:	科目名	学年: クラス
	1402	453 (暗・フ・VTR)												
	1201	231 (暗・フ・VTR)	後学期:スポーツ哲学		1:A21-26	前学期:日体大の歴史 後学期:スポーツ哲学		1:A27-32 1:D1-8	前学期:日体大の歴史		1:A21-26	前学期:日体大の歴史 後学期:スポーツ哲学		1:B1-9 1:A27-32
	1301	231 (暗・フ・VTR)	前学期:スポーツ研究A		1:A41-44	前学期:保健科教育実践法 後学期:衛生学・公衆衛生学(運動衛生学を含む)		3:A13-16 1:A41-44	前学期:保健科教育実践法 後学期:衛生学・公衆衛生学(運動衛生学を含む)		3:A5-8 1:B1-9	前学期:スポーツ研究A 後学期:野外教育環境論		1:D1-8 1:D1-8
	1401	231 (暗・フ・VTR)				前学期:保健科教育法 後学期:保健科教育法		2:B1-9 2:D1-8	後学期:保健科教育法		2:A1-8	後学期:保健科教育法		2:A9-16
	8107	250 (フ・黒紙)	後学期:スポーツ経営管理学		3:A9-16	後学期:スポーツ哲学		1:B1-9	後学期:スポーツ心理学		3:A1-8	後学期:文学		2:A1-8
	8108	250 (フ・黒紙)	後学期:野外活動論		1:A27-32	後学期:野外活動論		1:B1-9	前学期:経済学		2:A9-16	前学期:経済学 後学期:スポーツ経営管理学		2:A1-8 3:A1-8
	8206	234 (フ・黒紙)	前学期:体育科教育法		2:B1-9	後学期:教育心理		2:B1-9	後学期:教育心理		2:D1-8			
	8207	252 (フ・黒紙)	後学期:スポーツ栄養学(食品学を含む)		2:A9-16	後学期:スポーツ心理学		3:A9-16	前学期:生命科学		2:A1-8	前学期:教育心理 後学期:スポーツ栄養学(食品学を含む)		2:A9-16 2:B1-9
	8208	250 (フ・黒紙)	後学期:スポーツ社会学		3:A41-44	前学期:生命科学 後学期:スポーツ社会学		1:A45-50 3:A1-8	前学期:生命科学 後学期:スポーツ社会学		1:B1-9 3:A9-16			
	7201	236 (暗・VTR・PC)	後学期:学校安全(救急処置を含む)		3:D1-8	前学期:人権教育 後学期:教育カウンセリング		3:D1-8 3:D1-8	前学期:教育経営 後学期:生徒指導論(進路指導を含む)		3:D1-8 3:D1-8			
	7202	236 (暗・VTR・PC)							後学期:教職実践演習(養護)		4:B1-9			
	1303	191 (暗・VTR・PC)				前学期:生涯スポーツ論		1:A41-44						
	1304	178 (暗・VTR・PC)				前学期:法学(日本国憲法を含む)		1:A21-26	前学期:法学(日本国憲法を含む)		1:A45-50	前学期:法学(日本国憲法を含む)		1:A27-32
	8105	214 (フ・黒紙)	前学期:テーピング理論(実習を含む)		2:D4-6	前学期:テーピング理論(実習を含む)		2:D7-8	前学期:テーピング理論(実習を含む)		2:D1-3			
	8106	214 (フ・黒紙)				前学期:健康管理学		3:A1-8	前学期:健康管理学		3:A9-16	前学期:健康管理学 後学期:社会教育演習Ⅱ(実習を含む)		3:A41-44 3:D1-6
	8205	214 (フ・黒紙)				後学期:コンディショニング演習		4:A1-8	後学期:発育発達論		1:D1-8	後学期:発育発達論		1:B1-9
	8201	104	前学期:運動処方演習 後学期:運動処方演習		2:A5-6 2:A1-2	前学期:運動処方演習 後学期:運動処方演習		2:A13-14 2:A9-10	前学期:運動処方演習 後学期:運動処方演習		2:B1-2 2:B6-7	前学期:社会教育演習Ⅰ(実習を含む)		3:D1-6
	8202	104	前学期:国語表現Ⅱ 後学期:国語表現Ⅱ		2:A1-2 2:A5-6	前学期:国語表現Ⅱ 後学期:国語表現Ⅱ		2:A9-10 2:A13-14	後学期:国語表現Ⅰ		1:A47-48	後学期:国語表現Ⅰ		1:A49-50
	8203	104 (フ・黒紙)	前学期:国語表現Ⅱ 後学期:国語表現Ⅱ		2:A3-4 2:A7-8	前学期:国語表現Ⅱ 後学期:国語表現Ⅱ		2:A11-12 2:A15-16	前学期:国語表現Ⅱ 後学期:国語表現Ⅱ		2:B3-4 2:B8-9	後学期:国語表現Ⅱ		2:D1-2
	8204	104	後学期:パフォーマンス分析演習		4:A1-8	前学期:体育科教育実践法 後学期:パフォーマンス分析演習		3:A9-12 4:A41-44	前学期:体育科教育実践法 後学期:パフォーマンス分析演習		3:A1-4 4:A9-16			
	8101	96 (移動席)	前学期:基礎英語Ⅰ 後学期:基礎英語Ⅱ		1:A45-46 1:A45-46				後学期:福祉経営		4:B1-9			
	8102	96 (移動席)	前学期:基礎英語Ⅰ 後学期:基礎英語Ⅱ		1:A47-48 1:A47-48									
	8103	96 (移動席)	前学期:基礎英語Ⅰ 後学期:基礎英語Ⅱ		1:A49-50 1:A49-50									
	8104	96 (移動席)							後学期:コンディショニング演習		4:A41-44	後学期:コンディショニング演習		4:A9-16
	7101	62 (移動席)										後学期:保健科教育実践法		3:D7-8
	7102	62 (移動席)							前学期:コンディショニング論		3:A41-44			
	7103	62 (移動席)												
	7104	62 (移動席)												
	1409	50 (コンピュータ)	前学期:情報処理(情報機器の操作を含む) 後学期:情報処理(情報機器の操作を含む)		1:D5-6 1:B3-4	前学期:情報処理(情報機器の操作を含む) 後学期:情報処理(情報機器の操作を含む)		1:D1-2 1:A47-48	前学期:情報処理(情報機器の操作を含む) 後学期:情報処理(情報機器の操作を含む)		1:D3-4 1:A49-50	後学期:情報処理(情報機器の操作を含む)		1:A45-46
	1410	50 (コンピュータ)												
	1405	80 (音楽)												
	1202	80 (実験)	前学期:スポーツ研究B 後学期:スポーツ研究B		2:A7-8 2:A3-4	前学期:スポーツ研究B 後学期:スポーツ研究B		2:A15-16 2:A11-12	前学期:スポーツ研究B		2:D7-8	後学期:スポーツ研究B		2:D3-4
	1203	80 (実験)												
	1204	80 (実験)												
コンテンツ ニングルー	70	70												
1M206	AT													
	1302	20 (フ)												
	1406	20 (ゼミ)												
	1407	20 (ゼミ)												
	1408	20 (ゼミ)												

施設時間割【横浜・健志台キャンパス】 【金】曜日														
校舎	教室番号	収容人数	1 限			2 限			3 限			4 限		
			期間:	科目名	学年: クラス	期間:	科目名	学年: クラス	期間:	科目名	学年: クラス	期 間:	科目名	学年: クラス
	1402	453 (晴・フ・VTR)	前学期:トレーニング学 後学期:スポーツトレーニング論C(体)	2:A41-44 2:A1-8		前学期:トレーニング学 後学期:トレーニング学	2:A9-16		前学期:測定評価学 後学期:スポーツトレーニング論C(体)	3:A45-50 2:A41-44		前学期:トレーニング学 後学期:スポーツトレーニング論C(体)	2:A1-8 2:A9-16	
	1201	231 (晴・フ・VTR)	前学期:コーチング学 後学期:衛生学・公衆衛生学(運動衛生学を含む)	2:A27-32 1:A1-8		前学期:コーチング学 後学期:衛生学・公衆衛生学(運動衛生学を含む)	2:A21-26 1:A9-16		前学期:哲学 後学期:哲学	1:A45-50		前学期:哲学 後学期:スポーツ哲学	1:A21-26 1:A41-44	
	1301	231 (晴・フ・VTR)	前学期:日体大の歴史 後学期:学習指導論	1:A1-8		前学期:日体大の歴史 後学期:学習指導論	1:A41-44 3:A1-8		前学期:日体大の歴史 後学期:学習指導論	1:A9-16 3:A41-44		前学期:スポーツ研究A 後学期:スポーツ研究A	1:A9-16	
	1401	231 (晴・フ・VTR)	前学期:生命科学 後学期:野外活動論	1:A9-16 1:A21-26		前学期:生命科学 後学期:野外活動論	1:A9-16 1:A1-8		前学期:スポーツ生理学 後学期:野外活動論	2:A9-16 1:A45-50				
	8107	250 (フ・黒紙)	前学期:心理学 後学期:教育カウンセリング	1:A27-32 3:A41-44		前学期:心理学 後学期:道徳教育の研究	1:A45-50 2:A27-32		前学期:医学概論 後学期:スポーツマーケティング論	3:B1-9 2:D1-8		後学期:障害者スポーツ論Ⅰ 後学期:障害者スポーツ論Ⅰ	2:D1-8	2:D1-8
	8108	250 (フ・黒紙)	前学期:学校保健(小児保健・精神保健を含む) 後学期:特別活動の研究	2:A21-26 2:D1-8		前学期:スポーツ社会学 後学期:機能解剖学	3:A27-32 1:A45-50		前学期:スポーツ社会学 後学期:心理学	3:A21-26 1:A9-16		後学期:機能解剖学 前学期:社会教育計画Ⅰ	1:A21-26 2:D1-8	
	8206	234 (フ・黒紙)	前学期:スポーツ栄養学(食品学を含む) 後学期:キャリアデザインA	2:D1-8 2:A9-16		前学期:スポーツメディア論 後学期:キャリアデザインA	4:D1-8 2:A1-8		前学期:道徳教育の研究 後学期:スポーツ栄養学(食品学を含む)	2:A21-26 2:A1-8		後学期:キャリアデザインA 後学期:キャリアデザインA	2:A41-44	
	8207	252 (フ・黒紙)				前学期:スポーツ栄養学(食品学を含む) 後学期:文学	2:A27-32 2:A9-16		前学期:スポーツ栄養学(食品学を含む) 後学期:スポーツ栄養学(食品学を含む)	2:A21-26 2:A1-8		後学期:栄養学(学校給食を含む) 後学期:スポーツ行政	3:B1-9 2:A9-16	
	8208	250 (フ・黒紙)	後学期:スポーツトレーニング論A(心)	2:A27-32		前学期:スポーツ医学 後学期:スポーツトレーニング論A(心)	2:A1-8 2:A21-26		前学期:学校保健(小児保健・精神保健を含む) 後学期:学校保健(小児保健・精神保健を含む)	2:A41-44 2:A9-16		前学期:学校保健(小児保健・精神保健を含む) 後学期:学校保健(小児保健・精神保健を含む)	2:A1-8	
	7201	236 (晴・VTR・PC)							後学期:教育カウンセリング	3:A1-8		後学期:教育カウンセリング	3:A9-16	
	7202	236 (晴・VTR・PC)							後学期:人権教育	3:A9-16				
	1303	191 (晴・VTR・PC)	前学期:測定評価学 後学期:スポーツ史	3:B1-4 2:A21-26		前学期:測定評価学 後学期:測定評価学	3:D1-6 3:B6-9		前学期:保健科教育法 後学期:スポーツ史	2:A27-32 2:A27-32		前学期:測定評価学 後学期:測定評価学	3:D7-8 3:A41-44	
	1304	178 (晴・VTR・PC)	前学期:保健科教育実践法 後学期:保健科教育実践法	3:B6-9 3:B1-4		前学期:保健科教育実践法 後学期:保健科教育実践法	3:A41-44		前学期:人権教育 後学期:保健科教育実践法	3:A27-32 3:A48-50		前学期:人権教育 後学期:社会教育計画Ⅱ	3:A21-26 3:D1-8	
	8105	214 (フ・黒紙)	前学期:学習指導論 後学期:教育原理	3:D1-8 1:A41-44		前学期:学習指導論 後学期:心理学	3:B1-9 1:A1-8		前学期:学習指導論 後学期:教育原理	3:A9-16 1:A1-8		後学期:教育原理	1:A27-32	
	8106	214 (フ・黒紙)				前学期:スポーツバイオメカニクス 後学期:スポーツ人類学	3:A9-16 3:A45-50		前学期:スポーツバイオメカニクス 後学期:スポーツバイオメカニクス	3:A1-8 3:B1-9				
	8205	214 (フ・黒紙)	前学期:スポーツ行政	2:A1-8		前学期:人権教育 後学期:教育経営	3:A1-8 3:A41-44		前学期:ゴルフ理論・実習	3:D1-8		後学期:野外活動計画論	3:D1-8	
	8201	104				前学期:障害概論	4:D1-8		後学期:スポーツ人類学	3:A21-26		後学期:スポーツ人類学	3:A27-32	
	8202	104												
	8203	104 (フ・黒紙)	前学期:コーチング演習	3:A13-16		後学期:コーチング演習	3:A21-26		後学期:コーチング演習	3:A27-32		前学期:コーチング演習	3:A5-8	
	8204	104	後学期:体育科教育実践法	3:B6-9		後学期:体育科教育実践法	3:B1-4		後学期:体育科教育実践法	3:A45-47		前学期:ネイチャーゲーム 後学期:体育科教育実践法	3:D4-6 3:A48-50	
	8101	96 (移動席)	後学期:運動処方演習	2:A41-42		後学期:運動処方演習	2:A43-44					前学期:英語コミュニケーションⅠ 後学期:英語コミュニケーションⅡ	2:A21-23 2:A21-23	
	8102	96 (移動席)										前学期:英語コミュニケーションⅠ 後学期:英語コミュニケーションⅡ	2:A24-26 2:A24-26	
	8103	96 (移動席)										前学期:英語コミュニケーションⅠ 後学期:英語コミュニケーションⅡ	2:A27-29 2:A27-29	
	8104	96 (移動席)				前学期:ネイチャーゲーム	3:D7-8					前学期:英語コミュニケーションⅠ 後学期:英語コミュニケーションⅡ	2:A30-32 2:A30-32	
	7101	62 (移動席)				前学期:英語コミュニケーションⅠ 後学期:英語コミュニケーションⅡ	2:D1-2 2:D1-2							
	7102	62 (移動席)				前学期:英語コミュニケーションⅠ 後学期:英語コミュニケーションⅡ	2:D3-4 2:D3-4							
	7103	62 (移動席)				前学期:英語コミュニケーションⅠ 後学期:英語コミュニケーションⅡ	2:D5-6 2:D5-6							
	7104	62 (移動席)				前学期:英語コミュニケーションⅠ 後学期:英語コミュニケーションⅡ	2:D7-8 2:D7-8							
	1409	50 (コンピュータ)												
	1410	50 (コンピュータ)												
	1405	80 (音楽)												
	1202	80 (実験)	後学期:スポーツ研究B	2:A43-44		後学期:スポーツ研究B	2:A41-42							
	1203	80 (実験)												
	1204	80 (実験)												
コンテナ シングル	70													
1M206	AT													
	1302	20 (フ)												
	1406	20 (ゼミ)												
	1407	20 (ゼミ)												
	1408	20 (ゼミ)												

施設時間割【横浜健志台キャンパス】															【月】曜日		
校舎	教室番号	収容人数	1 限			2 限			3 限			4 限					
			期間	科目名	学年: クラス	期間	科目名	学年: クラス	期間	科目名	学年: クラス	期 間	科目名	学年: クラス			
第一体育館	第一体育館	ハンド・エアロビ				前学期:運動方法・ハンドボール		1:B3・4	前学期:運動方法・ハンドボール		1:B6・7	前学期:スポーツ実践指導法・ハンドボール		3:A13-16			
			後学期:スポーツ実践指導法・ハンドボール		3:A5-8	後学期:運動方法・ハンドボール		1:B8・9	後学期:運動方法・ハンドボール		1:B1・2	後学期:スポーツ実践指導法・ハンドボール		3:A9-12			
	柔道場(量)		前学期:ストレッチング実習		1:A5・6			前学期:ストレッチング実習		1:A15・16	前学期:運動方法・柔道		1:A7・8				
			後学期:ストレッチング実習		1:A1・2			後学期:ストレッチング実習		1:A11・12	後学期:運動方法・柔道		1:A27-29				
第二体育館	米体I-1	バレー				前学期:運動方法・バレーボール		1:A1・2				前学期:運動方法・バレーボール		1:B8・9			
			後学期:運動方法・バレーボール		1:B3・4	後学期:運動方法・バレーボール		1:A5・6									
	米体I-2	バド・バスケ	前学期:スポーツ実践指導法・バドミントン		3:A13-16	前学期:運動方法・バドミントン		1:B6・7	前学期:運動方法・バドミントン		1:B8・9	前学期:スポーツ実践指導法・バドミントン		3:A1-4			
			後学期:スポーツ実践指導法・バドミントン		3:A9-12	後学期:運動方法・バドミントン		1:B1・2	後学期:運動方法・バドミントン		1:B3・4	後学期:スポーツ実践指導法・バドミントン		3:A5-8			
	米体II	体づくり				前学期:運動方法・体づくり運動(体操)		1:A11・12	前学期:運動方法・体づくり運動(体操)		1:A3・4	前学期:運動方法・体づくり運動(体操)		1:B1・2			
			後学期:体育科教育実践法(教室併用)		3:D1-6	後学期:運動方法・体づくり運動(体操)		1:A24-26	後学期:運動方法・体づくり運動(体操)		1:A30-32	後学期:運動方法・体づくり運動(体操)		1:B6・7			
	剣道場		前学期:運動方法・剣道		1:A1・2	前学期:運動方法・剣道		1:A24-26	前学期:運動方法・剣道		1:A9・10	前学期:運動方法・剣道		1:B6・7			
												後学期:運動方法・剣道		1:A15-16			
レスリング場		前学期:スポーツ実践指導法・レスリング		4:A1-8	前学期:スポーツ実践指導法・レスリング		4:A9-16	前学期:運動方法・レスリング		2:A21-26	前学期:運動方法・レスリング		2:A27-32				
					後学期:スポーツ実践指導法・レスリング		4:A27-32	後学期:運動方法・レスリング		2:A41-44	後学期:運動方法・レスリング		2:A45-50				
相撲場						前学期:運動方法・相撲		1:A7・8				前学期:運動方法・相撲		1:A15-16			
						後学期:運動方法・相撲		1:A3・4	後学期:運動方法・相撲		1:A13-14	後学期:運動方法・相撲		1:A30-32			
第三体育館	三体I(プール側)	ダンス・グルレク	前学期:ローオーガナイズドスポーツ		4:D7・8	前学期:運動方法・ダンス(フォークダンスを含む)		1:A3・4	前学期:運動方法・ダンス(フォークダンスを含む)		1:A13-14	前学期:ローオーガナイズドスポーツ		4:D1-6			
			後学期:運動方法・ダンス(フォークダンスを含む)		1:D3・4	後学期:運動方法・ダンス(フォークダンスを含む)		1:A7・8	後学期:運動方法・ダンス(フォークダンスを含む)		1:A9・10	後学期:運動方法・ダンス(フォークダンスを含む)		1:A24-26			
	三体II(学食側)	バスケ・卓球				前学期:体育科教育実践法(教室併用)		3:A5-8	前学期:体育科教育実践法(教室併用)		3:A13-16	前学期:体育科教育実践法(教室併用)		3:A41-44			
体操競技館	体操競技場	I	前学期:スポーツ実践指導法・器械運動		3:A5-8	前学期:運動方法・器械運動		1:B1・2	前学期:運動方法・器械運動		1:B3・4	前学期:スポーツ実践指導法・器械運動		3:A9-12			
			後学期:スポーツ実践指導法・器械運動		3:A1-4	後学期:運動方法・器械運動		1:B6・7	後学期:運動方法・器械運動		1:B8・9	後学期:スポーツ実践指導法・器械運動		3:A13-16			
		II															
百年記念館	トレーニングセンター																
プール	プール(8コース)	前学期のみ	前学期:スポーツ実践指導法・水泳		3:A1-4	前学期:運動方法・水泳		1:A9・10	前学期:運動方法・水泳		1:A1・2						
陸上競技場	陸上競技場	1	後学期:運動方法・陸上競技		1:B1・2	前学期:運動方法・陸上競技		1:A43・44	前学期:運動方法・陸上競技		1:A5・6						
			後学期:運動方法・陸上競技			後学期:運動方法・陸上競技		1:A13-14	後学期:運動方法・陸上競技		1:A41・42	後学期:スポーツ実践指導法・陸上競技		3:A1-4			
		2															
ゴルフ	ゴルフ場		前学期:専門運動方法(ゴルフ)		4:A48-50				前学期:専門運動方法(ゴルフ)		4:A27-32	前学期:専門運動方法(ゴルフ)		4:A45-47			
テニス場	テニス場	軟式4面 硬式2面	前学期:スポーツ実践指導法・テニス		4:A9-16	前学期:スポーツ実践指導法・テニス		4:A1-8	前学期:スポーツ実践指導法・テニス		4:A41-44						
									後学期:スポーツ実践指導法・テニス		4:A21-26						
ラグビー	ラグビー場		前学期:スポーツ実践指導法・ラグビー		4:A21-32	前学期:スポーツ実践指導法・ラグビー		4:A41-50	前学期:スポーツ実践指導法・ラグビー		4:A1-16						
									後学期:運動方法・ラグビー		2:A21-26	後学期:運動方法・ラグビー		2:A27-32			
サッカー	サッカー場		前学期:スポーツ実践指導法・サッカー		3:A9-12	前学期:運動方法・サッカー		1:B8・9	前学期:運動方法・サッカー		1:B1・2	前学期:スポーツ実践指導法・サッカー		3:A5-8			
			後学期:スポーツ実践指導法・サッカー		3:A13-16	後学期:運動方法・サッカー		1:B3・4	後学期:運動方法・サッカー		1:B6・7						
野球場	野球場(ソフトボール)					前学期:運動方法・ソフトボール(野球を含む)		1:A41・42	前学期:運動方法・ソフトボール(野球を含む)		1:A7・8	前学期:運動方法・ソフトボール(野球を含む)		1:B3・4			
			後学期:スポーツ実践指導法・ソフトボール(野球を含む)		3:A41-44	後学期:運動方法・ソフトボール(野球を含む)		1:A15-16	後学期:運動方法・ソフトボール(野球を含む)		1:A43-44						
アーチェリー	アーチェリー場		後学期:専門運動方法(アーチェリー)		4:A45-47	後学期:専門運動方法(アーチェリー)		4:A21-26	後学期:専門運動方法(アーチェリー)		4:A48-50						

施設時間割【横浜健志台キャンパス】 【火】曜日																		
校舎	教室番号	収容人数	1 限				2 限				3 限				4 限			
			期 間	科目名	学 年	ク ラ ス	期 間	科目名	学 年	ク ラ ス	期 間	科目名	学 年	ク ラ ス	期 間	科目名	学 年	ク ラ ス
第一体育館	第一体育館	ハンド・ボール アリーナ	前学期	スポーツ実践指導法・ハンドボール	3	A27・32	前学期	スポーツ実践指導法・ハンドボール	3	A21・26	前学期	運動方法・ハンドボール	1	D3・4	前学期	運動方法・ハンドボール	1	D5・6
			後学期	スポーツ実践指導法・ハンドボール	3	A48・50	後学期	スポーツ実践指導法・ハンドボール	3	A45・47	後学期	運動方法・ハンドボール	1	D7・8	後学期	運動方法・ハンドボール	1	D1・2
	柔道場 (畳)		前学期	スポーツ実践指導法・柔道	3	A1・4	前学期	スポーツ実践指導法・柔道	3	A5・8	前学期	運動方法・柔道	1	B1・2				
			後学期	スポーツ実践指導法・柔道	3	A9・12	後学期	スポーツ実践指導法・柔道	3	A13・16	後学期	運動方法・柔道	1	B6・7	後学期	運動方法・柔道	1	B8・9
第二体育館	米体I-1	バレー					前学期	スポーツ実践指導法・バレーボール	3	A41・44								
	米体I-2	バド・ バスケ	前学期	スポーツ実践指導法・バドミントン	3	A45・47	前学期	スポーツ実践指導法・バドミントン	3	A48・50	前学期	運動方法・バドミントン	1	D5・6				
			後学期	スポーツ実践指導法・バドミントン	3	A21・26	後学期	スポーツ実践指導法・バドミントン	3	A27・32	後学期	運動方法・バドミントン	1	D1・2	後学期	運動方法・バドミントン	1	D3・4
	米体II	体づくり	前学期	運動方法・体づくり運動(体操)	1	A13・14	前学期	運動方法・体づくり運動(体操)	1	A5・6	前学期	運動方法・体づくり運動(体操)	1	B8・9				
			後学期	スポーツ実践指導法・体づくり運動(体操)	3	A41・44	後学期	エアロビックダンス	2	A45・47	後学期	運動方法・体づくり運動(体操)	1	B3・4	後学期	エアロビックダンス	2	A48・50
	剣道場		前学期	スポーツ実践指導法・剣道	3	A5・8	前学期	スポーツ実践指導法・剣道	3	A1・4	前学期	運動方法・剣道	1	B3・4	前学期	運動方法・剣道	1	A49・50
			後学期	スポーツ実践指導法・剣道	3	A13・16	後学期	スポーツ実践指導法・剣道	3	A9・12	後学期	運動方法・剣道	1	B8・9	後学期	運動方法・剣道	1	A45・46
レスリング場																		
第三体育館	相撲場		前学期	スポーツ実践指導法・相撲	3	A9・12	前学期	スポーツ実践指導法・相撲	3	A13・16	前学期	運動方法・相撲	1	B6・7				
			後学期	スポーツ実践指導法・相撲	3	A1・4	後学期	スポーツ実践指導法・相撲	3	A5・8	後学期	運動方法・相撲	1	B1・2	後学期	運動方法・相撲	1	B3・4
	三体I (プール側)	ダンス・ グルレク	前学期	スポーツ実践指導法・ダンス(フォークダンスを含む)	3	A13・16	前学期	スポーツ実践指導法・ダンス(フォークダンスを含む)	3	A9・12	前学期	レクリエーション実技	2	D1・2	前学期	レクリエーション実技	2	D3・4
第三体育館	三体II (学食側)	バスケ・卓球	後学期	スポーツ実践指導法・ダンス(フォークダンスを含む)	3	A5・8	後学期	スポーツ実践指導法・ダンス(フォークダンスを含む)	3	A1・4	後学期	レクリエーション実技	2	D5・6	後学期	レクリエーション実技	2	D7・8
			前学期	スポーツ実践指導法・バスケットボール	3	A41・44					前学期	障害者スポーツ実技 I	2	D5・6	前学期	障害者スポーツ実技 I	2	D7・8
体操競技場		I	後学期	障害者スポーツ実技 I	2	D1・2	後学期	障害者スポーツ実技 I	2	D1・2	後学期	障害者スポーツ実技 I	2	D3・4	後学期	障害者スポーツ実技 I	2	D3・4
			前学期	スポーツ実践指導法・器械運動	3	A21・26	前学期	スポーツ実践指導法・器械運動	3	A27・32	前学期	運動方法・器械運動	1	D1・2	前学期	運動方法・器械運動	1	D3・4
百年記念館		II	後学期	スポーツ実践指導法・器械運動	3	A45・47	後学期	スポーツ実践指導法・器械運動	3	A48・50	後学期	運動方法・器械運動	1	D5・6	後学期	運動方法・器械運動	1	D7・8
プール	トレーニングセンター		前学期	トレーニング実践演習	2	D7・8	前学期	トレーニング実践演習	2	D7・8	前学期	運動処方演習(教室併用)	2	A7・8	前学期	運動処方演習(教室併用)	2	A15・16
			後学期	トレーニング実践演習	2	D1・2	後学期	トレーニング実践演習	2	D3・4	後学期	運動処方演習(教室併用)	2	A3・4	後学期	運動処方演習(教室併用)	2	A11・12
陸上競技場	プール (8コース)	前学期のみ	前学期	運動方法・水泳	1	A11・12					前学期	運動方法・水泳	1	A3・4				
ゴルフ場	陸上競技場	1	前学期	運動方法・陸上競技	1	A15・16	前学期	運動方法・陸上競技	1	A7・8					前学期	運動方法・陸上競技	1	D7・8
							後学期	スポーツ実践指導法・陸上競技	3	A41・44					後学期	運動方法・陸上競技	1	B6・7
テニス場	ゴルフ場																	
							前学期	専門運動方法(ゴルフ)	4	A13・16	前学期	専門運動方法(ゴルフ)	4	A5・8	前学期	専門運動方法(ゴルフ)	4	A9・12
ラグビー場	テニス場	軟式4面 硬式2面																
サッカー場	ラグビー場																	
野球場	サッカー場		前学期	スポーツ実践指導法・サッカー	3	A48・50	前学期	スポーツ実践指導法・サッカー	3	A45・47	前学期	運動方法・サッカー	1	D7・8	前学期	運動方法・サッカー	1	D1・2
			後学期	スポーツ実践指導法・サッカー	3	A27・32	後学期	スポーツ実践指導法・サッカー	3	A21・26	後学期	運動方法・サッカー	1	D3・4	後学期	運動方法・サッカー	1	D5・6
アーチェリー場	野球場 (ソフトボール)		前学期	運動方法・ソフトボール(野球を含む)	1	A9・10					前学期	運動方法・ソフトボール(野球を含む)	1	A1・2				
														後学期	運動方法・ソフトボール(野球を含む)	1	B1・2	
	アーチェリー場																	
							後学期	専門運動方法(アーチェリー)	4	A13・16	後学期	専門運動方法(アーチェリー)	4	A5・8	後学期	専門運動方法(アーチェリー)	4	A9・12

施設時間割【横浜健志台キャンパス】 【水】曜日																
校舎	教室番号	収容人数	1 限			2 限			3 限			4 限				
			期間	科目名	学年 クラス	期間	科目名	学年 クラス	期間	科目名	学年 クラス	期 間	科目名	学年 クラス		
第一体育館	第一体育館	ハンドボール・エアロビクス	前学期:運動方法・ハンドボール		1:A3・4	前学期:運動方法・ハンドボール		1:A5・6	前学期:運動方法・ハンドボール		1:A11・12	前学期:運動方法・ハンドボール		1:A13・14		
			後学期:運動方法・ハンドボール		1:A7・8	後学期:運動方法・ハンドボール		1:A1・2	後学期:運動方法・ハンドボール		1:A15・16	後学期:運動方法・ハンドボール		1:A9・10		
	柔道場(畳)													前学期:運動方法・柔道		1:A47・48
第二体育館	米体I-1	バレー												前学期:体育科教育実践法(教室併用)		3:D7・8
						後学期:運動方法・バレーボール		1:A45・46	後学期:運動方法・バレーボール		1:A47・48	後学期:運動方法・バレーボール		1:A49・50		
	米体I-2	バドミントン・バスケ	前学期:運動方法・バドミントン		1:A5・6	前学期:運動方法・バドミントン		1:A7・8	前学期:運動方法・バドミントン		1:A13・14	前学期:運動方法・バドミントン		1:A15・16		
			後学期:運動方法・バドミントン		1:A1・2	後学期:運動方法・バドミントン		1:A3・4	後学期:運動方法・バドミントン		1:A9・10	後学期:運動方法・バドミントン		1:A11・12		
	米体II	体づくり	前学期:運動方法・体づくり運動(体操)		1:D5・6	前学期:運動方法・体づくり運動(体操)		1:A15・16	前学期:運動方法・体づくり運動(体操)		1:A7・8	前学期:運動方法・体づくり運動(体操)		1:D3・4		
			後学期:運動方法・体づくり運動(体操)		1:A45・46	後学期:運動方法・体づくり運動(体操)		1:A47・48	後学期:運動方法・体づくり運動(体操)		1:A49・50					
	剣道場													後学期:運動方法・剣道		1:A30-32
レスリング場			前学期:ストレッチング実習		1:A30-32	前学期:ストレッチング実習		1:A21-23	前学期:ストレッチング実習		1:A27-29	前学期:ストレッチング実習		1:A24-26		
			後学期:ストレッチング実習		1:A49・50				後学期:ストレッチング実習		1:A45・46	後学期:ストレッチング実習		1:A47・48		
	相撲場		前学期:運動方法・相撲		1:A21-23	前学期:運動方法・相撲		1:A27-29				前学期:運動方法・相撲		1:B8・9		
第三体育館	三体I(プール側)	ダンス・グルレク	前学期:エアロビックダンス		2:A24-26	前学期:運動方法・ダンス(フォークダンスを含む)		1:B1・2	前学期:エアロビックダンス		2:A30-32	前学期:エアロビックダンス		2:A41-44		
			後学期:エアロビックダンス		2:A21-23	後学期:運動方法・ダンス(フォークダンスを含む)		1:B3・4	後学期:運動方法・ダンス(フォークダンスを含む)		1:D1・2	後学期:運動方法・ダンス(フォークダンスを含む)		1:B6・7		
	三体II(学食側)	バスケ・卓球												後学期:運動方法・バスケットボール		1:B8・9
体操競技館	体操競技場	I	前学期:運動方法・器械運動		1:A1・2	前学期:運動方法・器械運動		1:A3・4	前学期:運動方法・器械運動		1:A9・10	前学期:運動方法・器械運動		1:A11・12		
			後学期:運動方法・器械運動		1:A5・6	後学期:運動方法・器械運動		1:A7・8	後学期:運動方法・器械運動		1:A13・14	後学期:運動方法・器械運動		1:A15・16		
		II														
百年記念館	トレーニングセンター		前学期:運動処方演習(教室併用)		2:A49・50	前学期:運動処方演習(教室併用)		2:A30-32	前学期:運動処方演習(教室併用)		2:A24-26	前学期:運動処方演習(教室併用)		2:A47・48		
			後学期:運動処方演習(教室併用)		2:A45・46			後学期:運動処方演習(教室併用)		2:A21-23	後学期:運動処方演習(教室併用)		2:A27-29			
プール	プール(8コース)	前学期のみ	前学期:運動方法・水泳		1:D1・2	前学期:運動方法・水泳		1:A13・14	前学期:運動方法・水泳		1:A5・6	前学期:運動方法・水泳		1:D7・8		
陸上競技場	陸上競技場	1	前学期:運動方法・陸上競技		1:D3・4	前学期:運動方法・陸上競技		1:A9・10	前学期:運動方法・陸上競技		1:A1・2	前学期:運動方法・陸上競技		1:D1・2		
			後学期:運動方法・陸上競技		1:A47・48	後学期:運動方法・陸上競技		1:A49・50			後学期:運動方法・陸上競技		1:B3・4			
		2														
ゴルフ	ゴルフ場		前学期:専門運動方法(ゴルフ)		4:A41-44				前学期:専門運動方法(ゴルフ)		4:A1-4					
テニス場	テニス場	軟式4面 硬式2面	前学期:運動方法・テニス		2:A21-23				前学期:運動方法・テニス		2:A27-29	前学期:運動方法・テニス		2:A24-26		
			後学期:運動方法・テニス		2:A48-50			後学期:運動方法・テニス		2:A30-32	後学期:運動方法・テニス		2:A45-47			
ラグビー	ラグビー場					後学期:運動方法・ラグビー		2:A45-50								
サッカー	サッカー場		前学期:運動方法・サッカー		1:A7・8	前学期:運動方法・サッカー		1:A1・2	前学期:運動方法・サッカー		1:A15・16	前学期:運動方法・サッカー		1:A9・10		
			後学期:運動方法・サッカー		1:A3・4	後学期:運動方法・サッカー		1:A5・6	後学期:運動方法・サッカー		1:A11・12	後学期:運動方法・サッカー		1:A13・14		
野球場	野球場(ソフトボール)		前学期:運動方法・ソフトボール(野球を含む)		1:A27-29	前学期:運動方法・ソフトボール(野球を含む)		1:A11・12	前学期:運動方法・ソフトボール(野球を含む)		1:A3・4	前学期:運動方法・ソフトボール(野球を含む)		1:A21-23		
	アーチェリー場		後学期:専門運動方法(アーチェリー)		4:A41-44				後学期:専門運動方法(アーチェリー)		4:A1-4					

施設時間割【横浜健志台キャンパス】 【木】曜日																		
校舎	教室番号	収容人数	1 限				2 限				3 限				4 限			
			期間	科目名	学年	クラス	期間	科目名	学年	クラス	期間	科目名	学年	クラス	期 間	科目名	学年	クラス
第一体育館	第一体育館	ハンド・ドブ ンホリン・エ アロビ													前学期:運動方法・ハンドボール		1:A43・44	
															後学期:運動方法・ハンドボール		1:A41・42	
	柔道場 (畳)														後学期:運動方法・柔道		1:A41・42	
第二体育館	米体I-1	バレー													後学期:運動方法・バレーボール		1:B1・2	
															後学期:運動方法・バレーボール		1:A30-32	
	米体I-2	バド・ バスケ													後学期:運動方法・バレーボール		1:A24-26	
															後学期:運動方法・バレーボール		1:A21-23	
															前学期:運動方法・バドミントン		1:A41・42	
															後学期:運動方法・バドミントン		1:A43・44	
															後学期:運動方法・バドミントン		1:A43・44	
米体II	体づくり													前学期:スポーツ実践指導法・体づくり運動(体操)		3:A5-8		
														後学期:スポーツ実践指導法・体づくり運動(体操)		3:A1-4		
														前学期:運動方法・体づくり運動(体操)		1:D7・8		
														後学期:運動方法・体づくり運動(体操)		1:A21-23		
	剣道場														前学期:運動方法・剣道		1:A27-29	
	レスリング場														前学期:運動方法・レスリング		2:A1-8	
															前学期:スポーツ実践指導法・レスリング		4:A21-26	
															後学期:運動方法・レスリング		2:A9-16	
															後学期:運動方法・レスリング		4:A41-50	
	相撲場														前学期:運動方法・相撲		1:D3・4	
															後学期:運動方法・相撲		1:D1-2	
第三体育館	三体I (プール側)	ダンス・ グルレク													前学期:エアロビックダンス		2:D7・8	
															後学期:運動方法・ダンス(フォークダンスを含む)		1:B8・9	
															後学期:運動方法・ダンス(フォークダンスを含む)		1:A27-29	
	三体II (学食側)	バスケ・卓球													前学期:体育科教育実践法(教室併用)		3:A9-12	
															前学期:体育科教育実践法(教室併用)		3:A9-12	
															後学期:運動方法・バスケットボール		1:A24-26	
体操競技館	体操競技場	I													前学期:運動方法・器械運動		1:A41-42	
															後学期:スポーツ実践指導法・器械運動		3:A41-44	
		II													後学期:運動方法・器械運動		1:A43-44	
百年記念プール	トレーニングセ ンター														前学期:運動処方演習(教室併用)		2:A5・6	
															後学期:運動処方演習(教室併用)		2:A1・2	
															後学期:運動処方演習(教室併用)		2:A9・10	
															後学期:運動処方演習(教室併用)		2:A9・10	
プー ル	プール (8コース)	前学期 のみ													前学期:運動処方演習(教室併用)		2:B1・2	
															後学期:運動処方演習(教室併用)		2:B6・7	
															後学期:運動処方演習(教室併用)		2:B6・7	
															後学期:運動処方演習(教室併用)		2:B6・7	
															後学期:運動処方演習(教室併用)		2:B6・7	
															後学期:運動処方演習(教室併用)		2:B6・7	
															後学期:運動処方演習(教室併用)		2:B6・7	
															後学期:運動処方演習(教室併用)		2:B6・7	
															後学期:運動処方演習(教室併用)		2:B6・7	
															後学期:運動処方演習(教室併用)		2:B6・7	
															後学期:運動処方演習(教室併用)		2:B6・7	
															後学期:運動処方演習(教室併用)		2:B6・7	
															後学期:運動処方演習(教室併用)		2:B6・7	
															後学期:運動処方演習(教室併用)		2:B6・7	
															後学期:運動処方演習(教室併用)		2:B6・7	
															後学期:運動処方演習(教室併用)		2:B6・7	
															後学期:運動処方演習(教室併用)		2:B6・7	
															後学期:運動処方演習(教室併用)		2:B6・7	
															後学期:運動処方演習(教室併用)		2:B6・7	
															後学期:運動処方演習(教室併用)		2:B6・7	
															後学期:運動処方演習(教室併用)		2:B6・7	
															後学期:運動処方演習(教室併用)		2:B6・7	
															後学期:運動処方演習(教室併用)		2:B6・7	
															後学期:運動処方演習(教室併用)		2:B6・7	
															後学期:運動処方演習(教室併用)		2:B6・7	
															後学期:運動処方演習(教室併用)		2:B6・7	
															後学期:運動処方演習(教室併用)		2:B6・7	
															後学期:運動処方演習(教室併用)		2:B6・7	
															後学期:運動処方演習(教室併用)		2:B6・7	
															後学期:運動処方演習(教室併用)		2:B6・7	
															後学期:運動処方演習(教室併用)		2:B6・7	
															後学期:運動処方演習(教室併用)		2:B6・7	

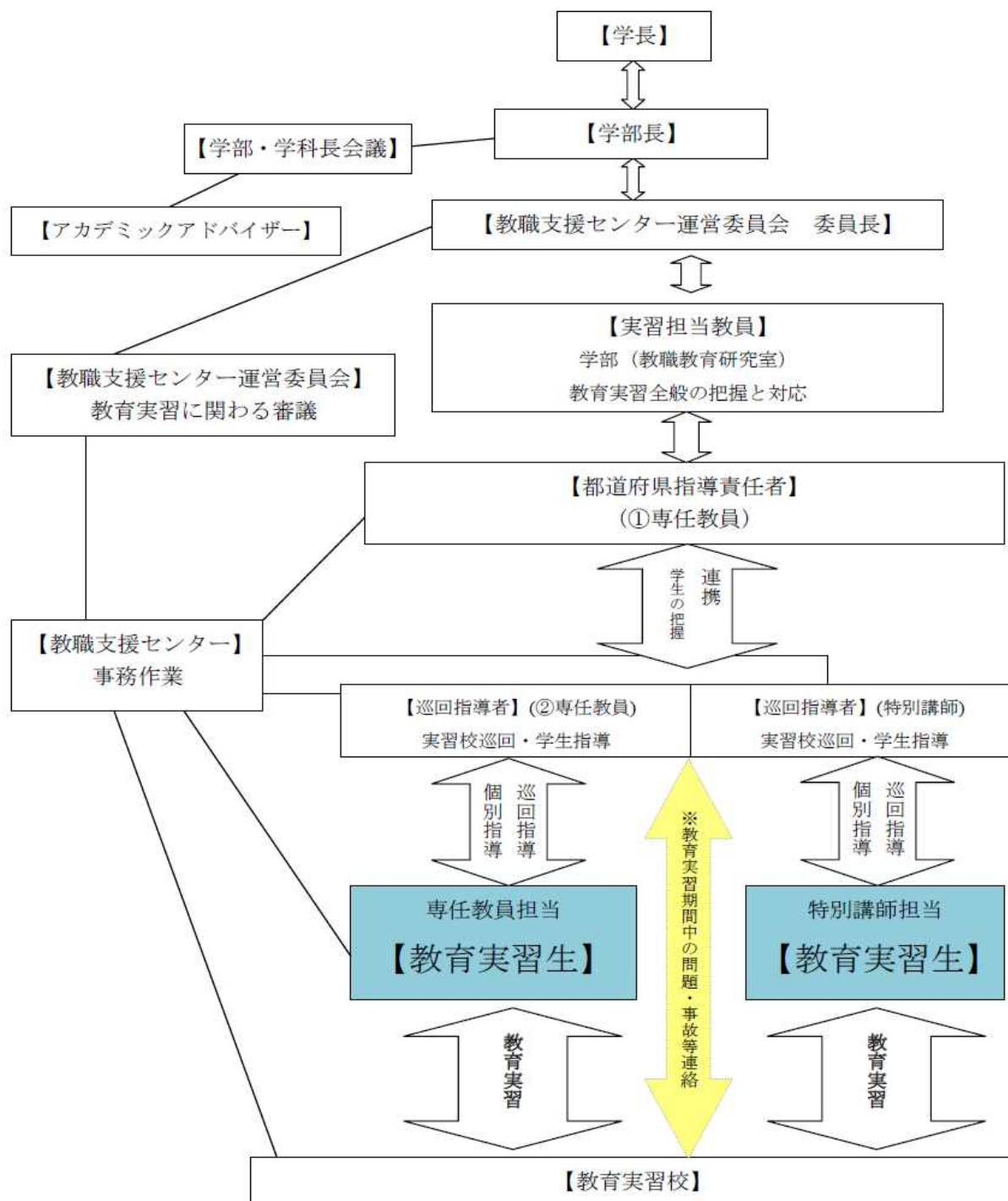
施設時間割【横浜健志台キャンパス】 【金】曜日										
校舎	教室番号	収容人数	1 限		2 限		3 限		4 限	
			期 間	科 目 名	学 年	ク ラ ス	期 間	科 目 名	学 年	ク ラ ス
第一体育館	第一体育館	ハンド・ボール・エアロビクス	前学期:運動方法・ハンドボール		1	A47・48	前学期:運動方法・ハンドボール		1	A24-26
			後学期:運動方法・ハンドボール		1	A49・50	後学期:運動方法・ハンドボール		1	A21-23
	柔道場（ 畳）		前学期:運動方法・柔道		1	A21-23				
			後学期:スポーツ実践指導法・柔道		3	A21-26	後学期:スポーツ実践指導法・柔道		3	A27-32
第二体育館	米体I-1	バレー	前学期:スポーツ実践指導法・バレーボール		3	A27-32	前学期:スポーツ実践指導法・バレーボール		3	A21-26
			後学期:体育科教育実践法(教室併用)		3	B6-9	後学期:体育科教育実践法(教室併用)		3	B1-4
	米体I-2	バド・バスケ	前学期:運動方法・バドミントン		1	A45・46	前学期:運動方法・バドミントン		1	A27-29
							後学期:運動方法・バドミントン		1	A30-32
	米体II	体づくり	前学期:スポーツ実践指導法・体づくり運動(体操)		3	A48-50	前学期:運動方法・体づくり運動(体操)		1	A9・10
			後学期:スポーツ実践指導法・体づくり運動(体操)		3	D1-3	後学期:スポーツ実践指導法・体づくり運動(体操)		3	D4-6
	剣道場									
			後学期:スポーツ実践指導法・剣道		3	A48-50	後学期:運動方法・剣道		1	A43・44
	レスリング場									
第三体育館	三体I (プール側)	ダンス・グルレク					前学期:スポーツ実践指導法・ダンス(フォークダンスを含む)		3	A45-47
			後学期:グループレクリエーション		3	D4-6	後学期:グループレクリエーション		3	D7・8
	三体II (学食側)	バスケ・卓球	前学期:スポーツ実践指導法・バスケットボール		3	A45-47	前学期:運動方法・バスケットボール		1	A41・42
			後学期:障害者スポーツ実技Ⅱ		3	D7・8	後学期:障害者スポーツ実技Ⅱ		3	D4-6
体操競技館	体操競技場	Ⅰ					前学期:運動方法・器械運動		1	A21-23
			後学期:運動方法・器械運動		1	A47・48	後学期:運動方法・器械運動		1	A24-26
		Ⅱ								
百年記念館	トレーニングセンター		後学期:運動処方演習(教室併用)		2	A41・42	後学期:運動処方演習(教室併用)		2	A43・44
プール	プール(8コース)	前学期のみ	前学期:スポーツ実践指導法・水泳		3	A21-26	前学期:運動方法・水泳		1	A15-16
陸上競技場	陸上競技場	1	前学期:スポーツ実践指導法・陸上競技		3	A5-8	前学期:運動方法・陸上競技		1	A11・12
		2	後学期:スポーツ実践指導法・陸上競技		3	A27-32			1	A3・4
ゴルフ	ゴルフ場									
テニス場	テニス場	軟式4面 硬式2面								
ラグビー	ラグビー場						前学期:運動方法・ラグビー		2	A41-44
サッカー	サッカー場		前学期:運動方法・サッカー		1	A49・50	前学期:運動方法・サッカー		1	A30-32
			後学期:運動方法・サッカー		1	A45・46	後学期:運動方法・サッカー		1	A27-29
野球場	野球場(ソフトボール)		前学期:スポーツ実践指導法・ソフトボール(野球を含む)		3	A1-4	前学期:運動方法・ソフトボール(野球を含む)		1	A5・6
アーチェリー	アーチェリー場		前学期:専門運動方法(アーチェリー)		4	D1-3	前学期:専門運動方法(アーチェリー)		4	D4-6

資料3

実習先一覧・施設承諾書（中学校・高等学校）
（中学校教諭一種免許状・高等学校教諭一種免許状：保健体育）

No.	実習施設名	所在地	受入人数
1	東京都教育委員会	東京都新宿区西新宿2－8－1	管下公立学校
2	神奈川県教育委員会	神奈川県横浜市中区日本大通33	市町村立中学校 174校 県立高等学校 142校
3	横浜市教育委員会	神奈川県横浜市西区花咲町6－145	横浜市立中学校 146校 横浜市立高等学校 9校

教育実習 組織図（連絡系統）



※実習中の問題・事故等の発生時は、上記連絡網により情報交換をするとともに、緊急を要する場合は大学「緊急連絡マニュアル」（CREDO参照）に沿って行動する。

○メディアを利用して行う授業に関する規程

平成25年9月4日

学部長会制定

(目的)

第1条 この規程は、日本体育大学学則第18条の3第2項に基づき、日本体育大学(以下「本学」という。)におけるメディアを利用して行う授業を適切に運用するために定めるものである。

(対象学生)

第2条 メディアを利用して行う授業を教室等以外の場所で受講できる学生は、次の各号に掲げた者で、試合又は合宿等の活動により、本学の公認欠席基準の条件を満たすことができない可能性があるとして認められ、学部長の承認を得た学生とする。

(1) 国際大会(オリンピック、ユニバーシアード大会、世界選手権等)に日本代表選手として選出された者

(2) ナショナル選手としてJOC、各中央競技団体等から長期間にわたる派遣依頼のある者

(3) 前第1号及び第2号に準ずる者

2 メディアを利用して行う授業の受講を希望する学生は、「n-pass」を利用して履修登録が完了していなければならない。

(授業の方法)

第3条 メディアを利用して行う授業は、教務委員会が別に定める講義科目、演習科目に限って対応するものとし、教室等以外の場所において「n-pass」のシステムを利用して実施する教育、試験等は、次の各号によるものとする。

(1) 該当する学生と授業担当教員は、長期派遣理由等に鑑みて、事前に授業の日時等の打ち合わせを十分に行って、適切な授業展開を心掛けなければならない

(2) 授業担当教員は、シラバスに記載されている内容のうち、出席できない相当分の内容について実施するものとする。

(3) 前号の教育内容については、十分な教育効果が期待できるものであること

(4) クラスプロファイル、Q&A又は電子メール等を利用し、教育等の実態が確認できる方法で行うものとする。なお、電子媒体を利用して実施できなかった場合については、登校時に集中講義を行う等の対応を実施しなければならない

(5) 当該授業の終了後、当該授業に関する学生の意見の交換の機会を確保しなければならない

2 授業担当教員は、必要に応じ、当該学生に対して補講授業を行うことができる。

(単位の認定)

第4条 当該授業科目の単位の認定は、本学学則第22条によるものとする。

2 この規程により修得が可能となる単位数は、60単位を超えないものとする。

(改廃)

第5条 この規程の改廃は、学部長会の議を経て学長が行う。

附 則

この規程は、平成26年4月1日から施行する。

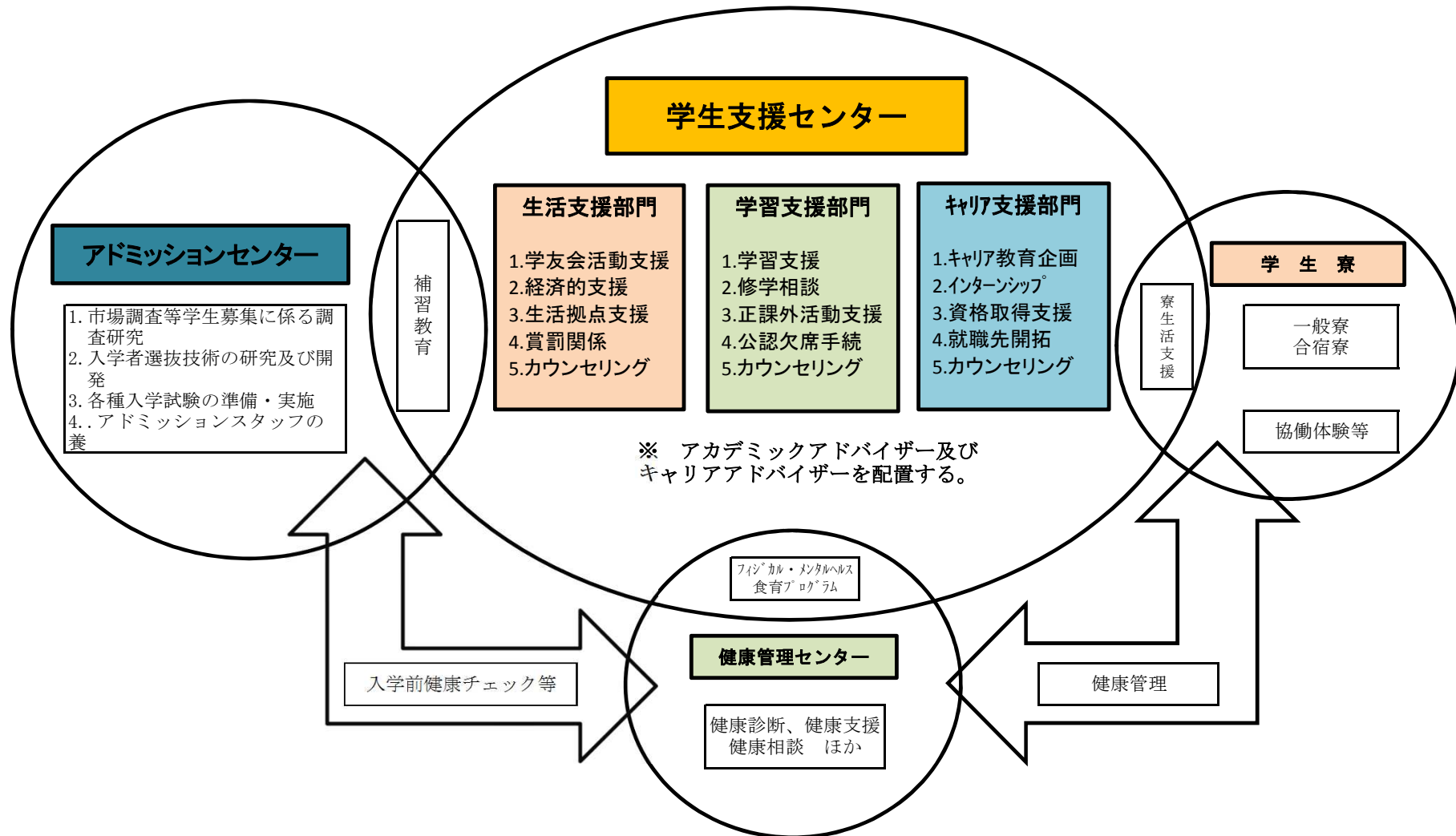
附 則

(施行日)

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

学生支援センターの機能

資料 6



日本体育大学学士課程のグランドデザイン

(資料6)

